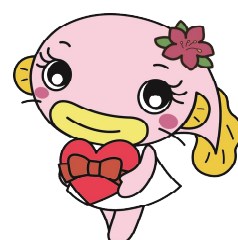


令和7年度
吉川市 男女共同参画
市民意識調査
報告書



吉川市
YOSHIKAWA CITY



目 次

調査概要	1
回答された方の状況	
F 1 性別	3
F 2 年齢	3
F 3 職業	4
F 3-1 勤務形態	5
F 4 結婚の経験	6
F 4-1 夫婦の就労状況	6
F 5 家族構成	7
F 6 子どもの有無	7
1. 男女平等について	
問 1 男女平等意識	8
問 2 日本における女性参画の課題	15
問 3 男女共同参画等に関する用語の理解度	17
問 4 市民交流センターおあしすが男女共同参画推進の拠点施設であることについての認知度	22
2. 仕事と家庭について	
問 5 性別役割分担（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）について	23
問 6 男女の役割分担の理想	25
問 7 男女の役割分担の現状	26
問 8 仕事と家庭の両立のために必要なことについて	31
問 9 女性の望ましい働き方	34
問 10 仕事、家事にあてる時間	37
問 10-1 働いている目的	40
問 10-2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面	43
問 10-3 過去の職歴の有無	45
問 10-4 現在、働いていない理由	45
問 10-5 今後の仕事について	47
3. 子育てと学校教育について	
問 11 子どもの育て方について	49
問 12 学校における男女平等教育への要望	50
4. 男女の人権について	
問 13 セクシュアル・ハラスメントや男女差別の経験の有無	52
問 14 DV経験の有無	55
問 15 DV相談の有無	62
問 15-1 DVについての相談先	63
問 15-2 DV相談をしなかった理由	64

5. 社会参画について	
問 1 6 地域活動への参加状況	67
問 1 6 - 1 地域活動の内容	68
問 1 6 - 2 地域活動に参加していない理由	69
問 1 7 男女共同参画社会実現のためにできること	71
6. 施策の要望	
問 1 8 政策への女性の意見や考え方の反映について	73
問 1 9 施策への要望	74
7. 性の多様性に関する啓発などの施策について	
問 2 0 「LGBT」という言葉の認知度	79
問 2 1 LGBTの方の生きづさらいについて	80
問 2 2 「パートナーシップ宣誓制度」	82
「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の認知度	
8. 困難な問題を抱える女性への支援について	
問 2 3 女性が抱える困難な問題について	84
問 2 4 困難な問題を抱える女性への支援に関する施策への要望	87
9. 市に対する男女共同参画・困難な問題を抱える女性への支援についての意見・要望等	
問 2 5 市に対する意見・要望等（自由記載）	89

令和7年度 男女共同参画市民意識調査 概要

1. 調査の目的

令和3年度に策定した「第4次男女共同参画基本計画」を見直し、後期計画策定のための基礎資料とするため、あわせて困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に基づく「困難な問題を抱える女性支援基本計画」策定のための基礎資料とするため、市民の男女共同参画および困難な問題を抱える女性に関する意識やニーズ等を把握することを目的とする。

2. 調査期間

令和7年10月6日（月）から令和7年11月4日（火）まで

3. 調査内容（調査票）

基本属性

- F 1 性別
- F 2 年齢（年齢階級）
- F 3 職業及び勤務形態
- F 4 結婚歴及び夫婦の就労状況
- F 5 家族構成
- F 6 子どもの有無

1. 男女平等意識について

- 問 1 男女平等意識
- 問 2 日本における女性参画の課題
- 問 3 男女共同参画等に関する用語の理解度
- 問 4 市民交流センターおあしすが男女共同参画推進の拠点施設であることについての認知度

2. 仕事と家庭について

- 問 5 性別役割分担（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）について
- 問 6 性別役割分担の理想
- 問 7 性別役割分担の現状
- 問 8 仕事と家庭の両立のために必要なことについて
- 問 9 女性の望ましい働き方
- 問 10 仕事、家事にあてる時間
- 問 10-1 働いている目的
- 問 10-2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面
- 問 10-3 過去の職歴の有無
- 問 10-4 現在、働いていない理由
- 問 10-5 今後の仕事について

3. 子育てと学校教育について

- 問 11 子どもの育て方について
- 問 12 学校における男女平等教育への要望

4. 男女の人権について

- 問 13 セクシュアル・ハラスメントや男女差別の経験の有無
- 問 14 DV経験の有無
- 問 15 DV相談の有無
- 問 15-1 DVについての相談先
- 問 15-2 DV相談をしなかった理由

5. 社会参画について

- 問 16 地域活動への参加状況
- 問 16-1 地域活動の内容

7. 性の多様性に関する啓発などの施策について
 - 問20 「LGBT」という言葉の認知度
 - 問21 LGBTの方の生きづらさ
 - 問22 「パートナーシップ宣誓制度」「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の認知度
8. 困難な問題を抱える女性への支援について
 - 問23 女性が抱える困難な問題について
 - 問24 困難な問題を抱える女性への支援に関する施策への要望
9. 市に対する男女共同参画・困難な問題を抱える女性への支援についての意見・要望等
 - 問25 男女共同参画や困難な問題を抱える女性への支援に関する意見・要望

4. 調査方法

(1) 調査対象

令和7年9月1日現在で住民基本台帳に登録されている市内在住の18歳以上の男女61,078人のうち1,500人

(2) 対象者抽出方法

対象者から無作為抽出

5. 回収状況

	調査数	有効回収数	有効回収率
全体	1,500	573	38.2%
男性	745	255	34.2%
女性	755	317	42.0%
その他		1	-

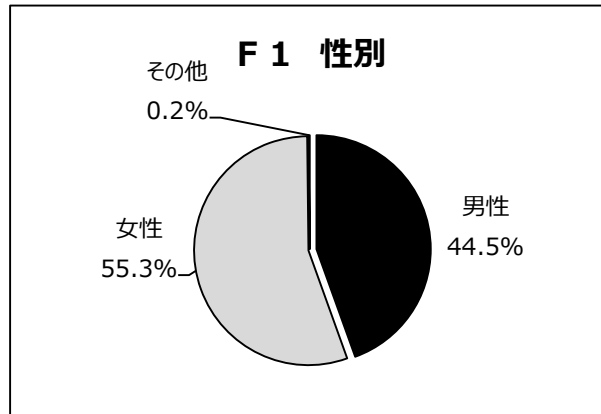
うち電子申請回答211件
(有効回収数の36.8%)

※自身の性別について「その他」と回答された方については、有効回収数が1件であり、グラフでの可視化が困難であったため、グラフ表記をしていない。

回答された方の状況

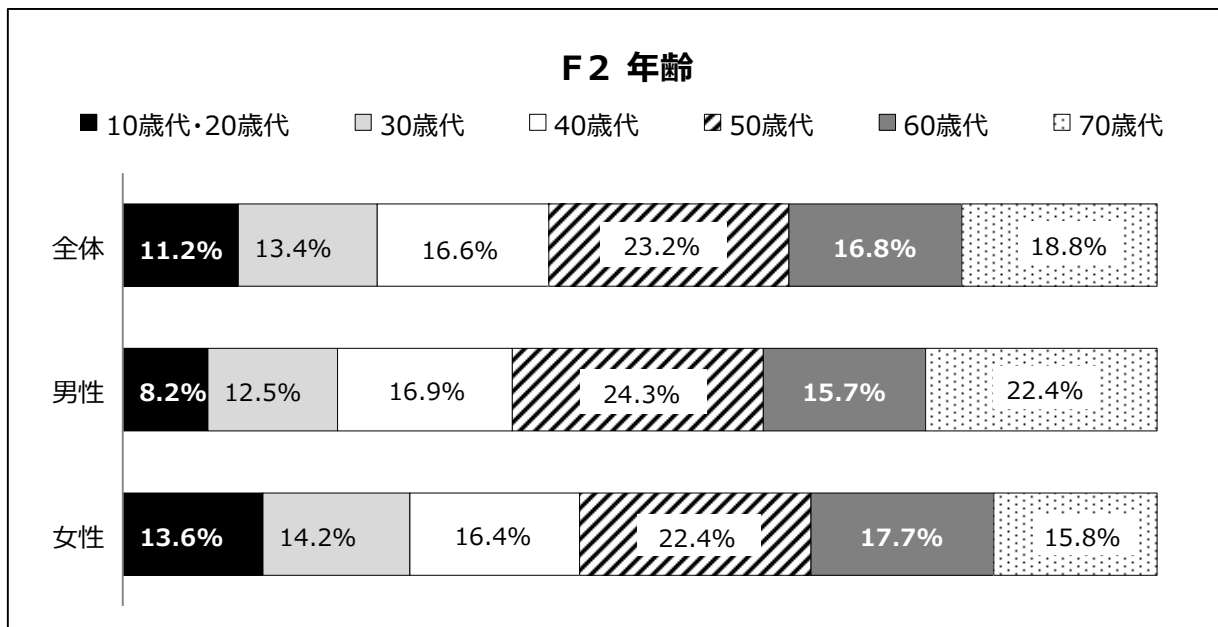
F 1 性別

選択項目		人数	構成比
1	男性	255	44.5%
2	女性	317	55.3%
3	その他	1	0.2%
合計		573	100.0%



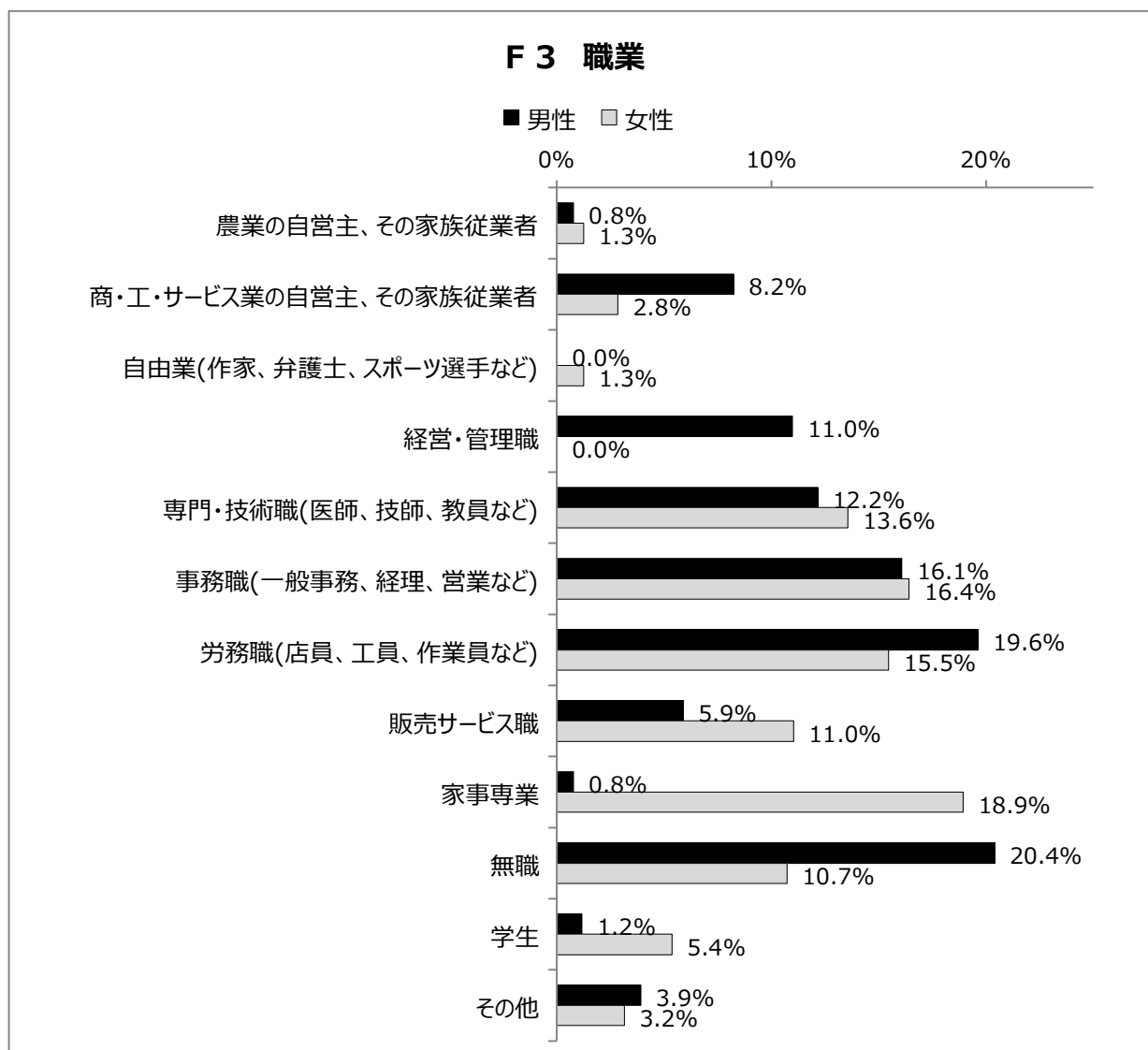
F 2 年齢

選択項目		全体		男性		女性		その他	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1	18歳～29歳	64	11.2%	21	8.2%	43	13.6%	0	0.0%
2	30歳～39歳	77	13.4%	32	12.5%	45	14.2%	0	0.0%
3	40歳～49歳	95	16.6%	43	16.9%	52	16.4%	0	0.0%
4	50歳～59歳	133	23.2%	62	24.3%	71	22.4%	0	0.0%
5	60歳～69歳	96	16.8%	40	15.7%	56	17.7%	0	0.0%
6	70歳～	108	18.8%	57	22.4%	50	15.8%	1	100.0%
合計		573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



F 3 職業

選択項目		全体		男性		女性		その他	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1	農業の自営主、その家族従業者	6	1.0%	2	0.8%	4	1.3%	0	0.0%
2	商・工・サービス業の自営主、その家族従業者	30	5.2%	21	8.2%	9	2.8%	0	0.0%
3	自由業(作家、弁護士、スポーツ選手など)	4	0.7%	0	0.0%	4	1.3%	0	0.0%
4	経営・管理職	28	4.9%	28	11.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	専門・技術職(医師、技師、教員など)	74	12.9%	31	12.2%	43	13.6%	0	0.0%
6	事務職(一般事務、経理、営業など)	93	16.2%	41	16.1%	52	16.4%	0	0.0%
7	労務職(店員、工員、作業員など)	99	17.3%	50	19.6%	49	15.5%	0	0.0%
8	販売サービス職	50	8.7%	15	5.9%	35	11.0%	0	0.0%
9	家事専業	62	10.8%	2	0.8%	60	18.9%	0	0.0%
10	無職	87	15.2%	52	20.4%	34	10.7%	1	100.0%
11	学生	20	3.5%	3	1.2%	17	5.4%	0	0.0%
12	その他	20	3.5%	10	3.9%	10	3.2%	0	0.0%
合計		573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

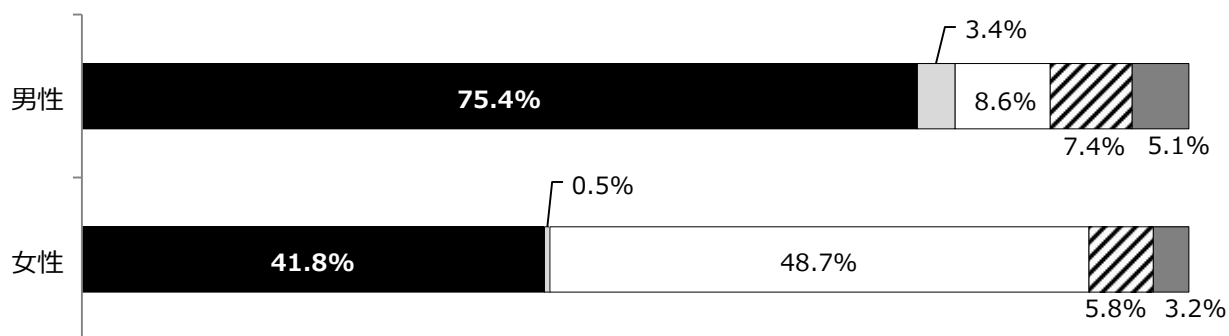


F 3－1 勤務形態（F 3で選択肢4から8を回答した方のみ）

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 正規の社員・職員	211	58.0%	132	75.4%	79	41.8%	0	－
2 非常勤の社員・職員	7	1.9%	6	3.4%	1	0.5%	0	－
3 パート・アルバイト	107	29.4%	15	8.6%	92	48.7%	0	－
4 派遣・契約社員	24	6.6%	13	7.4%	11	5.8%	0	－
5 その他	15	4.1%	9	5.1%	6	3.2%	0	－
合計	364	100.0%	175	100.0%	189	100.0%	0	－

F 3－1 勤務形態

■ 正規の社員・職員 □ 非常勤の社員・職員 □ パート・アルバイト ▨ 派遣・契約社員 ■ その他

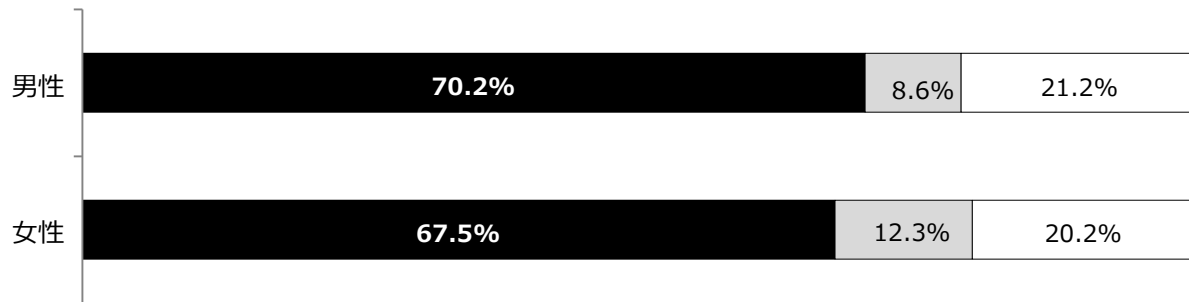


F 4 結婚の経験

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 結婚している	393	68.6%	179	70.2%	214	67.5%	0	0.0%
2 結婚後、離別・死別した	62	10.8%	22	8.6%	39	12.3%	1	100.0%
3 結婚経験はない	118	20.6%	54	21.2%	64	20.2%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

F 4 結婚の経験

■ 結婚している □ 結婚後、離別・死別した □ 結婚経験はない



F 4 - 1 夫婦の就労状況 (F 4で選択肢1を回答した方のみ)

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 共働きしている	235	59.8%	109	60.9%	126	58.9%	0	-
2 夫だけ働いている	78	19.8%	32	17.9%	46	21.5%	0	-
3 妻だけ働いている	23	5.9%	13	7.3%	10	4.7%	0	-
4 夫婦とも無職である	57	14.5%	25	14.0%	32	15.0%	0	-
合計	393	100.0%	179	100.0%	214	100.0%	0	-

F 4 - 1 夫婦の就労状況

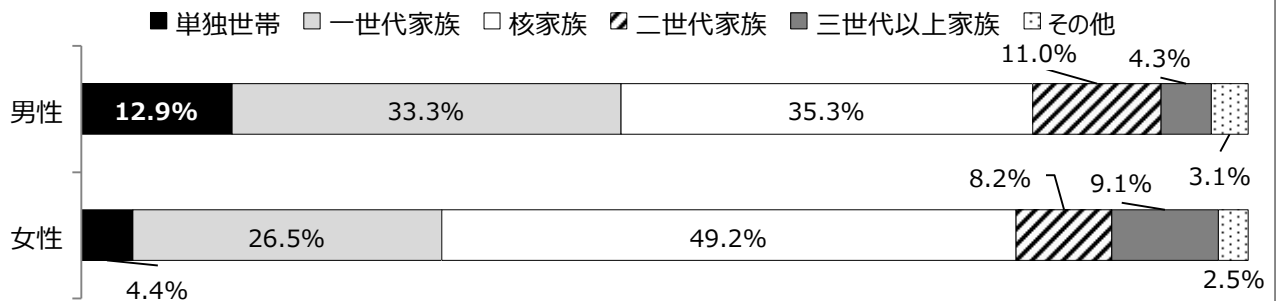
■ 共働きしている □ 夫だけ働いている □ 妻だけ働いている ▨ 夫婦とも無職である



F 5 家族構成

選択項目		全体		男性		女性		その他	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1	単独世帯(一人暮らし)	47	8.2%	33	12.9%	14	4.4%	0	0.0%
2	一世代家族 (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	169	29.5%	85	33.3%	84	26.5%	0	0.0%
3	核家族 (親と未婚の子ども)	246	42.9%	90	35.3%	156	49.2%	0	0.0%
4	二世世代家族 (親と子ども夫婦)	54	9.4%	28	11.0%	26	8.2%	0	0.0%
5	三世代以上家族 (親と子どもと孫、親と子どもと孫と曾孫)	40	7.0%	11	4.3%	29	9.1%	0	0.0%
6	その他	17	3.0%	8	3.1%	8	2.5%	1	100.0%
合計		573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

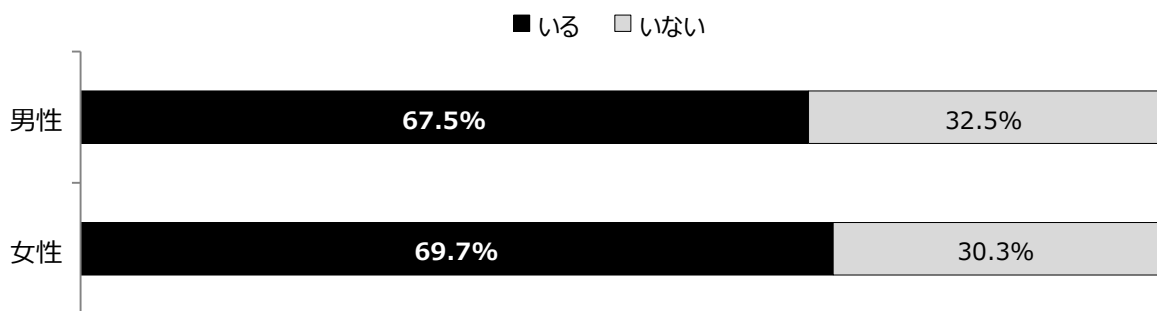
F 5 家族構成



F 6 子どもの有無

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
いる	394	68.8%	172	67.5%	221	69.7%	1	100.0%
いない	179	31.2%	83	32.5%	96	30.3%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

F 6 子どもの有無



1. 男女平等について

問 1 男女平等意識

問 1 次の（ア）～（キ）の場面で、あなたが感じる男女の平等感について、適当と思われるものを選んでください。（それぞれ1つだけ選択）

◎平等感は、「学校教育の場」や「家庭の中で」が高くなっている。

※令和2年度調査から各項目を「男性が優遇されている」「平等」「女性が優遇されている」の3択に変更

（ア）家庭の中で

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	157	27.4%	32	12.5%	124	39.1%	1	100.0%
平等	372	64.9%	198	77.6%	174	54.9%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	44	7.7%	25	9.8%	19	6.0%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

（イ）職場の中で

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	227	39.6%	81	31.8%	145	45.7%	1	100.0%
平等	305	53.2%	146	57.3%	159	50.2%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	41	7.2%	28	11.0%	13	4.1%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

（ウ）社会通念や風潮で

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	328	57.2%	115	45.1%	212	66.9%	1	100.0%
平等	200	34.9%	110	43.1%	90	28.4%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	45	7.9%	30	11.8%	15	4.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

（エ）法律や制度の上で

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	235	41.0%	72	28.2%	162	51.1%	1	100.0%
平等	297	51.8%	153	60.0%	144	45.4%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	41	7.2%	30	11.8%	11	3.5%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

(オ) 社会活動の場で（PTAや地域活動など）

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	177	30.9%	51	20.0%	125	39.4%	1	100.0%
平等	343	59.9%	172	67.5%	171	53.9%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	53	9.2%	32	12.5%	21	6.6%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

(カ) 学校教育の場で

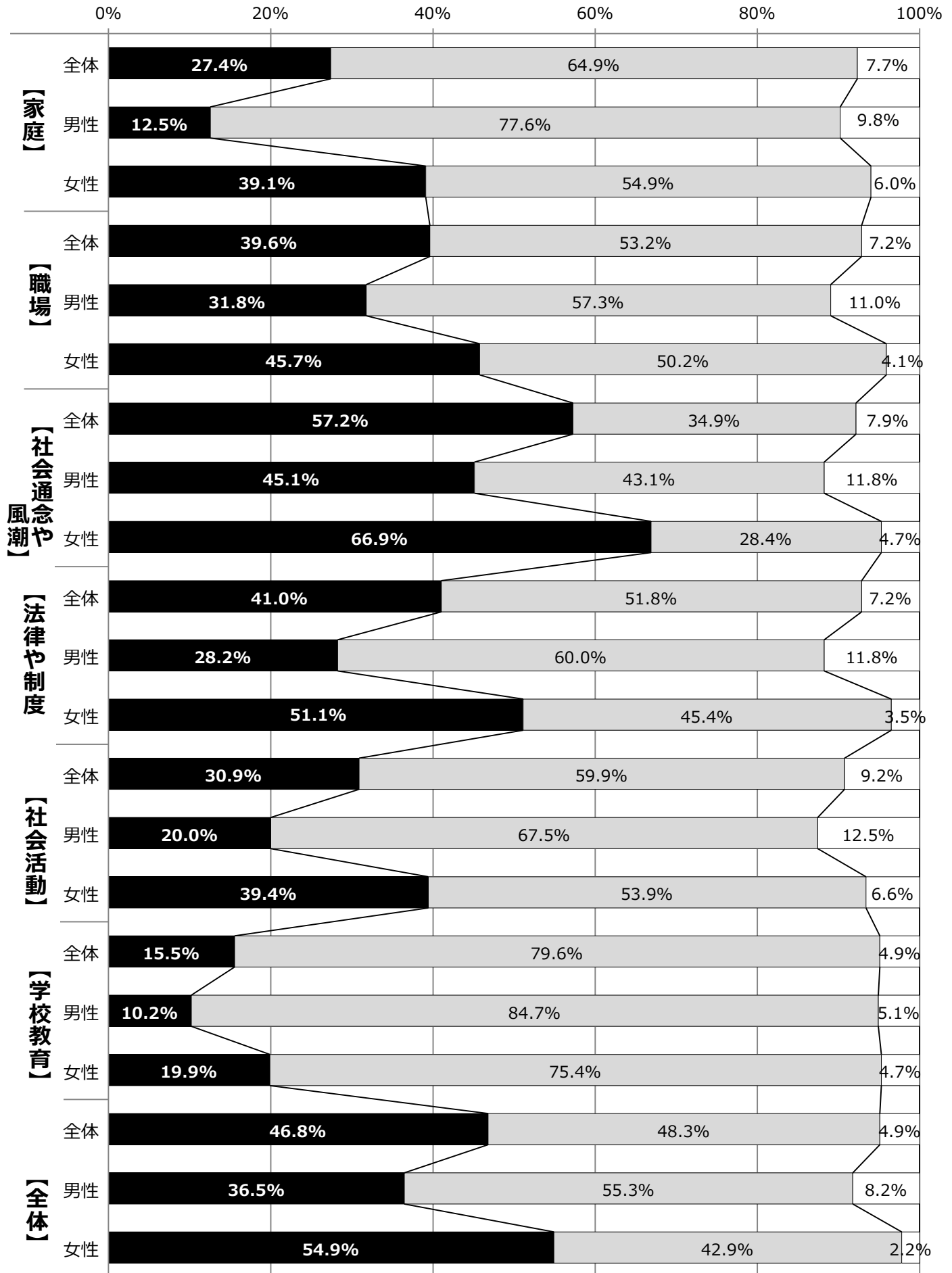
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	89	15.5%	26	10.2%	63	19.9%	0	0.0%
平等	456	79.6%	216	84.7%	239	75.4%	1	100.0%
女性の方が優遇されている	28	4.9%	13	5.1%	15	4.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

(キ) 全体として

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性の方が優遇されている	268	46.8%	93	36.5%	174	54.9%	1	100.0%
平等	277	48.3%	141	55.3%	136	42.9%	0	0.0%
女性の方が優遇されている	28	4.9%	21	8.2%	7	2.2%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

問1 男女平等意識について

■ 男性優遇 □ 平等 □ 女性優遇



●各分野の男女平等意識●

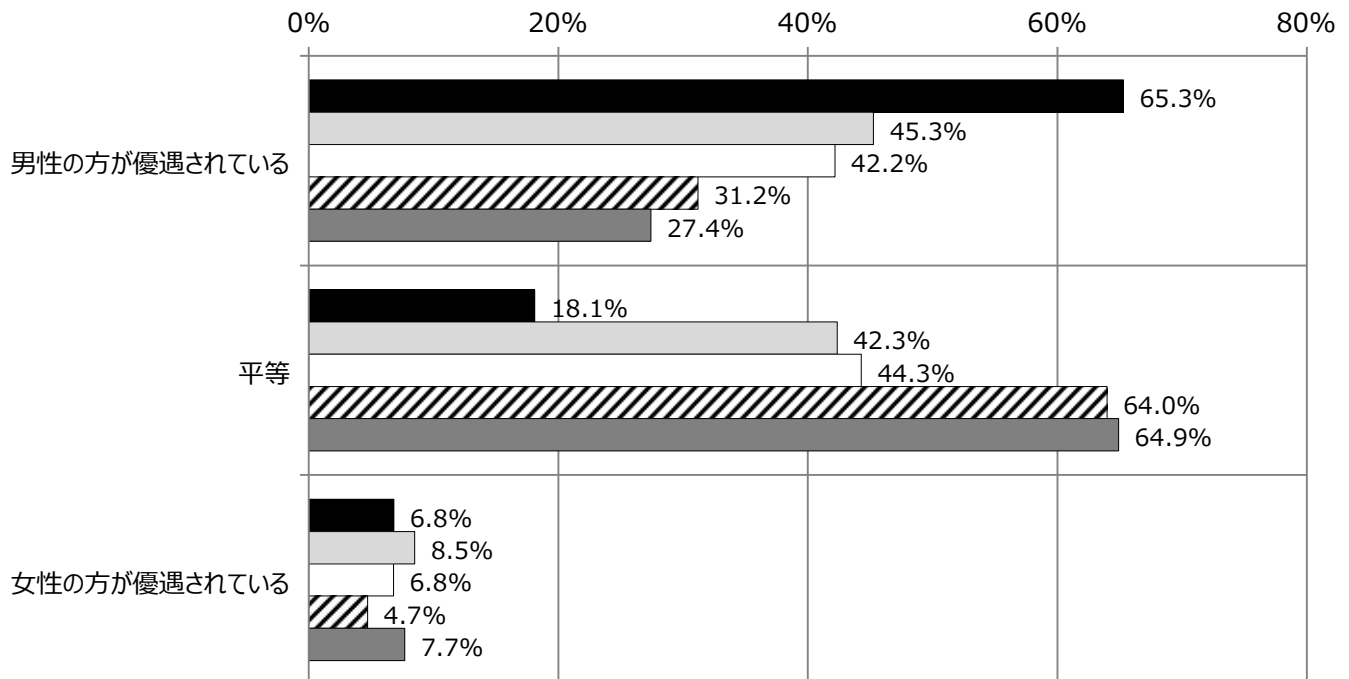
◎平等と感じている項目は、「学校教育の場」(79.6%)が最も多く、次いで「家庭の中で」(64.9%)、「社会活動の場で」(59.9%)が高くなっている。

◎平等と感じている割合が低い項目は、「社会通念や風潮で」(34.9%)、次いで「全体として」(48.3%)となっている。

◎全ての項目で男性より女性で「男性優遇」の割合が高くなっている。男性では「平等」と感じる割合が女性よりも高く、性別による男女平等意識に違いがみられる。

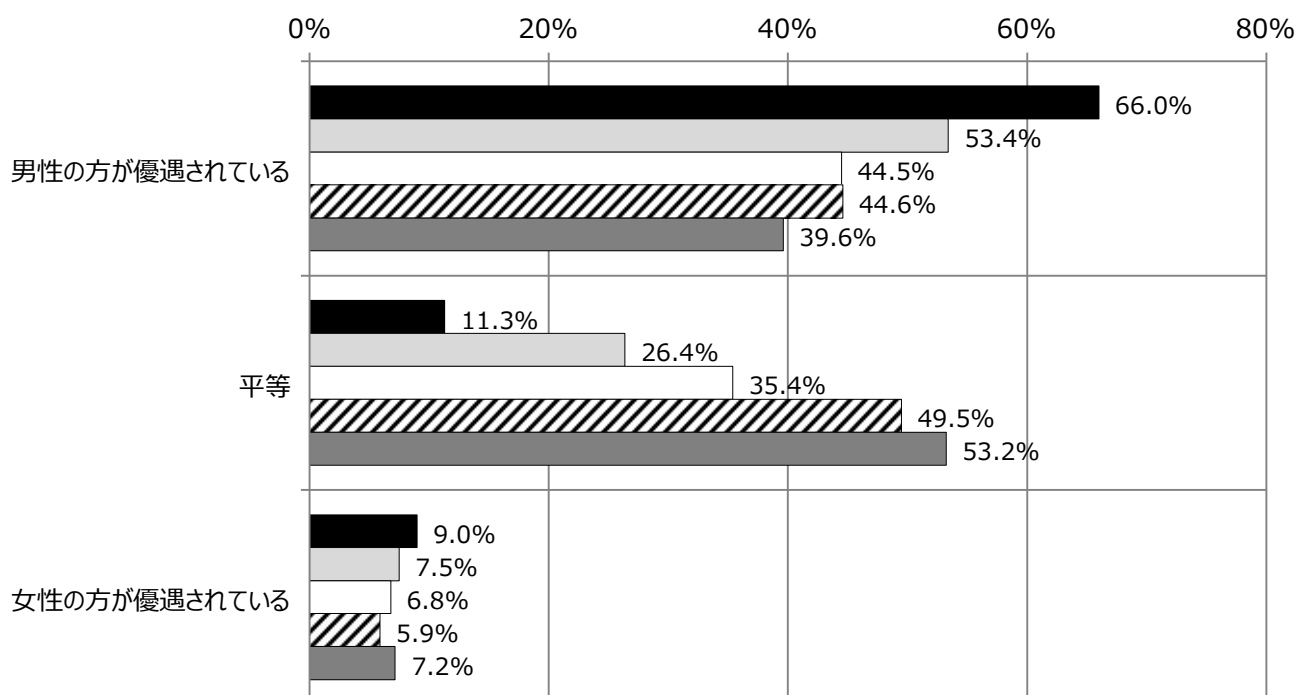
問1 (ア) 家庭の中で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



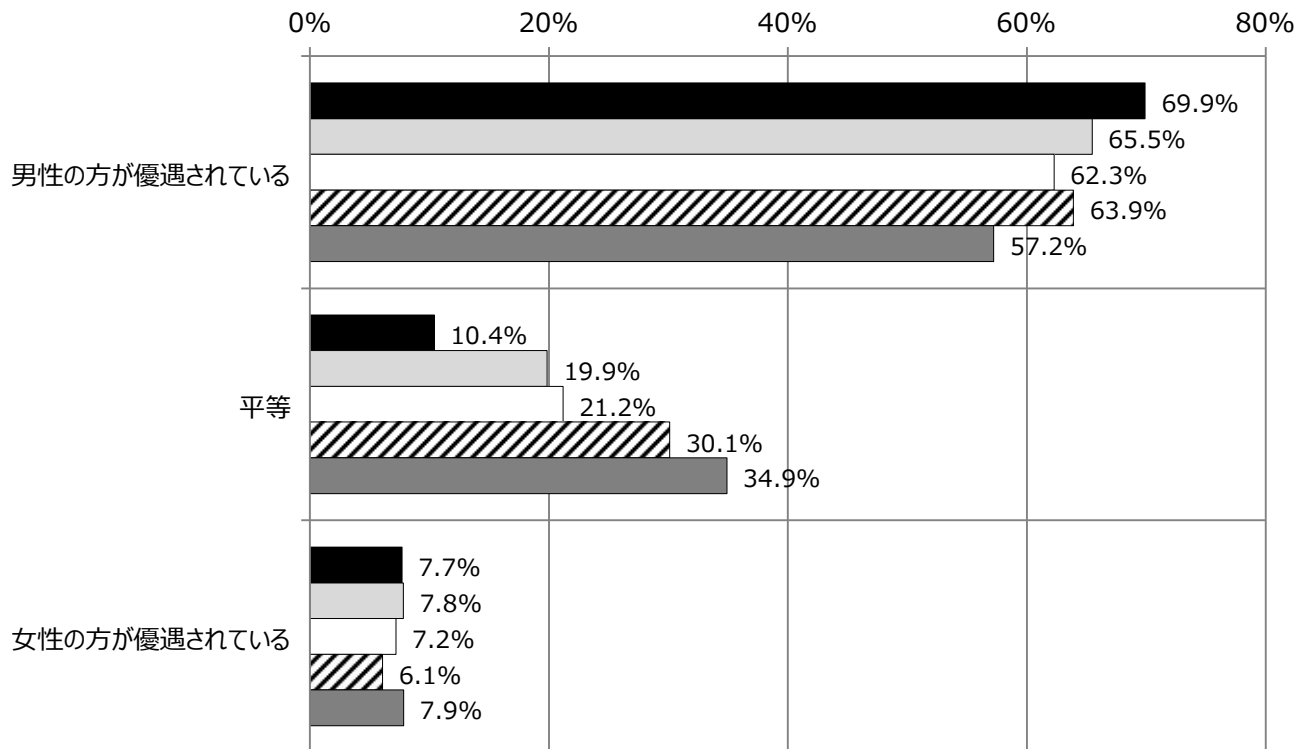
問1 (イ) 職場の中で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



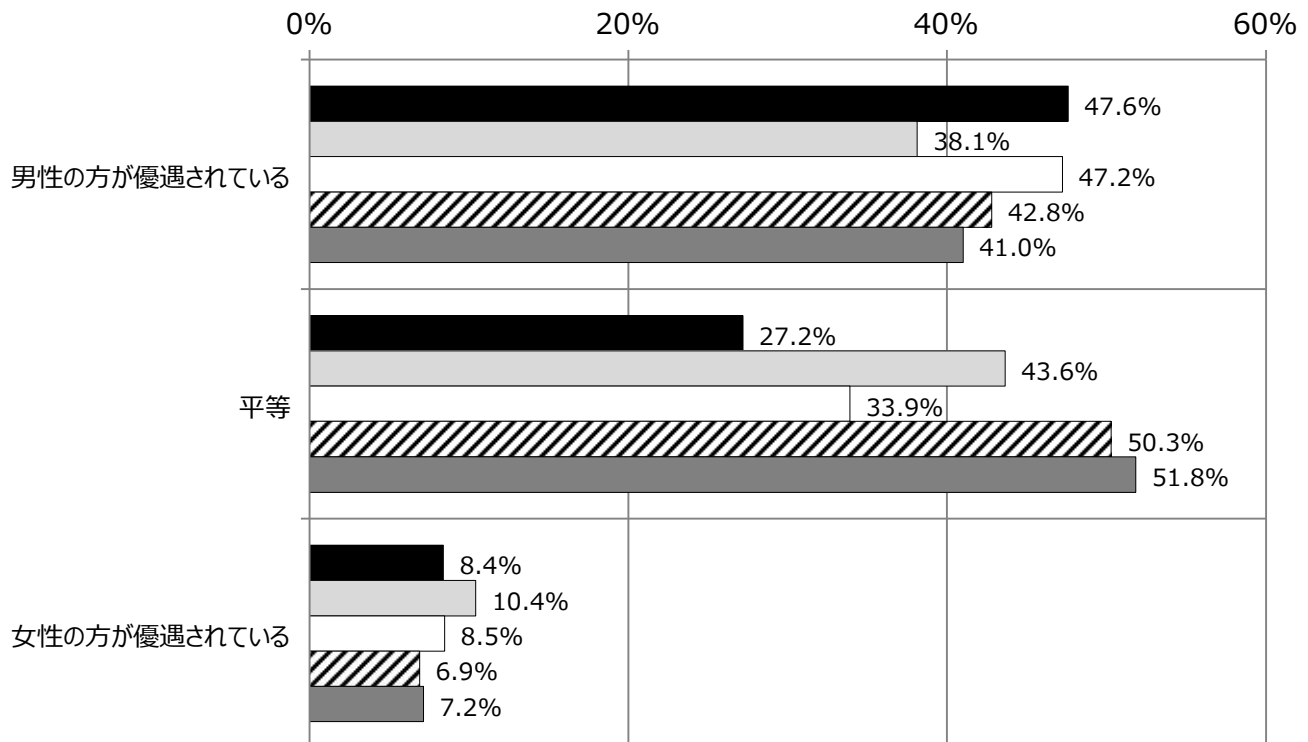
問 1（ウ）社会通念や風潮で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



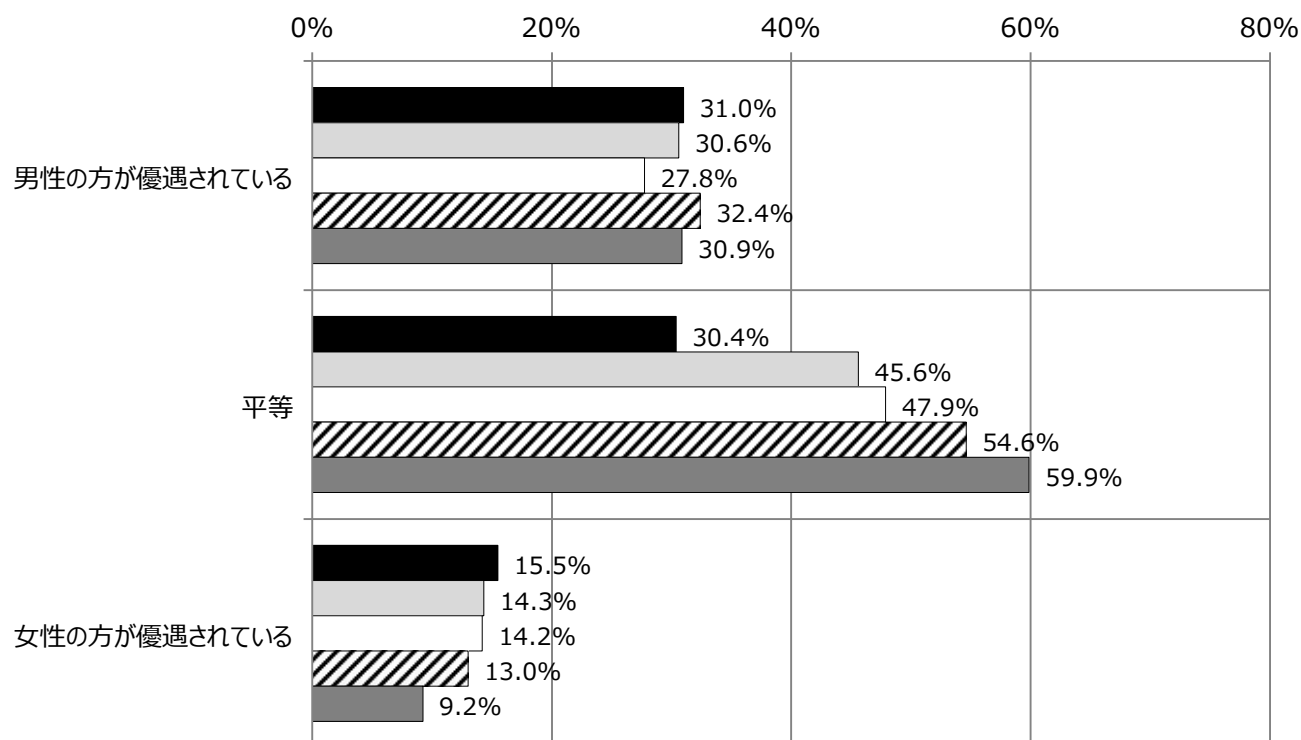
問 1（エ）法律や制度の上で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ F7



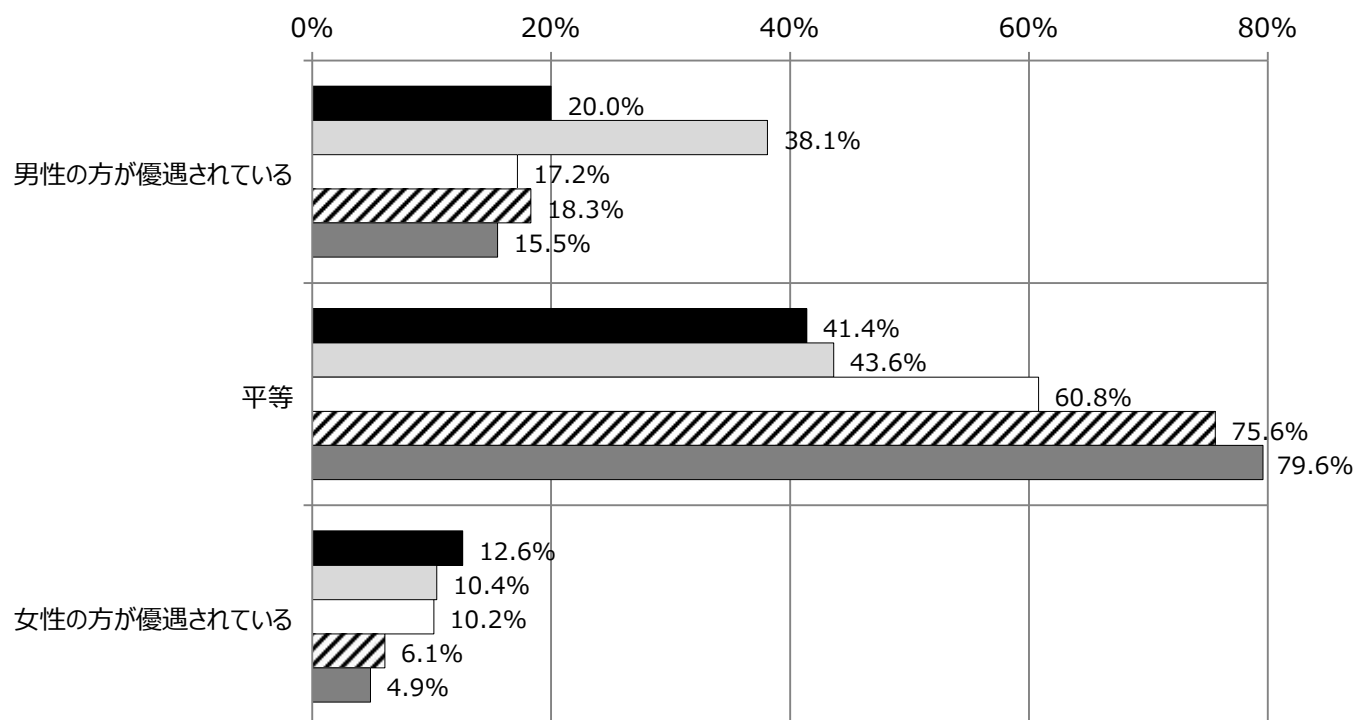
問 1（オ）社会活動の場で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ F7



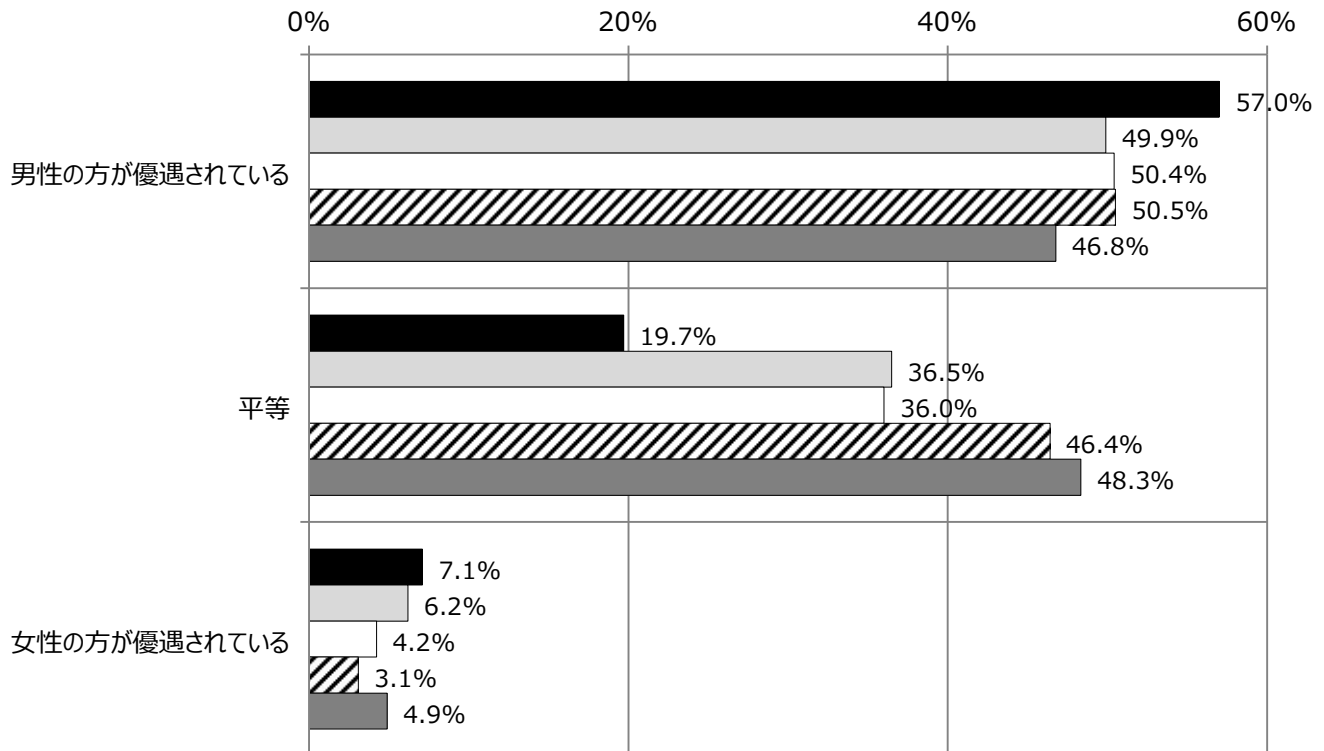
問 1（カ）学校教育の場で【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



問1（キ）全体として【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



●男女平等意識の経年比較●

◎全ての項目において、過去調査と比較し、「平等」と回答した方の割合が最も多くなっている。

◎【家庭の中で】では、「平等」(64.9%)が調査ごとに増加するとともに、「男性の方が優遇されている」が減少している。一方で、「女性の方が優遇されている」(7.7%)が令和2年度(4.7%)と比較すると3ポイント増加している。

◎【職場の中で】では、「平等」(53.2%)が調査ごとに増加しており、初めて半数を超えた。一方で、「男性の方が優遇されている」(39.6%)は令和2年度(44.6%)より5.0ポイント減少した。

◎【社会通念や風潮で】では、依然として「男性の方が優遇されている」(57.2%)が半数を占めているが、「平等」(34.9%)は調査ごとに増加傾向にあり、令和2年度(30.1%)より4.8ポイント増加している。

◎【法律や制度の上で】では、「平等」(51.8%)が令和2年度調査(50.3%)と比較すると1.5ポイント増加し、「平等」を選択する人が半数を超えた。

◎【社会活動の場で】では、「平等」(59.9%)が調査ごとに増加し、半数を超えた。令和2年度(54.6%)と比較すると5.3ポイント増加、平成27年度(47.9)と比較すると12ポイント増加している。

◎【学校教育の場で】では、「平等」(79.6%)が調査ごとに増加し、8割近くとなっている。

◎【全体として】では、「平等」(48.3%)は令和2年度調査(46.4%)と比較すると1.9ポイント増加した。「平等」(48.3%)が「男性の方が優遇されている」(46.8%)をわずかに上回り、これまでの調査で初めて最も多い回答となった。その一方で、「女性の方が優遇されている」(4.9%)が令和2年度(3.1%)と比較すると1.8ポイント増加している。

問 2 日本における女性参画の課題

問 2 日本における女性の参画には、課題があると言われています。その理由はなぜか、あなたの考えに最も近いものを次の中から、選んでください。(1つだけ選択)

◎日本における女性の参画が進まないのは、「仕事と家事・育児・介護等の両立を支援する制度がない、足りない」と考えている人が多い。

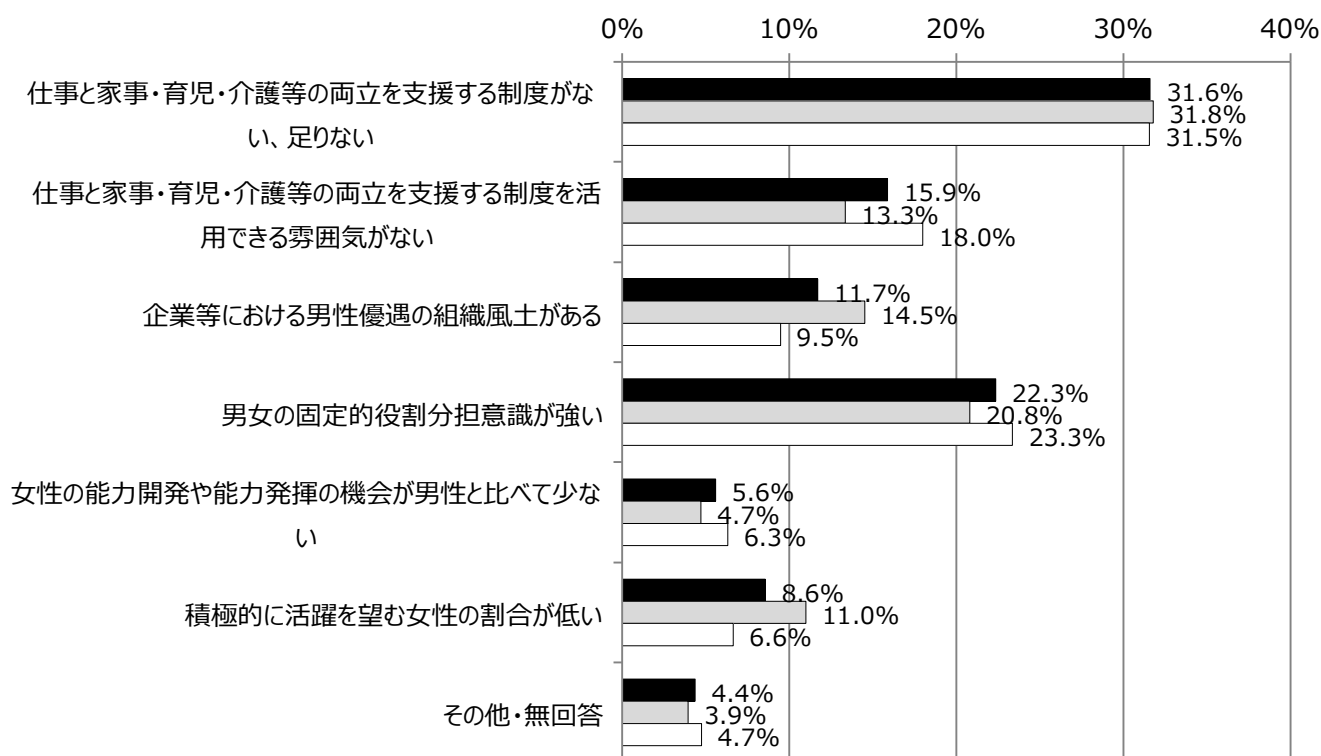
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事と家事・育児・介護等の両立を支援する制度がない、足りない	181	31.6%	81	31.8%	100	31.5%	0	0.0%
仕事と家事・育児・介護等の両立を支援する制度を活用できる雰囲気がない	91	15.9%	34	13.3%	57	18.0%	0	0.0%
企業等における男性優遇の組織風土がある	67	11.7%	37	14.5%	30	9.5%	0	0.0%
男女の固定的役割分担意識が強い	128	22.3%	53	20.8%	74	23.3%	1	100.0%
女性の能力開発や能力発揮の機会が男性と比べて少ない	32	5.6%	12	4.7%	20	6.3%	0	0.0%
積極的に活躍を望む女性の割合が低い	49	8.6%	28	11.0%	21	6.6%	0	0.0%
その他・無回答	25	4.4%	10	3.9%	15	4.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

女性だからという主語で語る時点で、平等感がない。今は意識しすぎていると感じる。	男性	30歳代
女性の都合の良いことばかり考えていると思う。	男性	30歳代
課題に直面したことがない。	男性	40歳代
女はズルい。	男性	50歳代
育児・介護と仕事を両立する制度はあっても、長期で利用するのは女性。	女性	50歳代
平等だから同じライフスタイルでなくてはならない意識が強すぎる。違いを明確に尊重、理解しあえてこそ平等だと思う。	女性	50歳代
男性の家事・育児・介護等への意識・知識・やる気、すべて低いと思う。	女性	60歳代
子どもの頃からの教育。	女性	60歳代
仕事と家事育児介護の両立支援の精度はあれど、企業の勤務実態とそれぞれの制度がうまくかみ合って活用出来ているかは少し疑問。	男性	60歳代
現状のままで良い。	女性	60歳代
男と女では物の見かたがちがうと思う。	女性	70歳以上
女性の場合、総合的に感情移入が強い。	男性	70歳以上
男女平等について、家庭生活において夫婦の役割は、昭和時代からは現在はずい分改善されていると思います。	女性	70歳以上

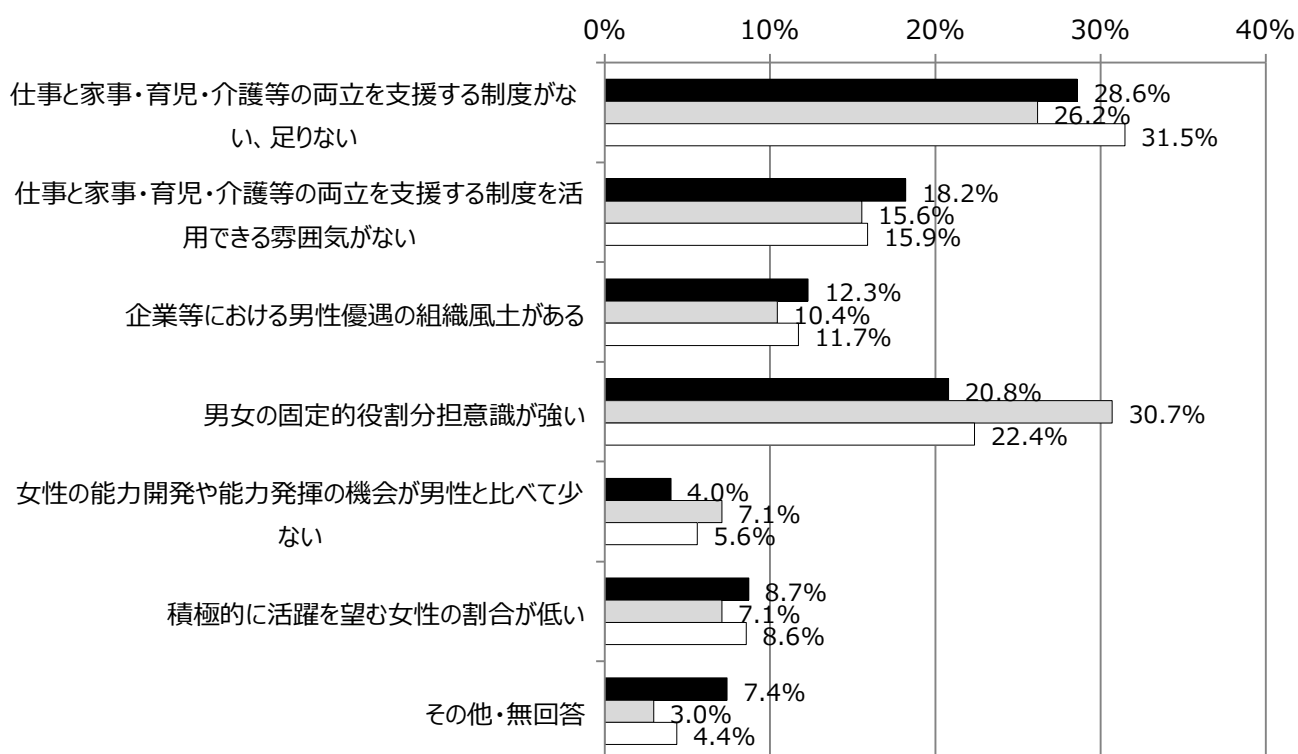
問2 日本における女性参画の課題

■ 全体 ■ 男性 □ 女性



問2 日本における女性参画の課題【経年比較】

■ H27 ■ R2 □ R7



● 日本における女性参画の課題 ●

◎令和2年度調査では、男女ともに「男女の固定的役割分担意識が強い」（男性29.8%、女性31.4%）の割合が最も高かったが、今回調査では、男女ともに「仕事と家事・育児・介護等の両立支援制度がない、足りない」（男性31.8%、女性31.5%）と考える方の割合が高く、平成27年度調査と同様となった。次いで、男女とも「男女の固定的役割分担意識が強い」（男性20.8%、女性23.3%）となっている。

問3 男女共同参画等に関する用語の理解度

問3 現在、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度の整備が進められていますが、あなたは次のような男女共同参画に関連する法律や言葉を知っていますか。（それぞれ1つだけ選択）

◎男女ともに「男女雇用機会均等法」や「ワーク・ライフ・バランス」、「LGBT」、「ドメスティック・バイオレンス」、「セクシュアル・ハラスメント」では、比較的内容まで把握している割合が高い。

◎一方で、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」や「吉川市男女共同参画推進条例」「吉川市配偶者暴力相談支援センター」については、「知らない」と回答している方の割合が高い。

選択項目	男女共同参画社会基本法							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	62	10.8%	29	11.4%	33	10.4%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	270	47.1%	134	52.5%	135	42.6%	1	100.0%
知らない	241	42.1%	92	36.1%	149	47.0%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	女子差別撤廃条約							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	42	7.3%	20	7.8%	22	6.9%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	232	40.5%	102	40.0%	130	41.0%	0	0.0%
知らない	299	52.2%	133	52.2%	165	52.1%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	男女雇用機会均等法							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	243	42.4%	116	45.5%	126	39.7%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	239	41.7%	111	43.5%	128	40.4%	0	0.0%
知らない	91	15.9%	28	11.0%	63	19.9%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	34	5.9%	13	5.1%	21	6.6%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	186	32.5%	91	35.7%	95	30.0%	0	0.0%
知らない	353	61.6%	151	59.2%	201	63.4%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	22	3.8%	9	3.5%	13	4.1%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	178	31.1%	74	29.0%	103	32.5%	1	100.0%
知らない	373	65.1%	172	67.5%	201	63.4%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	ワーク・ライフ・バランス							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	230	40.1%	112	43.9%	117	36.9%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	231	40.3%	95	37.3%	136	42.9%	0	0.0%
知らない	112	19.5%	48	18.8%	64	20.2%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	LGBT							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	317	55.3%	134	52.5%	182	57.4%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	151	26.4%	81	31.8%	70	22.1%	0	0.0%
知らない	105	18.3%	40	15.7%	65	20.5%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	DV（ドメスティック・バイオレンス）							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	456	79.6%	192	75.3%	263	83.0%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	87	15.2%	53	20.8%	34	10.7%	0	0.0%
知らない	30	5.2%	10	3.9%	20	6.3%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	セクシュアル・ハラスメント							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	477	83.2%	207	81.2%	269	84.9%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	76	13.3%	44	17.3%	32	10.1%	0	0.0%
知らない	20	3.5%	4	1.6%	16	5.0%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	吉川市男女共同参画推進条例							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	23	4.0%	10	3.9%	13	4.1%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	151	26.4%	67	26.3%	83	26.2%	1	100.0%
知らない	399	69.6%	178	69.8%	221	69.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

選択項目	吉川市配偶者暴力相談支援センター							
	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	37	6.5%	9	3.5%	28	8.8%	0	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	134	23.4%	56	22.0%	78	24.6%	0	0.0%
知らない	402	70.2%	190	74.5%	211	66.6%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

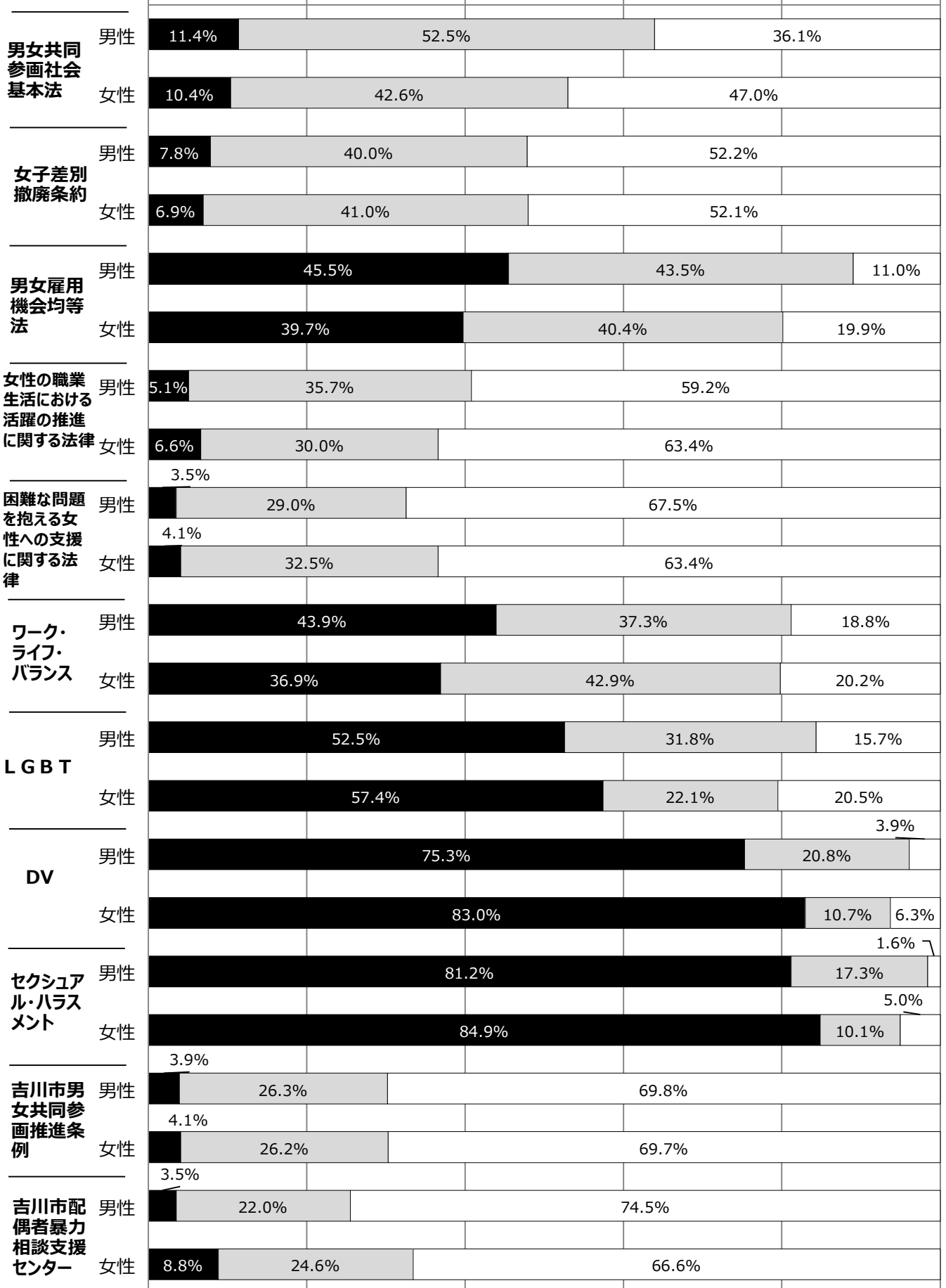
問3 男女共同参画等に関する用語の理解度

■ 内容まで知っている

□ 聞いたことはあるが、内容までは知らない

□ 知らない

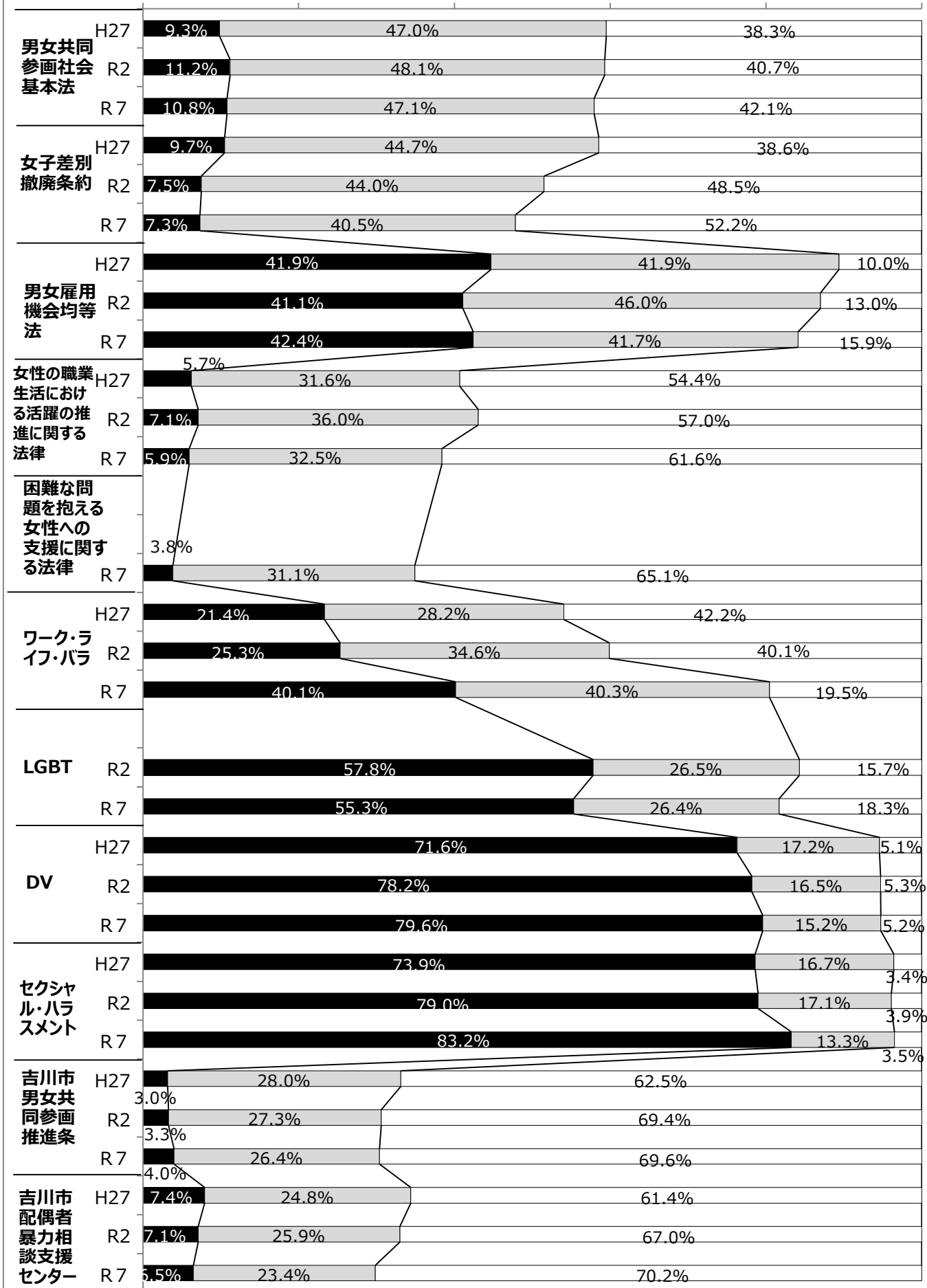
0% 20% 40% 60% 80% 100%



問3 男女共同参画等に関する用語の理解度【経年比較】

■ 内容まで知っている □ 聞いたことはあるが内容は知らない □ 知らない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

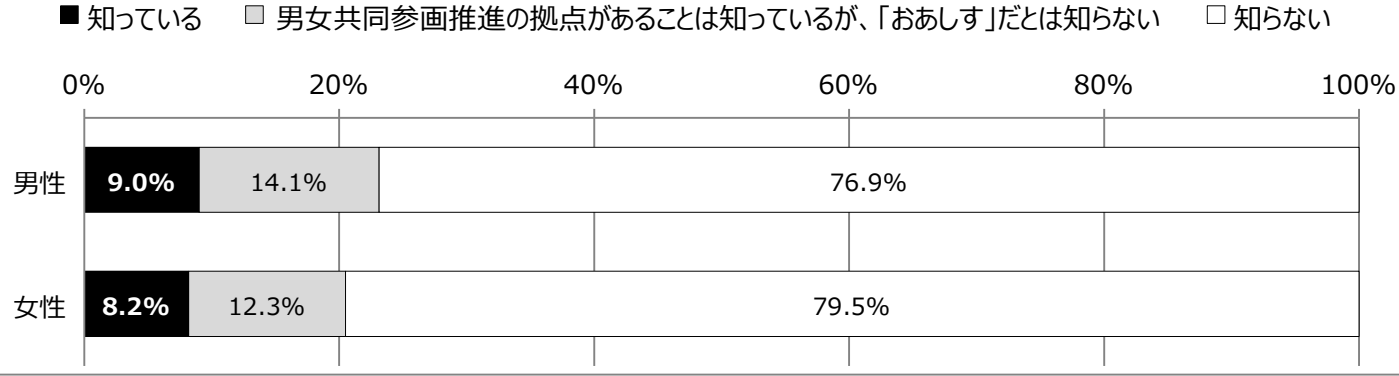


問4 市民交流センターおあしすが男女共同参画推進の拠点施設であることについての認知度

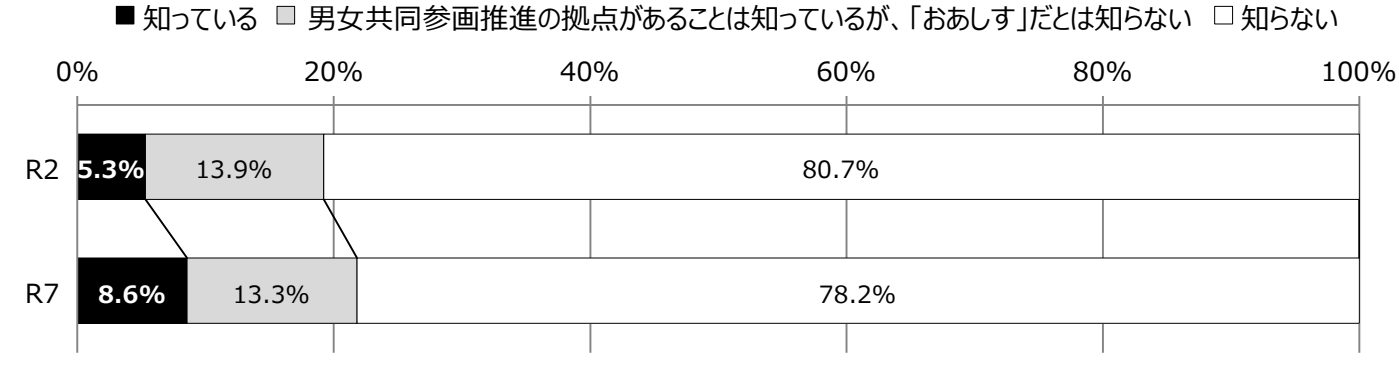
問4 吉川市民交流センター「おあしす」の設置目的の一つに「男女共同参画社会の実現」があります。あなたは、「おあしす」が男女共同参画推進の拠点施設であることを知っていますか。(1つだけ選択)

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	49	8.6%	23	9.0%	26	8.2%	0	0.0%
男女共同参画推進の拠点があることは知っているが、「おあしす」だとは知らない	76	13.3%	36	14.1%	39	12.3%	1	100.0%
知らない	448	78.2%	196	76.9%	252	79.5%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

問4 市民交流センターおあしすが「男女共同参画の拠点施設」であることについての認知度



問4 市民交流センターおあしすが「男女共同参画の拠点施設」であることについての認知度【経年比較】



●男女共同参画に関する用語の認知状況●

◎男女ともに「DV(ドメスティック・バイオレンス)」（男性75.3%、女性83.0%）、「セクシュアル・ハラスメント」（男性81.2%、女性84.9%）は約8割が内容までを把握しており、認知が広がっている。

◎法制度のうち、「男女雇用機会均等法」は、比較的内容まで把握している割合が高くなっている（男性45.5%、女性39.7%）。その一方で、令和6年に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」については、男女ともに「知らない」（男性67.5%、女性63.4%）が6割を超えており、認知度が低くなっている。

◎吉川市に関連する「吉川市男女共同参画推進条例」および「吉川市配偶者暴力相談支援センター」についても、「知らない」と答えた方の割合がそれぞれ約7割で最も多く、認知度が低くなっている。

◎市民交流センターおあしすが「男女共同参画推進の拠点施設」であることについては、全体で「知っている」（8.6%）は1割未満に留まっており、「知らない」（78.2%）が大半を占めているものの、「知っている」（8.6%）は令和2年度（5.3%）と比較すると、3.3ポイント増加している。

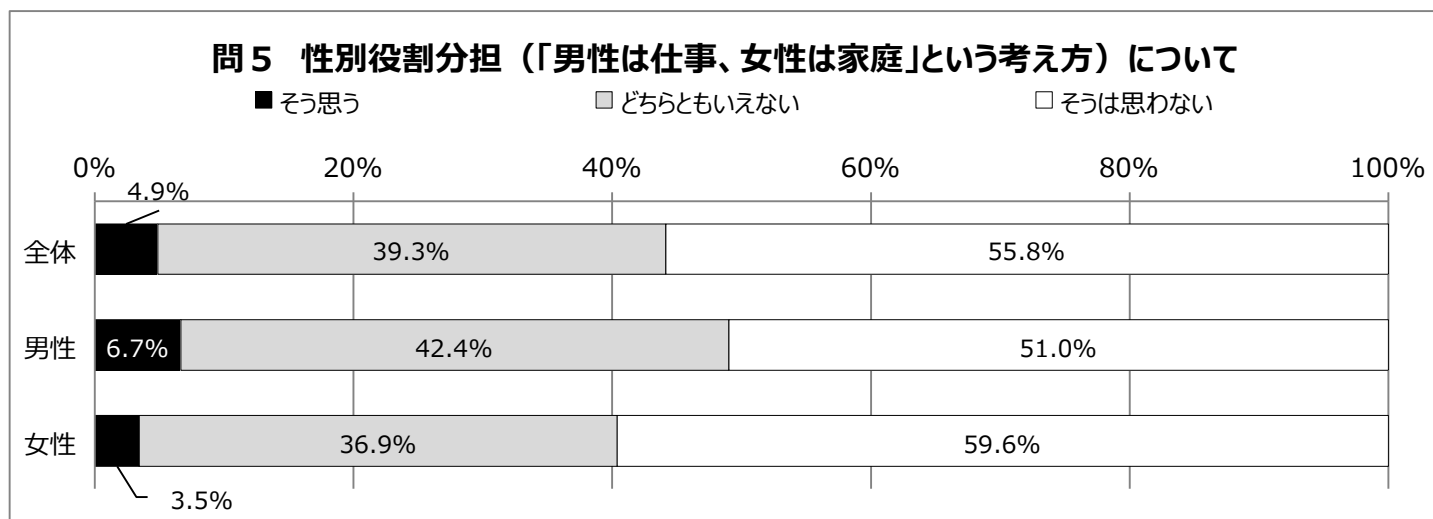
2. 仕事と家庭について

問5 性別役割分担（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）について

問5 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（1つだけ選択）

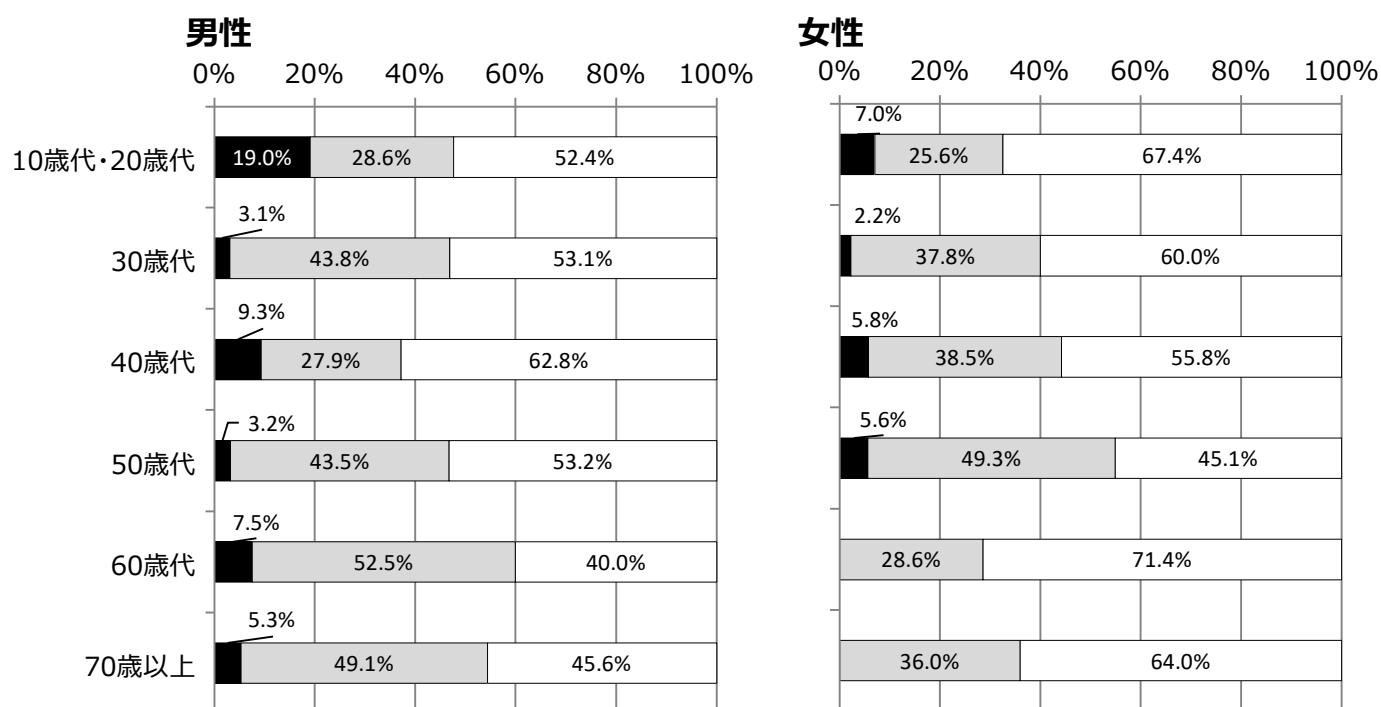
◎全体で半数以上が「そうは思わない」と考えており、男性よりも女性に「そうは思わない」と回答した方が多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	28	4.9%	17	6.7%	11	3.5%	0	0.0%
どちらともいえない	225	39.3%	108	42.4%	117	36.9%	0	0.0%
そうは思わない	320	55.8%	130	51.0%	189	59.6%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



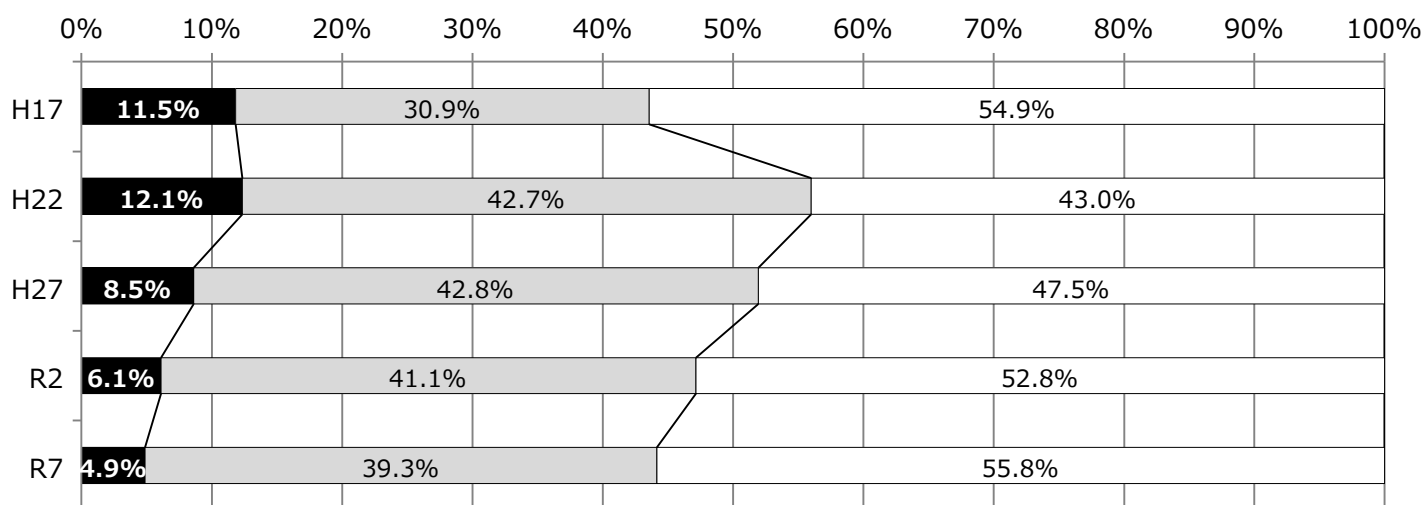
問5 性別役割分担（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）について【性別年代別】

■ そう思う □ どちらともいえない □ そうは思わない



問5 性別役割分担（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）【経年比較】

■ そう思う □ どちらともいえない □ そうは思わない



●性別役割分担について●

◎性別で比較すると、「そうは思わない」という考えが男性(51.0%)よりも女性(59.6%)で8.6ポイント高くなっている。

◎性別年代別で比較すると、「そうは思わない」という考えが、男性では40歳代(62.8%)、次いで50歳代(53.2%)、30歳代(53.1%)の順で高くなっている。女性では60歳代(71.4%)、10歳代・20歳代(67.4%)、70歳以上(64.0%)の順で高くなっている。全体でみて、60歳以上の女性に「そうは思わない」と考える方が6割以上を占めている。

◎「そうは思わない」(55.8%)が半数を超え、平成27年度の「そうは思わない」(52.8%)からは3.0ポイント増加している

◎過去の調査と比較すると、「そう思う」(4.9%)「どちらともいえない」(39.3%)は減少傾向にある。

問 6 男女の役割分担の理想

問 6 あなたの男女の役割分担についての理想を、次の中から選んでください。なお選択肢中、家事等とは家事・育児・介護を指します。(1つだけ選択)

◎役割分担の理想は、男女ともに「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担する」が最も高い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性は仕事、女性は家事等を分担する	15	2.6%	10	3.9%	5	1.6%	0	0.0%
女性は仕事、男性は家事等を分担する	2	0.3%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事をする	80	14.0%	36	14.1%	44	13.9%	0	0.0%
女性は仕事、男性も家事等にさしつかえない範囲で仕事をする	2	0.3%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担する	14	2.4%	8	3.1%	6	1.9%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等は主に男性が分担する	3	0.5%	2	0.8%	1	0.3%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等も男女で分担する	387	67.5%	164	64.3%	222	70.0%	1	100.0%
男女とも仕事をし、家事等は家族や家政婦、ベビーシッター等の支援を活用する	33	5.8%	14	5.5%	19	6.0%	0	0.0%
その他・無回答	37	6.5%	19	7.5%	18	5.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

話しあって決める	女性	10歳代・20歳代
両方とも家事をするのが良い。	男性	10歳代・20歳代
好きにする	男性	10歳代・20歳代
状況によって役割分担を切り替える	女性	10歳代・20歳代
性別に関係なく、得意な方を担えるのがいい。	男性	30歳代
できる人がやればいい	女性	30歳代
基本男性が仕事をして女性は仕事をしたいならすればいい。その場合家事は二人で	男性	30歳代
男女にとらわれず、得意な方が得意なことをする。	女性	30歳代
家庭ごとの理想のカタチを実現できるようになることが理想。	男性	30歳代
性差を尊重すればいいと思う。固定しなくていい。	男性	30歳代
会社勤務などの仕事の有無に関わらず、家事担当も互いに思いやりをもって行う。ベビーシッター等の活用も気軽に出来る環境であること。	女性	30歳代
性別に関わらず、できる方ができることをやる。	女性	40歳代
バランス	男性	40歳代
別にどちらがと決めなくとも、その家族ごとにパートナーと話し合って決めるべき。	男性	40歳代
家庭の中でそれぞれが出来ることやる	男性	40歳代
どちらかが主に仕事をし、どちらかが主に家事をする。	女性	50歳代
各家庭で理想は異なる	男性	50歳代

上記の選択肢のように決めつけないで各家庭内で決めればいいと思う	女性	50歳代
1を基に家族で話し合い、それぞれ自由にきめたら良い	女性	50歳代
決めずに向いてる方がすべき	男性	50歳代
役割を考える事がナンセンス	男性	50歳代
男女とも仕事をし、家事等も分担するが場合によっては支援を活用する	女性	50歳代
家事はできる範囲で分担し、できないところは支援頂く 仕事は無理のない範囲で	男性	60歳代
各家庭の状況にも依る	男性	60歳代
生活に応じて男女にかかわらず仕事をし、分担するか支援を活用する	女性	60歳代
男性だけ仕事をして、女性は家事で生活できるようにしていただきたい	女性	60歳代
男性と女性のどちらでもよいが、稼げる力のある方が仕事に従事した方が良いと考ます。	男性	60歳代
家事等は私	男性	70歳以上
男女の仕事内容によるので、断定できない	女性	70歳以上
理想はなく、それぞれの夫婦が決めれば良い	男性	70歳以上

問7 男女の役割分担の現状

問7 実際に、あなたのお宅での役割はどうなっていますか。なお、選択肢中、家事等とは家事・育児・介護を指します。(1つだけ選択)

◎実際の役割分担は、男性は「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担している」が、女性は「男性は仕事、女性は家事等を分担する」が最も高い。・・

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性は仕事、女性は家事等を分担している	106	18.5%	40	15.7%	66	20.8%	0	0.0%
女性は仕事、男性は家事等を分担している	11	1.9%	7	2.7%	4	1.3%	0	0.0%
男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事をしている	91	15.9%	42	16.5%	49	15.5%	0	0.0%
女性は仕事、男性も家事等にさしつかえない範囲で仕事をしている	6	1.0%	2	0.8%	4	1.3%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担している	121	21.1%	44	17.3%	76	24.0%	1	100.0%
男女とも仕事をし、家事等は主に男性が分担している	3	0.5%	2	0.8%	1	0.3%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等も男女で分担している	122	21.3%	64	25.1%	58	18.3%	0	0.0%
男女とも仕事をし、家事等は家族や家政婦、ベビーシッター等の支援を活用している	3	0.5%	1	0.4%	2	0.6%	0	0.0%
その他・無回答	38	6.6%	16	6.3%	22	6.9%	0	0.0%
分担するような男性(女性)がいない	72	12.6%	37	14.5%	35	11.0%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

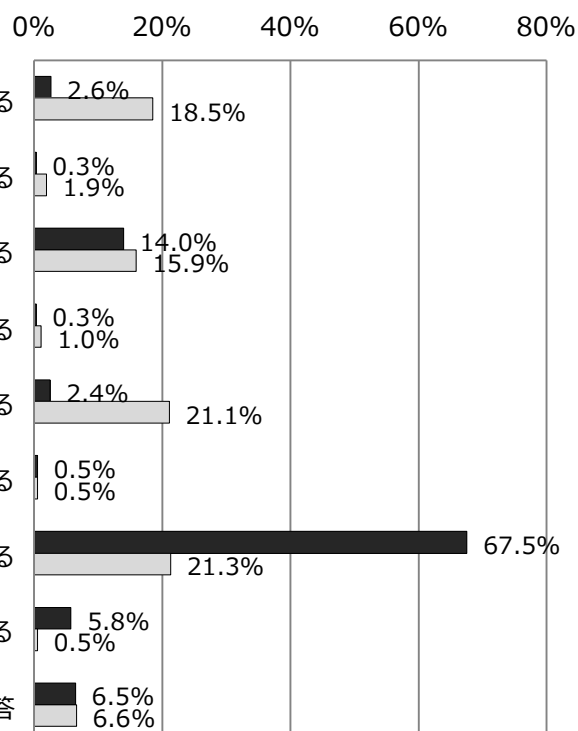
その他の内容は、次のとおりである。

父が仕事上泊まりが発生するため家にいる時間が短いですが、2人ともいる時は家事は分担されていると思います。仕事は2人ともしています。	女性	10歳代・20歳代
現在、どちらも仕事をしていない	女性	30歳代

女性は仕事と家事を両方している 男性は仕事をしていない	女性	40歳代
男は年金生活家事は少し。女はたまに仕事。主に家事。	女性	40歳代
男女とも仕事をし家事等も男女で分担しているが、保育園関係、PTA、スポ少などは母親のみが関与しているため、女側の比重が高い。	女性	40歳代
男女とも仕事をし家事も特に分担せず気づいた方が動いてる	女性	50歳代
男性が仕事、主に女性が家事等を分担している	女性	50歳代
男性は仕事、家庭等は主に女性が分担する	男性	60歳代
以前は、「1.男性は仕事、女性は家事等を分担している」だったが、今現在は別居している	女性	60歳代
一人なので全部一人で行っている。支援があるか知らない。	女性	60歳代
男女とも仕事をしていない。	男性	60歳代
男女ともに無職である	男性	70歳以上
男性は無職、女性は家事	男性	70歳以上
家事等は分担している	男性	70歳以上
二人とも働いていない	男性	70歳以上
女性が家事全体をしている。男性は足が悪い。	女性	70歳以上
妻は入院、夫は家事等全般	女性	70歳以上
両方共無職なので家事等は分担している	女性	70歳以上
お互い65歳位まで働いて今は出来る時は家事をやる。お互い助けあいです。	男性	70歳以上
無職のため分担している	男性	70歳以上
女性は家事をして、男性は少しだけ家事をしている	女性	70歳以上
子どものために仕事をあきらめた。	女性	70歳以上
男女とも仕事をしていないが家事は女性がしている	女性	70歳以上
二人とも無職の為家事等分担している	男性	70歳以上

問6・問7 男女の役割分担【理想と現状】

■理想 □現状

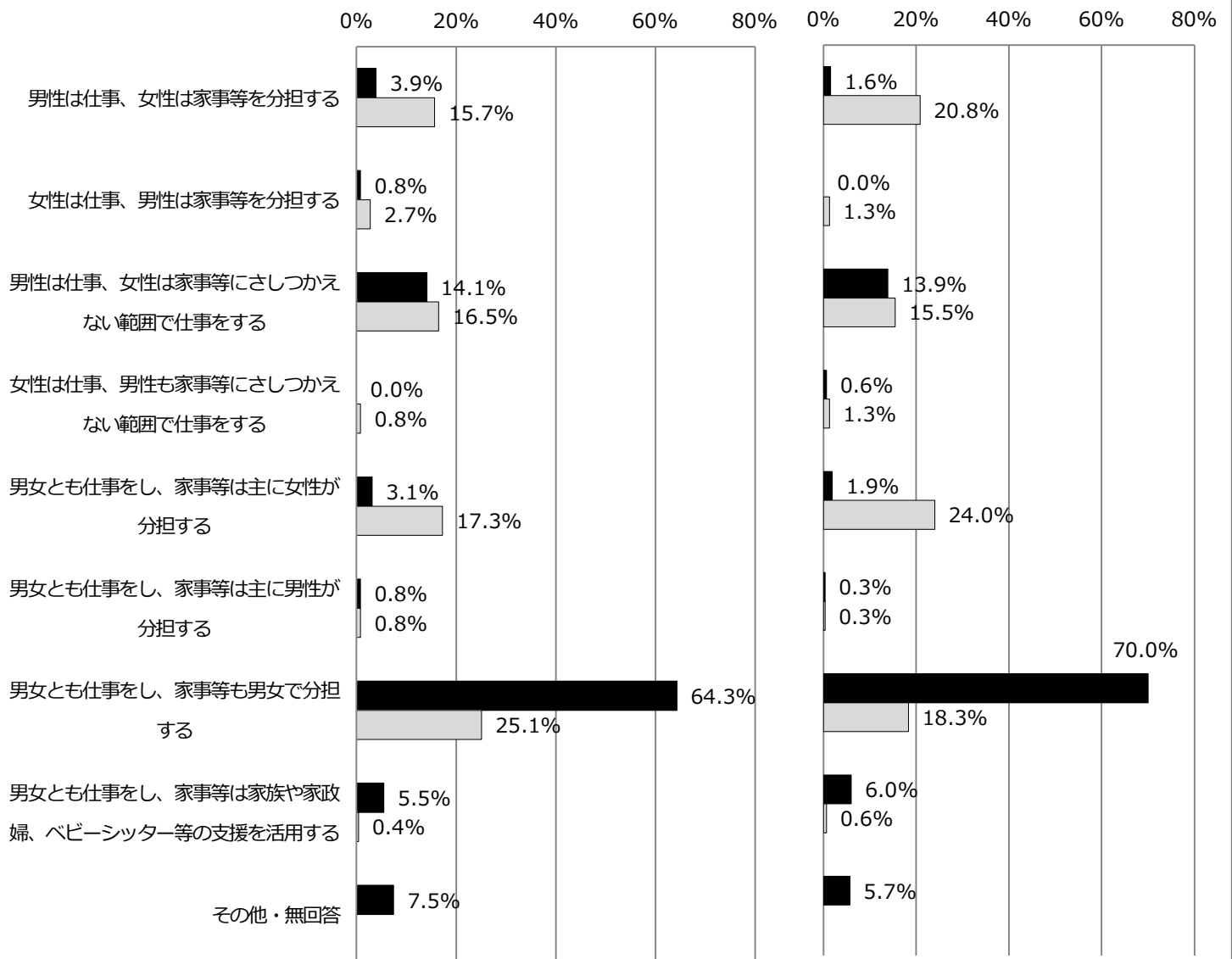


問6・問7 男女の役割分担【理想と現実】【性別別】

■ 理想 □ 現状

男性

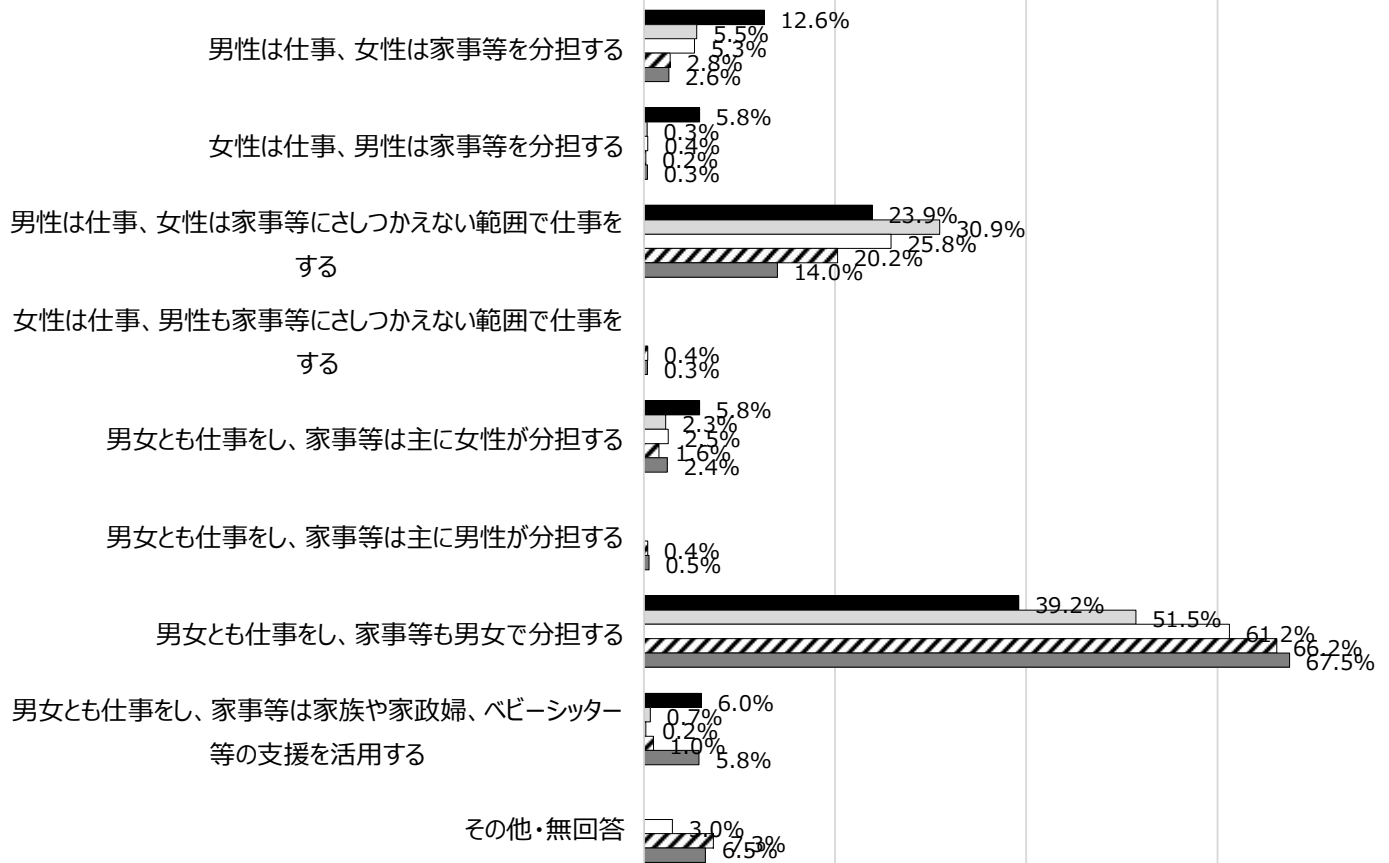
女性



問6・問7 男女の役割分担【理想】【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7

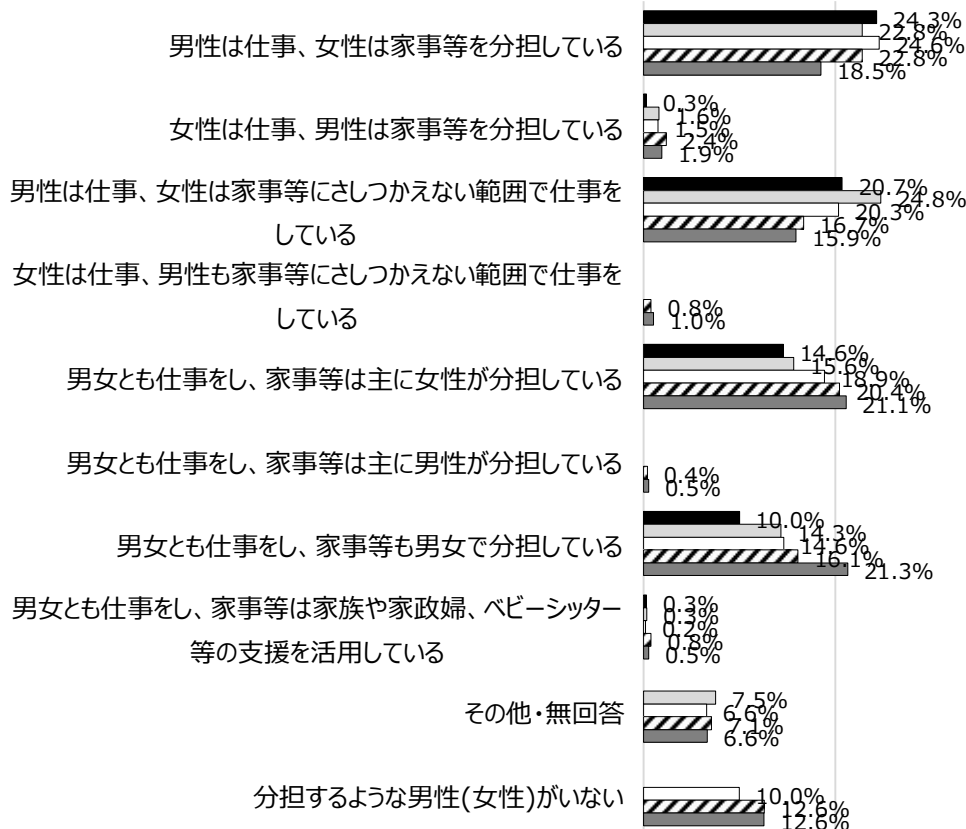
0% 20% 40% 60% 80%



男女の役割分担【現状】【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7

0% 20% 40% 60% 80%



●性別役割分担の理想と現状について●

◎【理想】男女ともに「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担する」が最も高い(男性64.3%、女性70.0%)。令和2年度調査(男性56.6%、女性74.0%)と比較すると、女性は4.0ポイント減少するも、男性は7.7ポイント増加している。

◎【現状】男性は「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担している」(25.1%)が、女性は「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担する」(24.0%)が最も高い。過去調査と比較しても、働く女性および家事を分担する家庭は増加している様子が伺える。

◎理想で男女とも『男女平等型』を理想とする人が調査を追うごとに多くなっているが、現状では依然として家事等を主に分担するのは女性となっており、女性の家事負担が大きい状況となっている。

◎「男女とも仕事をし、家事等は家族や家政婦、ベビーシッター等の支援を活用する」(5.8%)が令和2年度調査(1.0%)から4.8ポイント増加しており、アウトソーシングなどの支援活用への需要が高まる一方で、現状で「支援を活用している」は0.5%に留まっている。

問 8 仕事と家庭の両立のために必要なこと

問8 あなたは、男女がともに仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(1つだけ選択)

◎男女ともに「男女がともに働くことに対する家族や周囲の理解と協力」という考えが多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女ともに労働時間を短縮すること	82	14.3%	35	13.7%	47	14.8%	0	0.0%
男女間の給与等待遇についての格差をなくすこと	86	15.0%	38	14.9%	48	15.1%	0	0.0%
育児・介護休業制度などの労働環境を充実させること	74	12.9%	27	10.6%	47	14.8%	0	0.0%
在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	107	18.7%	50	19.6%	56	17.7%	1	100.0%
再就職のための支援を充実させること	19	3.3%	10	3.9%	9	2.8%	0	0.0%
保育所などの子育て支援サービスを充実させること	43	7.5%	23	9.0%	20	6.3%	0	0.0%
ホームヘルパーなどの介護サービスを充実させること	16	2.8%	5	2.0%	11	3.5%	0	0.0%
男女がともに働くことに対する家族や周囲の理解と協力	122	21.3%	52	20.4%	70	22.1%	0	0.0%
その他・無回答	24	4.2%	15	5.9%	9	2.8%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

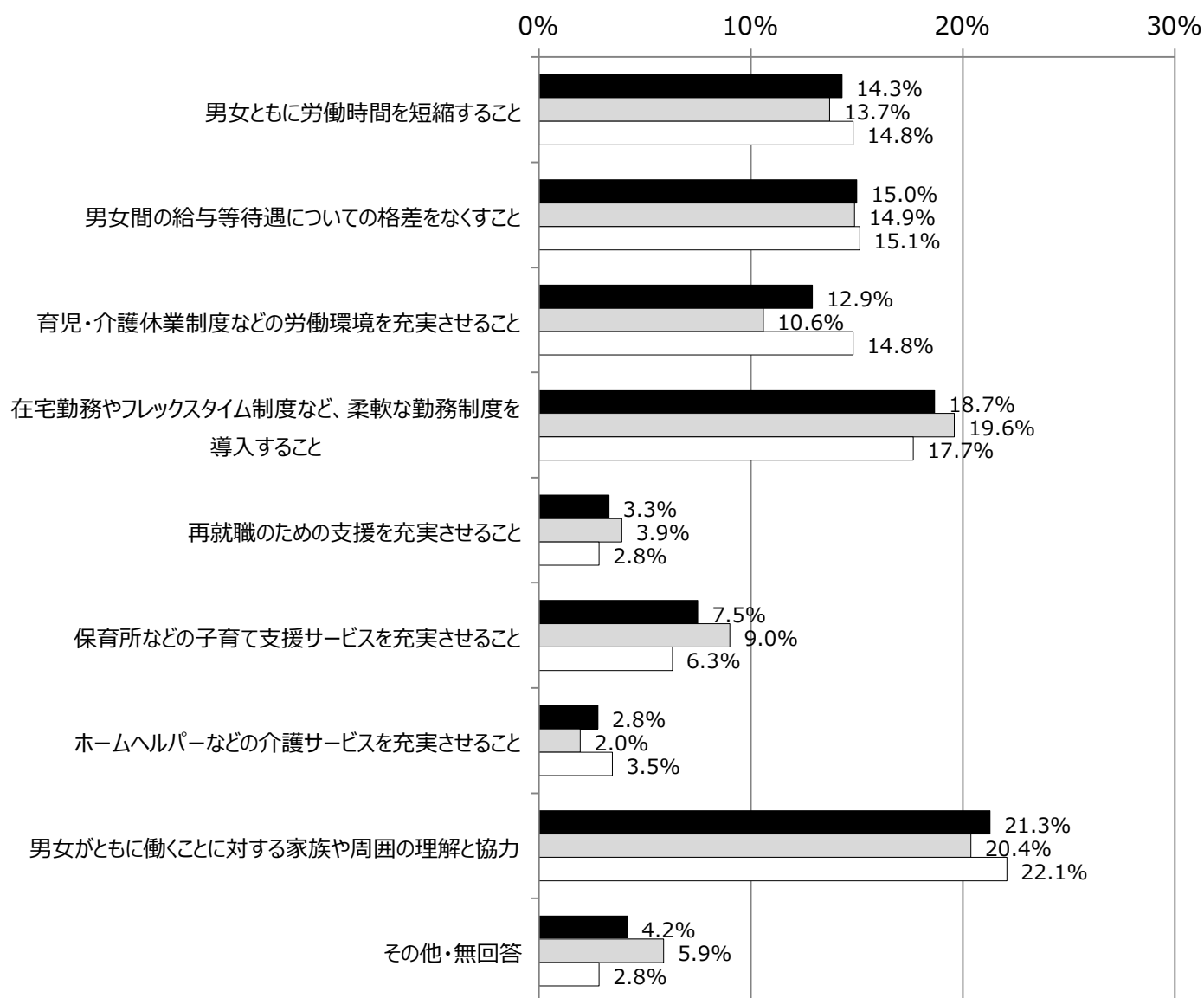
その他の内容は、次のとおりである。

手を抜くこと。	男性	10歳代・20歳代
育休に関しての男性への支援	男性	10歳代・20歳代
子供が小さい時に夫婦ともにフルタイムで働くのがとても難しい。小さい子供は頻繁に風邪をひくから仕事を休まざるを得ない。我が家の場合は月に1週間以上子供の体調関係で仕事を休まざるを得ないことが多く、共働きを諦めた。しかし働かないと金銭的に困ることも多い。少子化が進む現代において、改善するためにもせめて小学校入学前の子育て世帯の在宅勤務を自由にできる、それが難しい場合は休んでも給与変動がないようにする等の法整備が必要である。	男性	30歳代
1に近いが、育児において男女ともしたい選択ができるような雇用の仕組みづくりが重要と考えます。育児に専念したいと思う際にお金の心配がいらぬような社会の仕組みづくり。	女性	30歳代
夫の意識改革と、母親(妻が男児を甘やかさない(次世代に亭主関白や男尊女卑を根付かせないこと。	女性	30歳代
それぞれの家庭、人によって考え方がある。法整備で考え方を決めてしまうよりも、国や役所がどういった考え方を”してほしいのか”を推し進めていくのかを示してもらったほうがわかりやすいと思う。	女性	30歳代
労働時間を減らしても、生活できる給与がもらえることが大前提	男性	30歳代
夫婦間における育児、介護の認識を同じレベルに共有できること	女性	40歳代
仕事は男がメイン女サブ 家庭は男サブ女メイン 立場は平等	男性	50歳代
男、女、老人、とか、ない。税金が高い。	男性	50歳代
男女共、仕事と家庭の共立を社会が認め、理解し協力し合えること	女性	50歳代
どちらが働かなくても生活出来る収入と環境	男性	50歳代

税負担を低くする事	男性	50歳代
相手ばかりに負担をかけず、2人で家庭を作るという意識作りが必要。いろんな制度、サービスもちろん必要ですが。	女性	50歳代
親と同居すること	男性	60歳代
相手への思い	男性	70歳以上
男女とも同一賃金	男性	70歳以上
それぞれの夫婦が決めることだから、共働きを前提にする必要はない	男性	70歳以上

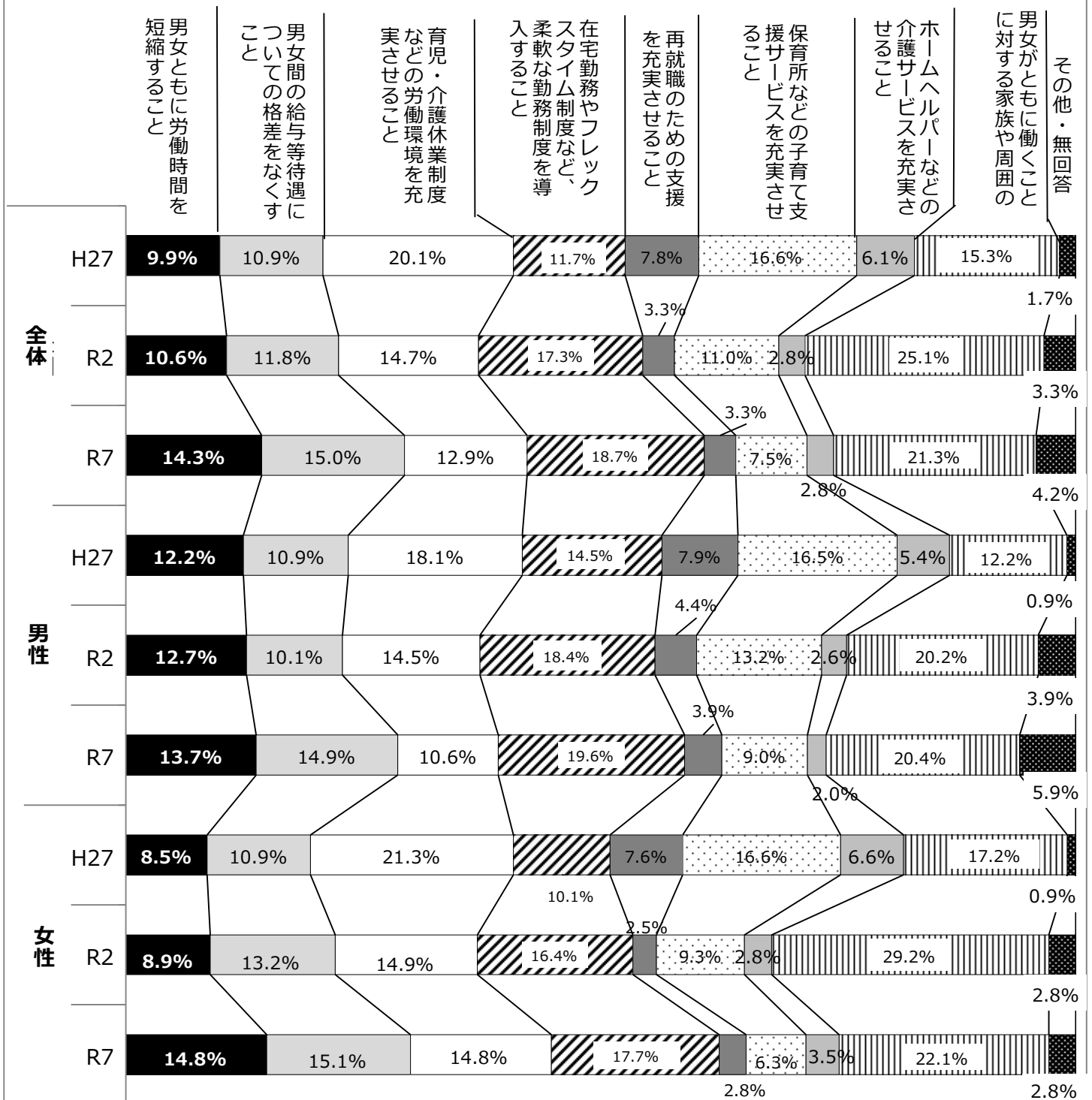
問8 仕事と家庭の両立のために必要なこと

■ 全体 □ 男性 □ 女性



問8 男女がともに仕事と家庭の両立をしていくために必要なこと【経年比較】

※H27年度は3つまで選択可。R2年度以降は1つだけ選択可に変更



●家庭と仕事の両立について●

◎男女ともに「男女がともに働くことに対する家族や周囲の理解と協力」の割合が最も高いが（全体21.3%、男性20.4%、女性22.1%）、令和2年度調査（全体25.1%）からは3.8ポイント減少している。

◎次いで、男女ともに「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」（男性19.6%、女性17.7%）、「男女間の給与等待遇についての格差をなくすこと」（男性14.9%、女性15.1%）の順となっている。

◎「男女ともに労働時間を短縮すること」（14.3%）が令和2年度調査（10.6%）から3.7ポイント増加、「男女間の給与等待遇についての格差をなくすこと」（15.0%）が令和2年度調査（11.8%）から3.2ポイント増加しており、ワーク・ライフ・バランスへの意識が高まっている様子が伺える。

問9 女性の望ましい働き方

問9 あなたが女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。(1つだけ選択)

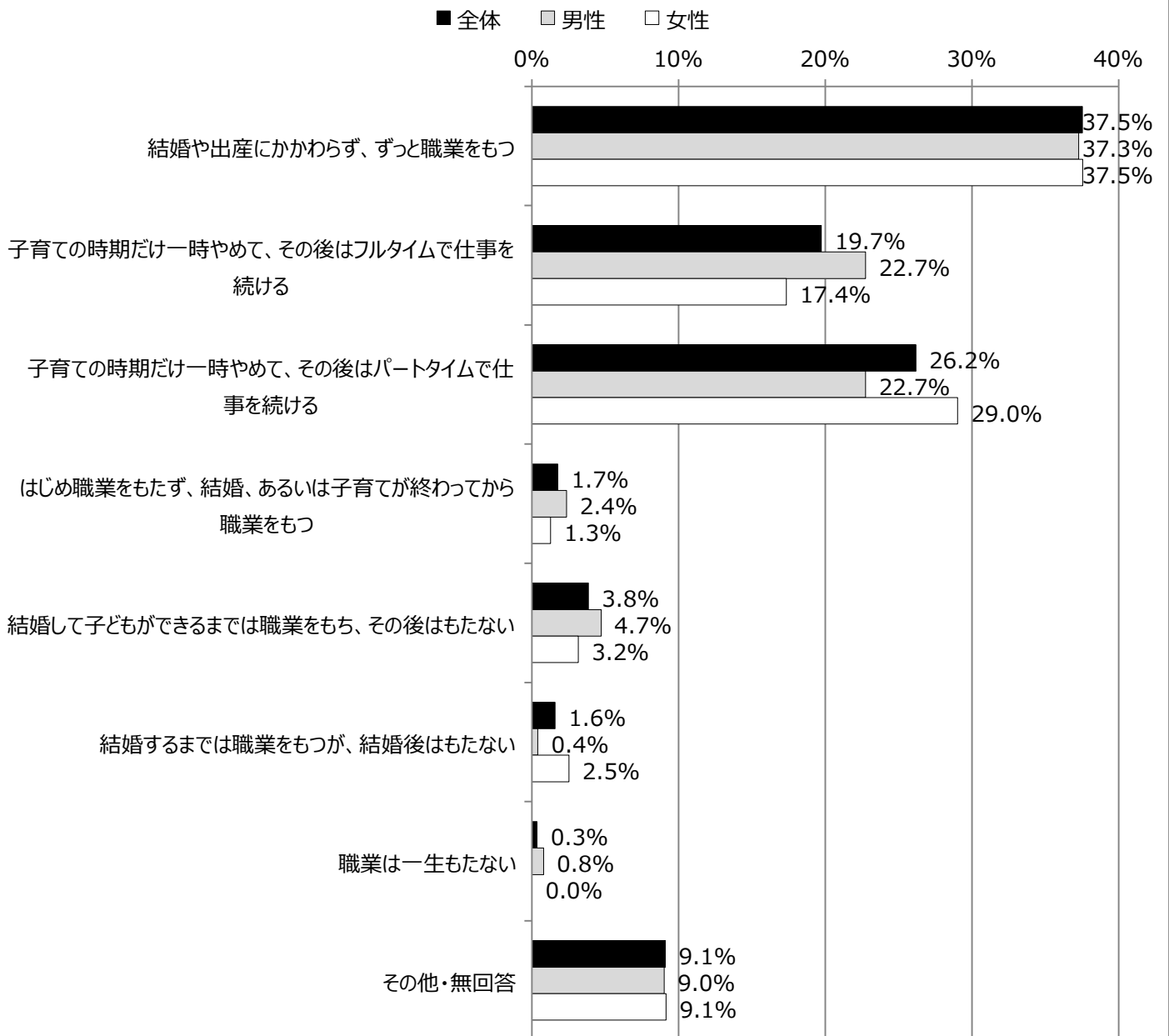
◎「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもつ」が最も多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもつ	215	37.5%	95	37.3%	119	37.5%	1	100.0%
子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける	113	19.7%	58	22.7%	55	17.4%	0	0.0%
子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける	150	26.2%	58	22.7%	92	29.0%	0	0.0%
はじめ職業をもたず、結婚、あるいは子育てが終わってから職業をもつ	10	1.7%	6	2.4%	4	1.3%	0	0.0%
結婚して子どもができるまでは職業をもち、その後はもたない	22	3.8%	12	4.7%	10	3.2%	0	0.0%
結婚するまでは職業をもつが、結婚後はもたない	9	1.6%	1	0.4%	8	2.5%	0	0.0%
職業は一生もたない	2	0.3%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	52	9.1%	23	9.0%	29	9.1%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

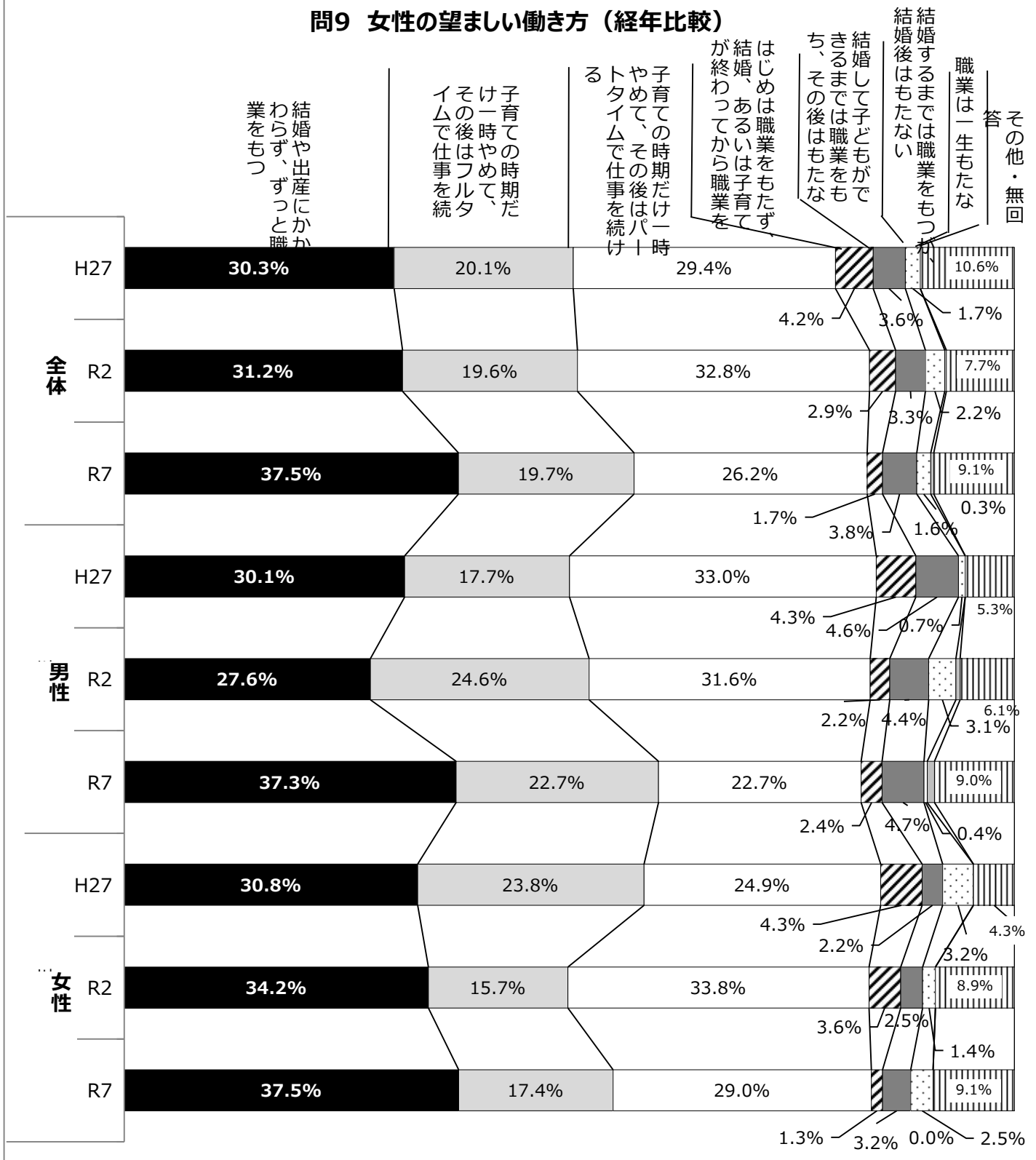
その他の内容は、次のとおりである。

個人個人の理想を実現できるよう選択肢が様々あるとよい。	男性	30歳代
結婚・出産問わずその人自身が働きたいと思う時期に、正社員でも雇用が難しくなく短期間でも活躍して働ける環境があること	女性	30歳代
ライフステージや家族構成に依らず、働きたい人が希望する雇用形態で働く	女性	30歳代
給料が上がらないのに税金が上がる おかしい	男性	50歳代
子育ての時期、一時辞めてその後思うように職を選べる	女性	50歳代
年収の壁の存在が、働き方の選択を邪魔しています	男性	50歳代
それぞれのライフスタイルがあるので、これが望ましいとは選べない	女性	50歳代
相手の言うことを聞く	男性	70歳以上
どれもでない。各自各夫婦が、決めるもの。	男性	70歳以上

問9 女性の望ましい働き方



問9 女性の望ましい働き方（経年比較）



●望ましい女性の働き方について●

◎令和2年度調査では、全体で「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」（全体32.8%、男性31.6%、女性33.8%）が最も高かったが、今回調査では「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもつ」（全体37.5%、男性37.3%、女性37.5%）の割合が最も高い結果となった。令和2年度調査（全体31.2%）と比較すると6.3ポイント増加しており、特に男性は令和2年度（27.6%）から9.7ポイントも増加している。次いで、男女ともに「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」（男性22.7%、女性29.0%）、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」（男性22.7%、女性17.4%）の順となっている。

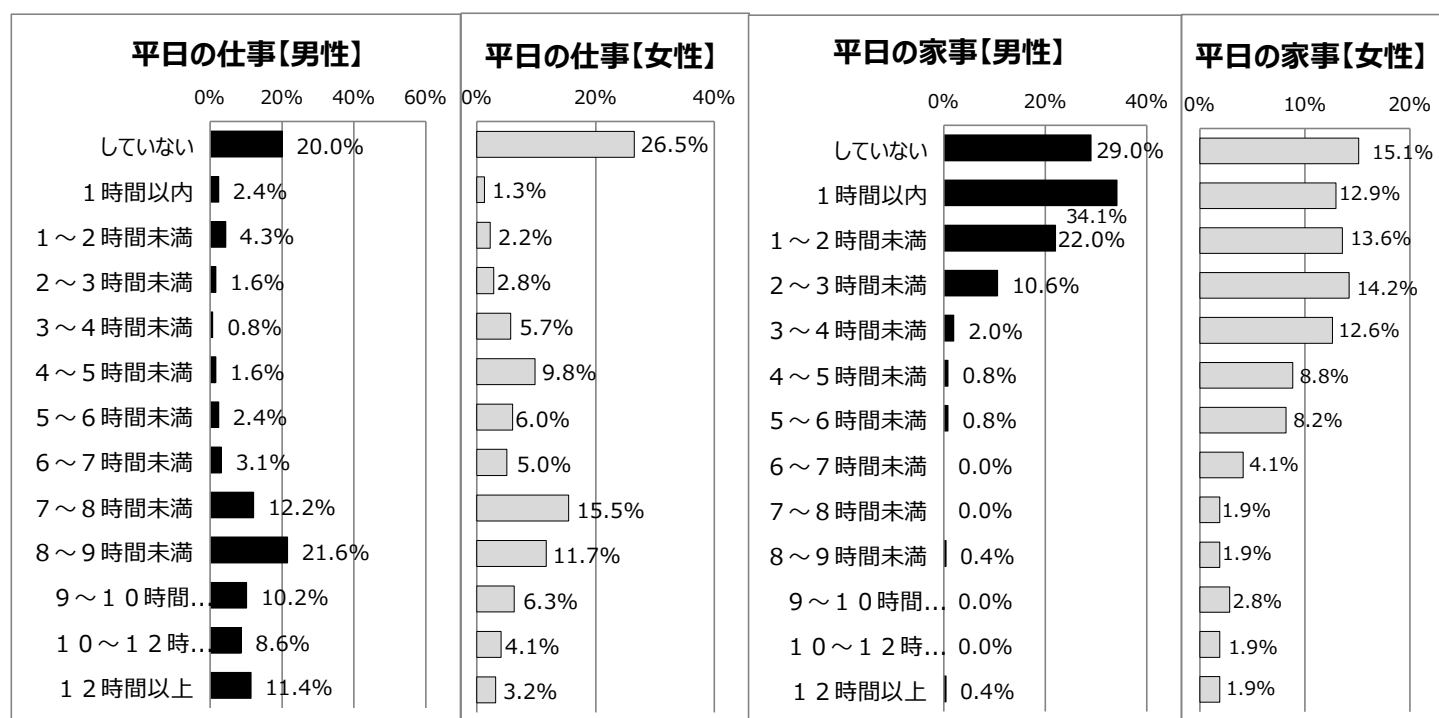
◎今回調査では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(全体26.2%、男性22.7%、女性29.0%)と初めて男女ともに減少しており、女性が生涯働くことへの要望・期待が高まっている。

問10 仕事、家事にあてる時間

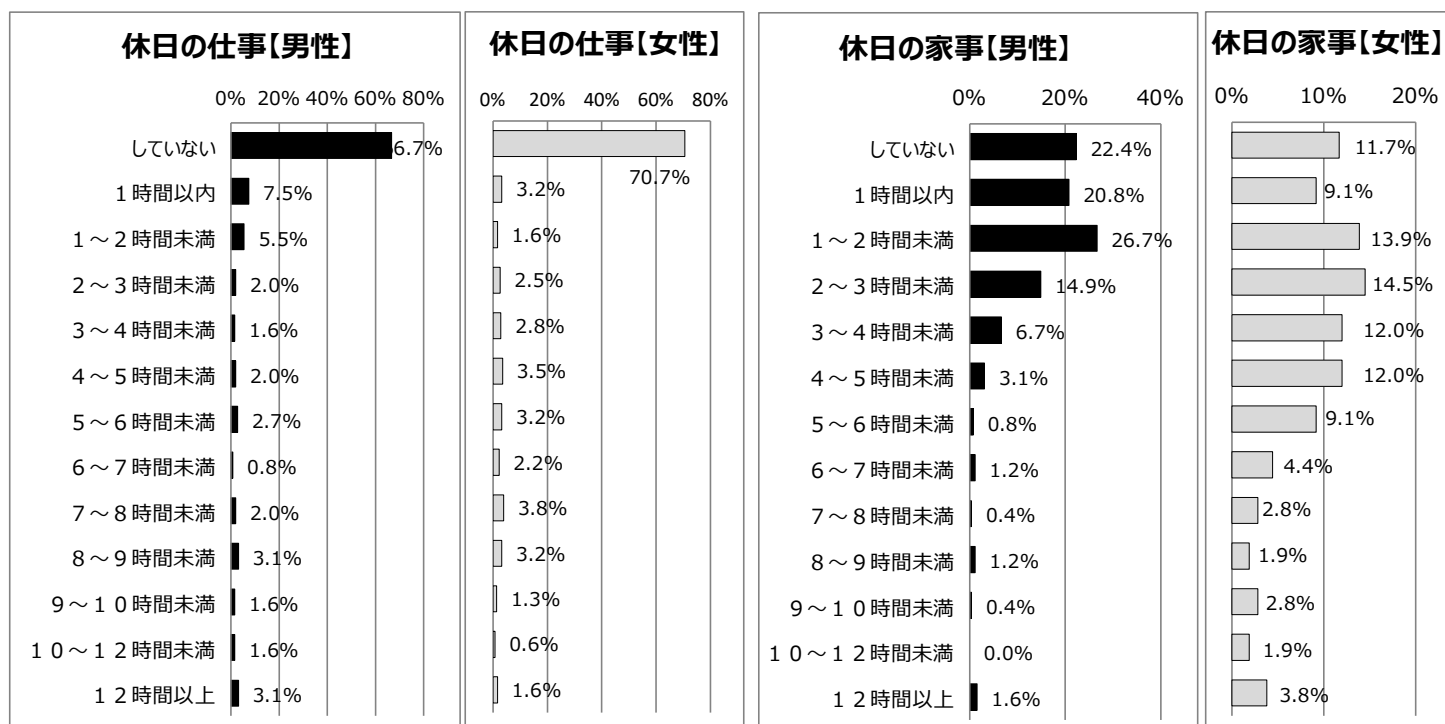
問10 あなたは、1日平均どのくらいの時間を仕事、または家事（炊事、洗濯、掃除）、育児、介護にあてていますか。平日、休日の仕事、家事について、お答えください。（それぞれ1つだけ選択）

◎平日の仕事、家事等、休日の家事に充てる時間は、男女に違いがみられる。

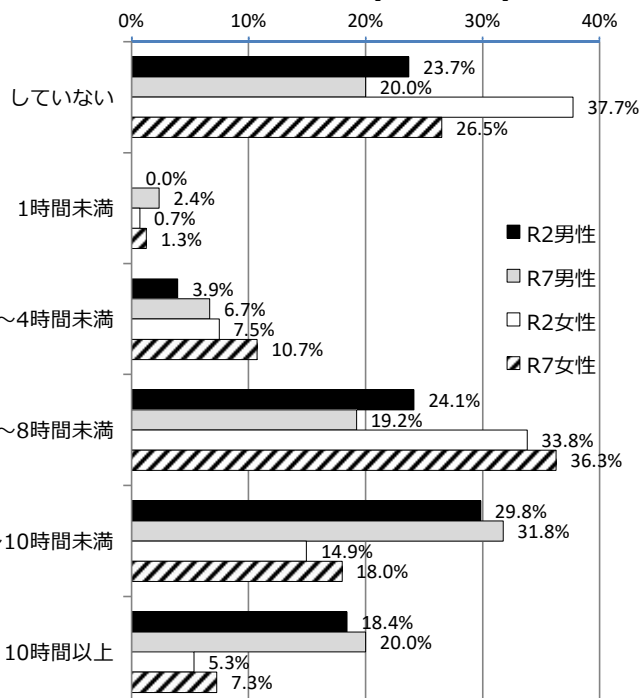
選択項目	●平日の仕事●								●平日の家事●							
	全体		男性		女性		その他		全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
していない	136	23.7%	51	20.0%	84	26.5%	1	100.0%	122	21.3%	74	29.0%	48	15.1%	0	0.0%
1時間以内	10	1.7%	6	2.4%	4	1.3%	0	0.0%	129	22.5%	87	34.1%	41	12.9%	1	100.0%
1～2時間未満	18	3.1%	11	4.3%	7	2.2%	0	0.0%	99	17.3%	56	22.0%	43	13.6%	0	0.0%
2～3時間未満	13	2.3%	4	1.6%	9	2.8%	0	0.0%	72	12.6%	27	10.6%	45	14.2%	0	0.0%
3～4時間未満	20	3.5%	2	0.8%	18	5.7%	0	0.0%	45	7.9%	5	2.0%	40	12.6%	0	0.0%
4～5時間未満	35	6.1%	4	1.6%	31	9.8%	0	0.0%	30	5.2%	2	0.8%	28	8.8%	0	0.0%
5～6時間未満	25	4.4%	6	2.4%	19	6.0%	0	0.0%	28	4.9%	2	0.8%	26	8.2%	0	0.0%
6～7時間未満	24	4.2%	8	3.1%	16	5.0%	0	0.0%	13	2.3%	0	0.0%	13	4.1%	0	0.0%
7～8時間未満	80	14.0%	31	12.2%	49	15.5%	0	0.0%	6	1.0%	0	0.0%	6	1.9%	0	0.0%
8～9時間未満	92	16.1%	55	21.6%	37	11.7%	0	0.0%	7	1.2%	1	0.4%	6	1.9%	0	0.0%
9～10時間未満	46	8.0%	26	10.2%	20	6.3%	0	0.0%	9	1.6%	0	0.0%	9	2.8%	0	0.0%
10～12時間未満	35	6.1%	22	8.6%	13	4.1%	0	0.0%	6	1.0%	0	0.0%	6	1.9%	0	0.0%
12時間以上	39	6.8%	29	11.4%	10	3.2%	0	0.0%	7	1.2%	1	0.4%	6	1.9%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



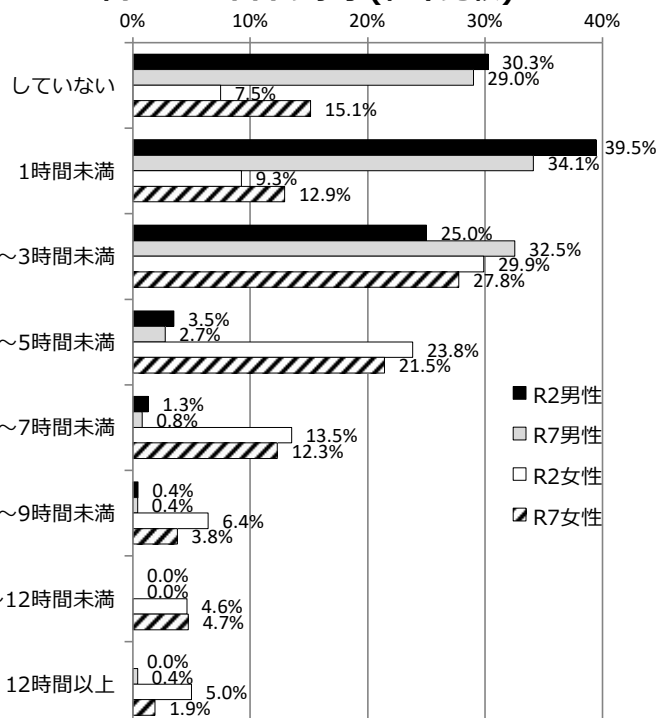
選択項目	●休日の仕事●								●休日の家事●							
	全体		男性		女性		その他		全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
していない	395	68.9%	170	66.7%	224	70.7%	1	100.0%	94	16.4%	57	22.4%	37	11.7%	0	0.0%
1時間以内	29	5.1%	19	7.5%	10	3.2%	0	0.0%	83	14.5%	53	20.8%	29	9.1%	1	100.0%
1～2時間未満	19	3.3%	14	5.5%	5	1.6%	0	0.0%	112	19.5%	68	26.7%	44	13.9%	0	0.0%
2～3時間未満	13	2.3%	5	2.0%	8	2.5%	0	0.0%	84	14.7%	38	14.9%	46	14.5%	0	0.0%
3～4時間未満	13	2.3%	4	1.6%	9	2.8%	0	0.0%	55	9.6%	17	6.7%	38	12.0%	0	0.0%
4～5時間未満	16	2.8%	5	2.0%	11	3.5%	0	0.0%	46	8.0%	8	3.1%	38	12.0%	0	0.0%
5～6時間未満	17	3.0%	7	2.7%	10	3.2%	0	0.0%	31	5.4%	2	0.8%	29	9.1%	0	0.0%
6～7時間未満	9	1.6%	2	0.8%	7	2.2%	0	0.0%	17	3.0%	3	1.2%	14	4.4%	0	0.0%
7～8時間未満	17	3.0%	5	2.0%	12	3.8%	0	0.0%	10	1.7%	1	0.4%	9	2.8%	0	0.0%
8～9時間未満	18	3.1%	8	3.1%	10	3.2%	0	0.0%	9	1.6%	3	1.2%	6	1.9%	0	0.0%
9～10時間未満	8	1.4%	4	1.6%	4	1.3%	0	0.0%	10	1.7%	1	0.4%	9	2.8%	0	0.0%
10～12時間未満	6	1.0%	4	1.6%	2	0.6%	0	0.0%	6	1.0%	0	0.0%	6	1.9%	0	0.0%
12時間以上	13	2.3%	8	3.1%	5	1.6%	0	0.0%	16	2.8%	4	1.6%	12	3.8%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



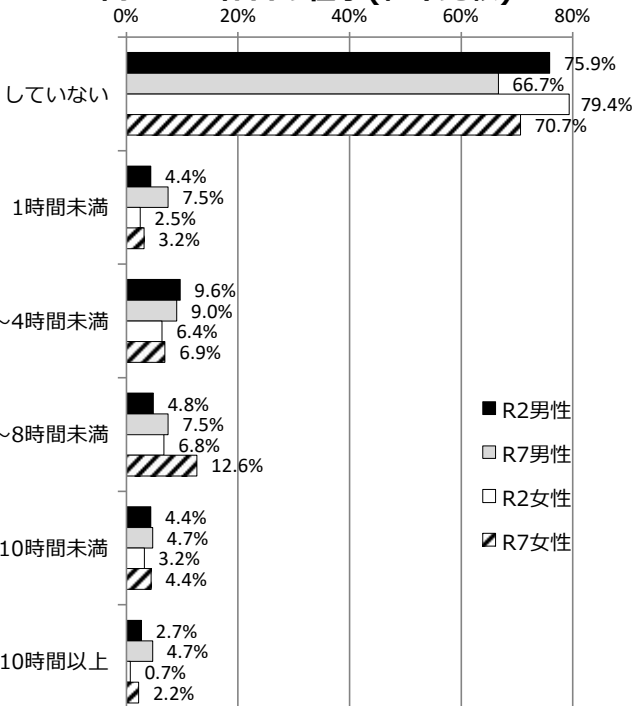
問10 平日の仕事(経年比較)



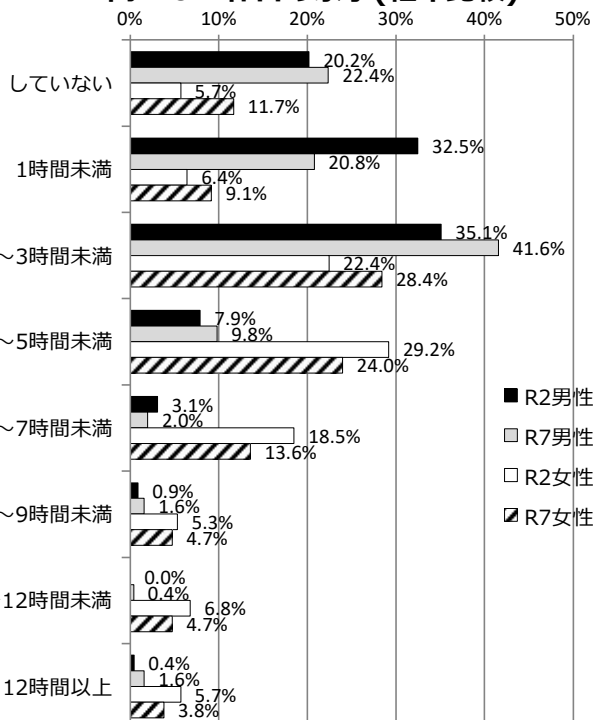
問10 平日の家事(経年比較)



問10 休日の仕事(経年比較)



問10 休日の家事(経年比較)



●仕事、家事にあてる時間について●

◎平日の仕事においては、男性は「7～8時間未満 (12.2%)」「8～9時間未満 (21.6%)」、女性は「7～8時間未満 (15.5%)」「8～9時間未満 (11.7%)」が高くなっている。10時間以上を仕事にあてる方の割合は、男性が20.0%で女性 (7.3%) よりも12.7ポイント高くなっており、令和2年度 (18.4%) からは1.6ポイント微増している。令和2年度調査と比較すると、男女ともに8時間以上を仕事にあてる方が増えている。

◎平日の家事等においては、男性は「1時間以内 (34.1%)」「していない (29.0%)」「1～2時間未満 (22.0%)」、女性は「していない (15.1%)」「2～3時間未満 (14.2%)」「1～2時間未満 (13.6%)」が高くなっている。令和2年度調査と比較すると、家事に充てる時間は減少傾向にある。

◎休日の家事等においては、男性は「1～2時間未満 (26.7%)」「していない (22.4%)」、女性は「2～3時間未満 (14.5%)」「1～2時間未満 (13.9%)」が高くなっている。休日において、《2時間以上》あてる方も2割を超えており (28.6%)、平日 (14.9%) に比べて、休日では家事等にあてる男性が多くなっている。

問 1 0 - 1 働いている目的（現在、職業をお持ちの方）

問 1 0 - 1 あなたの働いている目的に最も近い内容は、次のどれですか。(1つだけ選択)

◎全体的に「家計を維持するため」「家計を補助するため」「住宅ローンや住宅資金・家賃のため」が多いが、主な生計の維持のために働いているのは、男性の割合が高い。

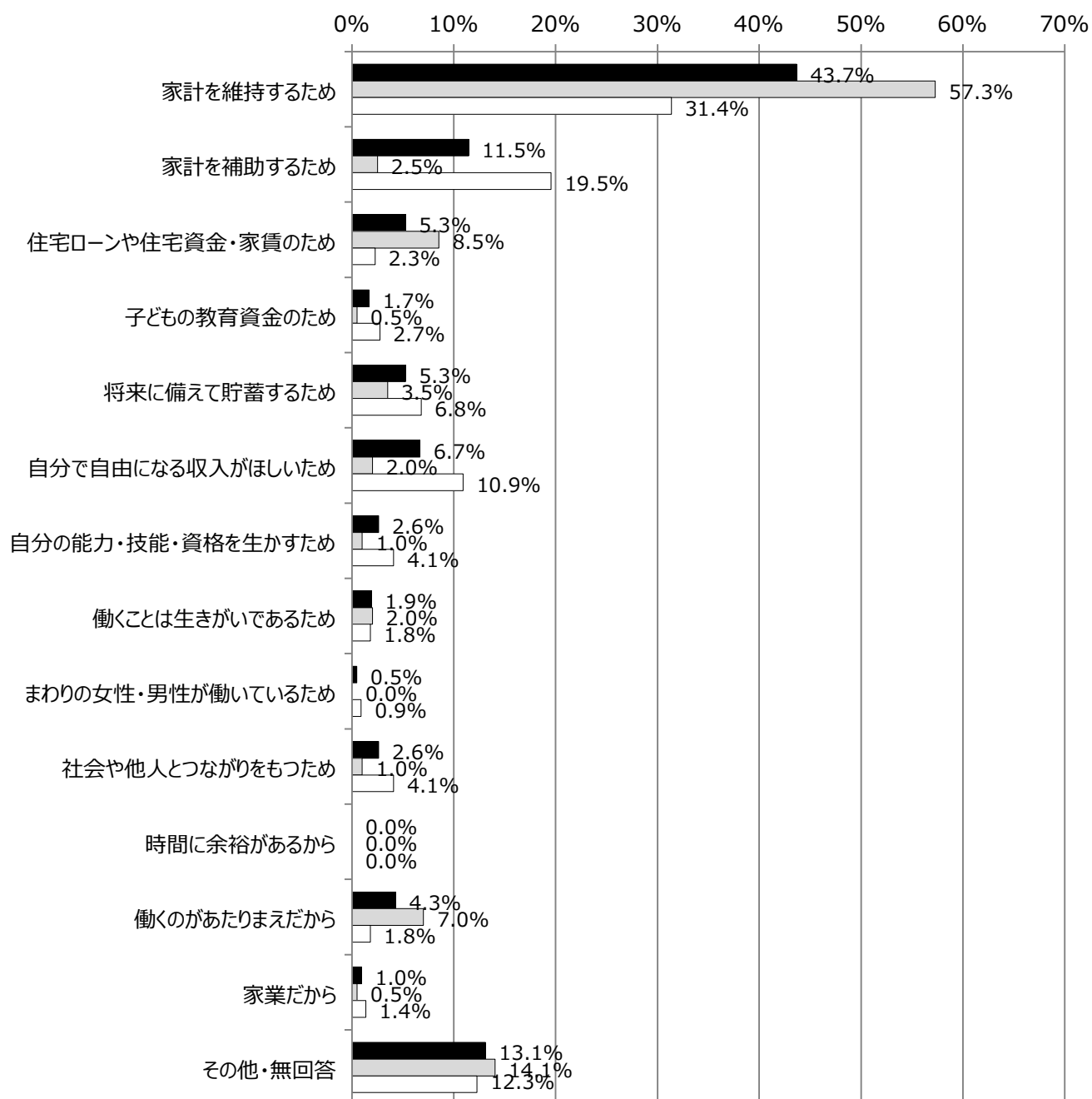
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家計を維持するため	183	43.7%	114	57.3%	69	31.4%	0	－
家計を補助するため	48	11.5%	5	2.5%	43	19.5%	0	－
住宅ローンや住宅資金・家賃のため	22	5.3%	17	8.5%	5	2.3%	0	－
子どもの教育資金のため	7	1.7%	1	0.5%	6	2.7%	0	－
将来に備えて貯蓄するため	22	5.3%	7	3.5%	15	6.8%	0	－
自分で自由になる収入がほしいため	28	6.7%	4	2.0%	24	10.9%	0	－
自分の能力・技能・資格を生かすため	11	2.6%	2	1.0%	9	4.1%	0	－
働くことは生きがいであるため	8	1.9%	4	2.0%	4	1.8%	0	－
まわりの女性・男性が働いているため	2	0.5%	0	0.0%	2	0.9%	0	－
社会や他人とつながりをもつため	11	2.6%	2	1.0%	9	4.1%	0	－
時間に余裕があるから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	－
働くのがあたりまえだから	18	4.3%	14	7.0%	4	1.8%	0	－
家業だから	4	1.0%	1	0.5%	3	1.4%	0	－
その他・無回答	55	13.1%	28	14.1%	27	12.3%	0	－
合計	419	100.0%	199	100.0%	220	100.0%	0	－

その他の内容は、次のとおりである。

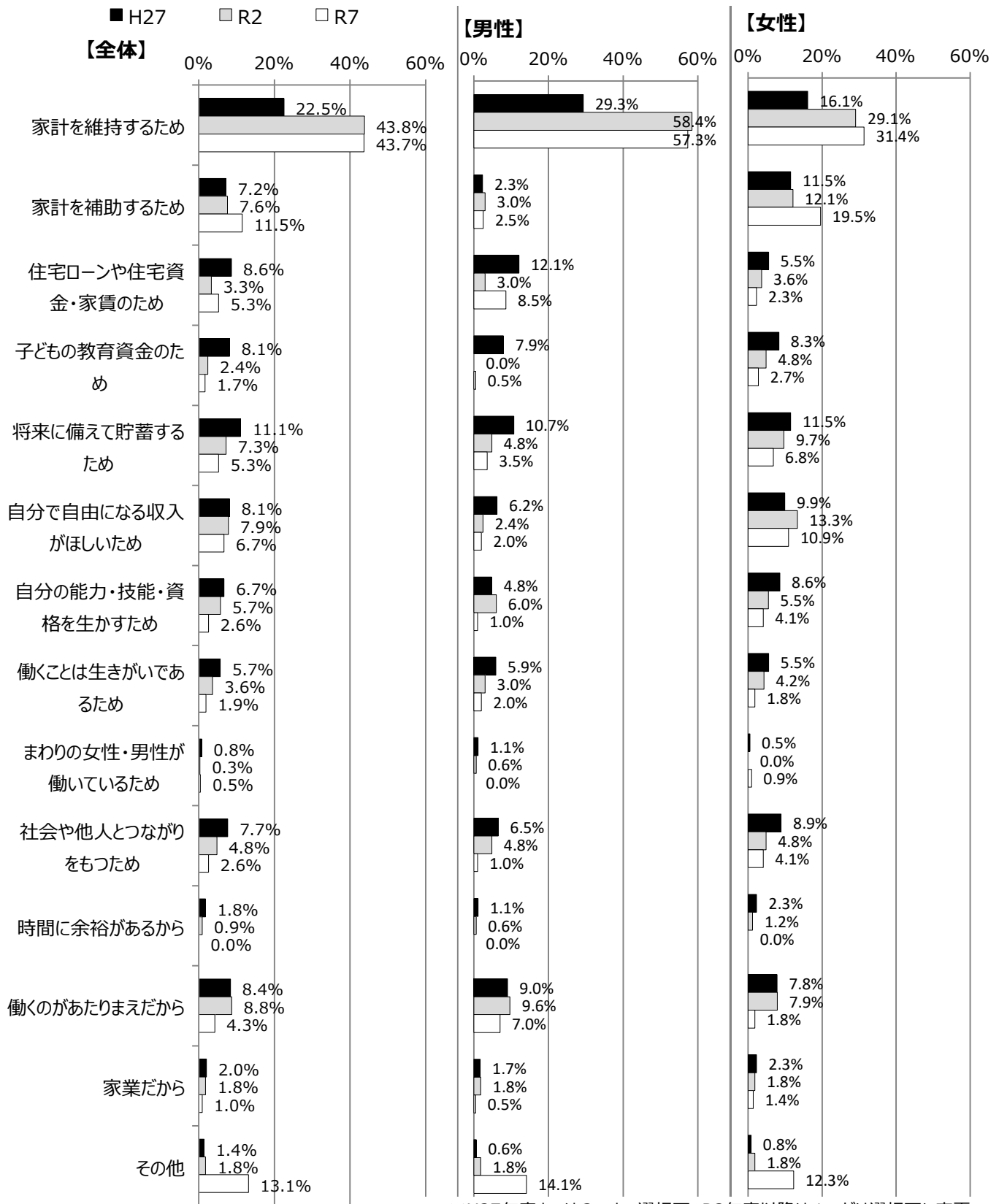
税金払うため	女性	10歳代・20歳代
奨学金返済のため	女性	10歳代・20歳代
推し活	女性	10歳代・20歳代
仕事が好き	女性	30歳代
生きるため	男性	50歳代

問 10 - 1 働いている目的

■ 全体 □ 男性 □ 女性



問10-1 働いている目的【経年比較】



※H27年度までは3つまで選択可。R2年度以降は1つだけ選択可に変更。

●働いている目的について●

- ◎男女ともに「家計を維持するため」の割合が最も高いが、女性(31.4%)と男性(57.3%)では倍近い差がある。
- ◎令和2年度調査では女性の目的として「自分で自由になる収入がほしいため」(13.3%)が続いたが、今回調査では「家計を補助するため」(19.5%)が次に高い割合となっている。
- ◎令和2年度調査と比較すると、特に「自分で自由になる収入が欲しいため」「自分の能力・技能・資格を生かすため」「生きがいであるため」「社会や他人とつながりをもつため」において減少しており、昨今の経済状況の悪化による影響が伺える。

問 10-2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面（現在、職業をお持ちの方）

**問 10-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。
（あてはまるものすべて選択）**

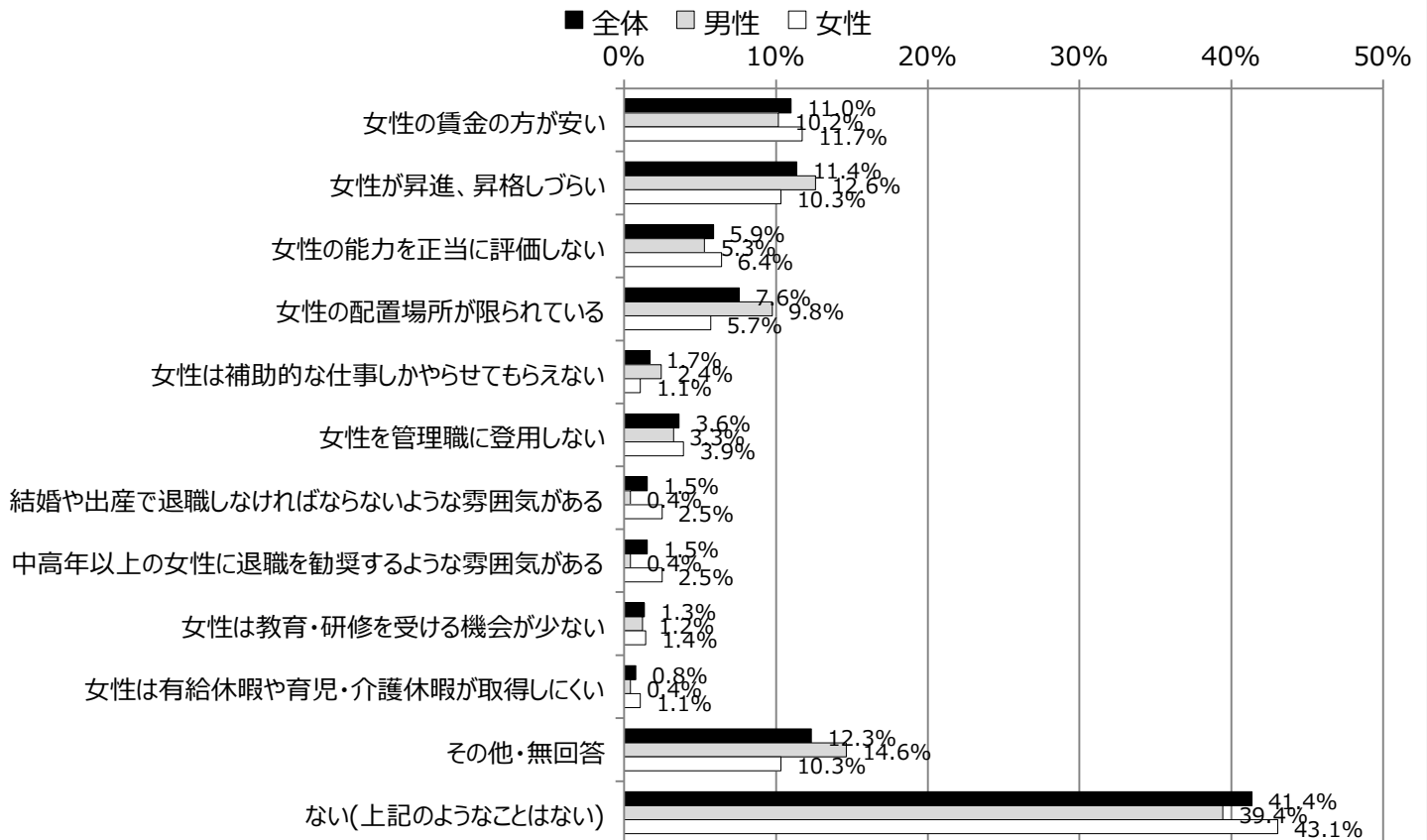
◎女性に対して、仕事面や待遇面で違いがない割合が高くなっているが、女性が昇進、昇格しづらい職場や女性の賃金の方が安い職場もある。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性の賃金の方が安い	58	11.0%	25	10.2%	33	11.7%	0	-
女性が昇進、昇格しづらい	60	11.4%	31	12.6%	29	10.3%	0	-
女性の能力を正當に評価しない	31	5.9%	13	5.3%	18	6.4%	0	-
女性の配置場所が限られている	40	7.6%	24	9.8%	16	5.7%	0	-
女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない	9	1.7%	6	2.4%	3	1.1%	0	-
女性を管理職に登用しない	19	3.6%	8	3.3%	11	3.9%	0	-
結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	8	1.5%	1	0.4%	7	2.5%	0	-
中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	8	1.5%	1	0.4%	7	2.5%	0	-
女性は教育・研修を受ける機会が少ない	7	1.3%	3	1.2%	4	1.4%	0	-
女性は有給休暇や育児・介護休暇が取得しにくい	4	0.8%	1	0.4%	3	1.1%	0	-
その他・無回答	65	12.3%	36	14.6%	29	10.3%	0	-
ない(上記のようなことはない)	218	41.4%	97	39.4%	121	43.1%	0	-
合計	527	100.0%	246	100.0%	281	100.0%	0	-

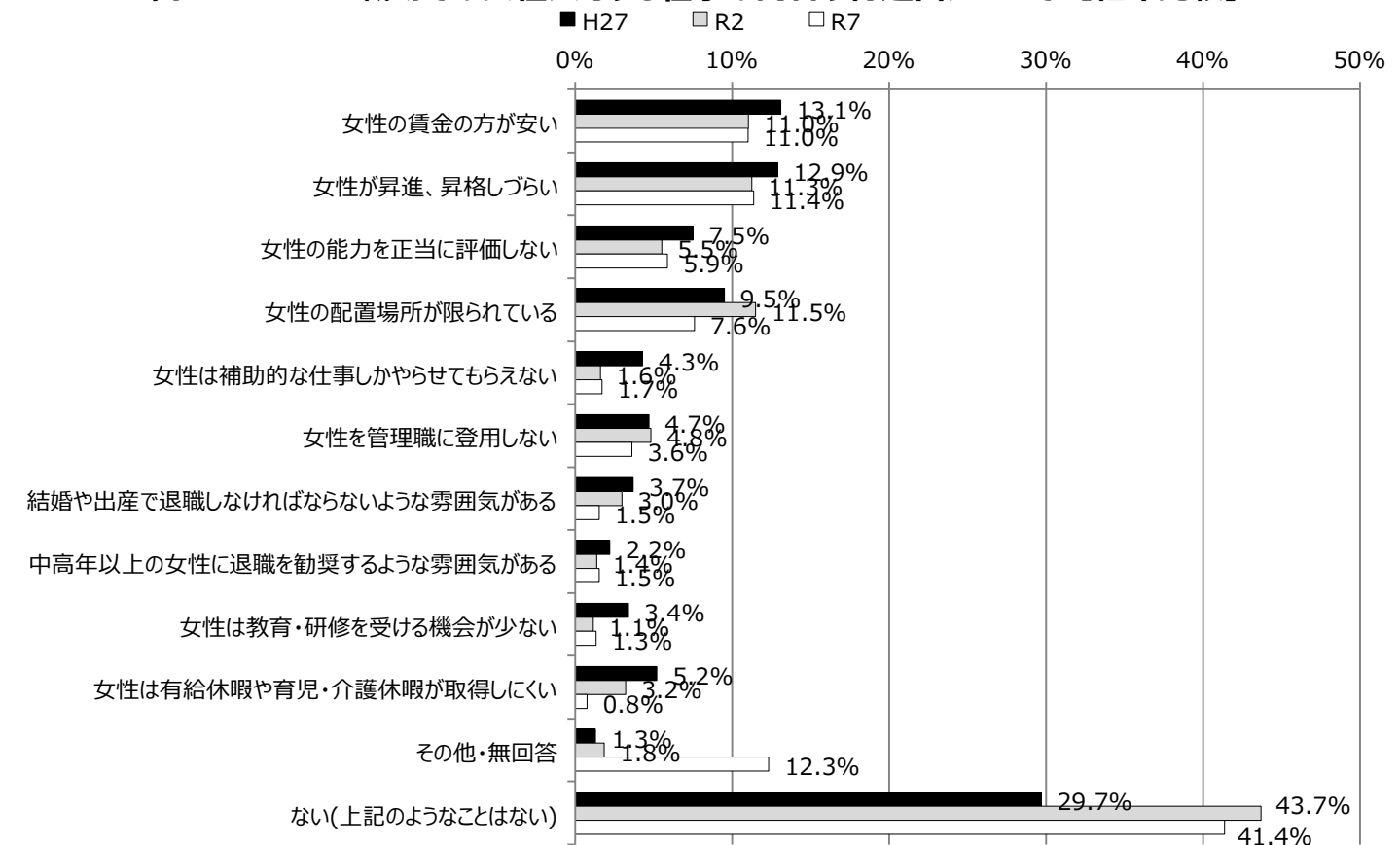
その他の内容は、次のとおりである。

店長（男）が気に入った女性は優遇される。	女性	10歳代・20歳代
男性が働いていない、女性のみ	女性	30歳代
ハラスメントが日常的にある	女性	30歳代
気を使いすぎている。生理休暇を申請させているが、良くないと思っている。ただの体調不良で欠勤でいいはず。	男性	30歳代
女性は家庭に入っているべきというような風潮がある。子どもがいる女性に上層部は特に風当たりが厳しい	女性	30歳代
女性がいらない	男性	40歳代
女性の方が休みを取りやすい	男性	40歳代
男性がいらないのでわからない	女性	50歳代
仕事を選ぶのに責任を持ってない	男性	50歳代
大事な仕事の機会を得ても期待に応えられないケースが多い	男性	50歳代
多忙期でも家事の代わりはしてもらえない	女性	60歳代
そもそも求人では事務限定・パート限定	男性	60歳代
分からない	女性	60歳代
足腰にこたえる重い荷物を扱う労働だが、忙しいときは休憩時間を短縮される。	女性	60歳代
女性はいらない	男性	60歳代
技術職なので男女関係ない	女性	60歳代
不明	男性	70歳以上

問 10 - 2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面について



問 10 - 2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面について【経年比較】



●職場での女性に対する仕事の内容や待遇面について●

◎「ない(選択肢のようなことはない)」(全体41.4%)が、男女とも約4割を占めているが、令和2年度(43.7%)からは2.3ポイント減少している。令和2年度は「女性の配置場所が限られている」(11.5%)が続いたが、今回調査(7.6%)では3.9ポイント減少している。

◎次いで、「女性が昇進、昇格しづらい」(11.4%)、「女性の賃金の方が安い」(11.0%)が続いている。

問 10-3 過去の職歴の有無（現在、家事専業、または無職の方）

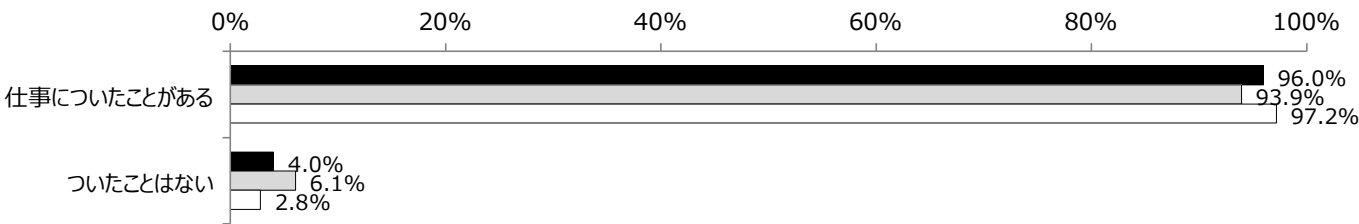
問 10-3 あなたは、今までに仕事についてことがありますか。(1つだけ選択)

◎過去に仕事についていたことがある人が、男女とも大半を占めている。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事についてことがある	167	96.0%	62	93.9%	104	97.2%	1	100.0%
ついたことはない	7	4.0%	4	6.1%	3	2.8%	0	0.0%
合計	174	100.0%	66	100.0%	107	100.0%	1	100.0%

問 10-3 過去の職歴の有無（現在、家事専業、または無職の方）

■全体 □男性 □女性



問 10-4 現在、働いていない理由（現在、家事専業、または無職の方）

問 10-4 あなたが、現在働いていない理由は、どれにあてはまりますか。(1つだけ選択)

◎働いていない理由は高齢であることの他に、男性は「健康に自信がない」、女性は「働かなくても経済的に困らない」が続いている。

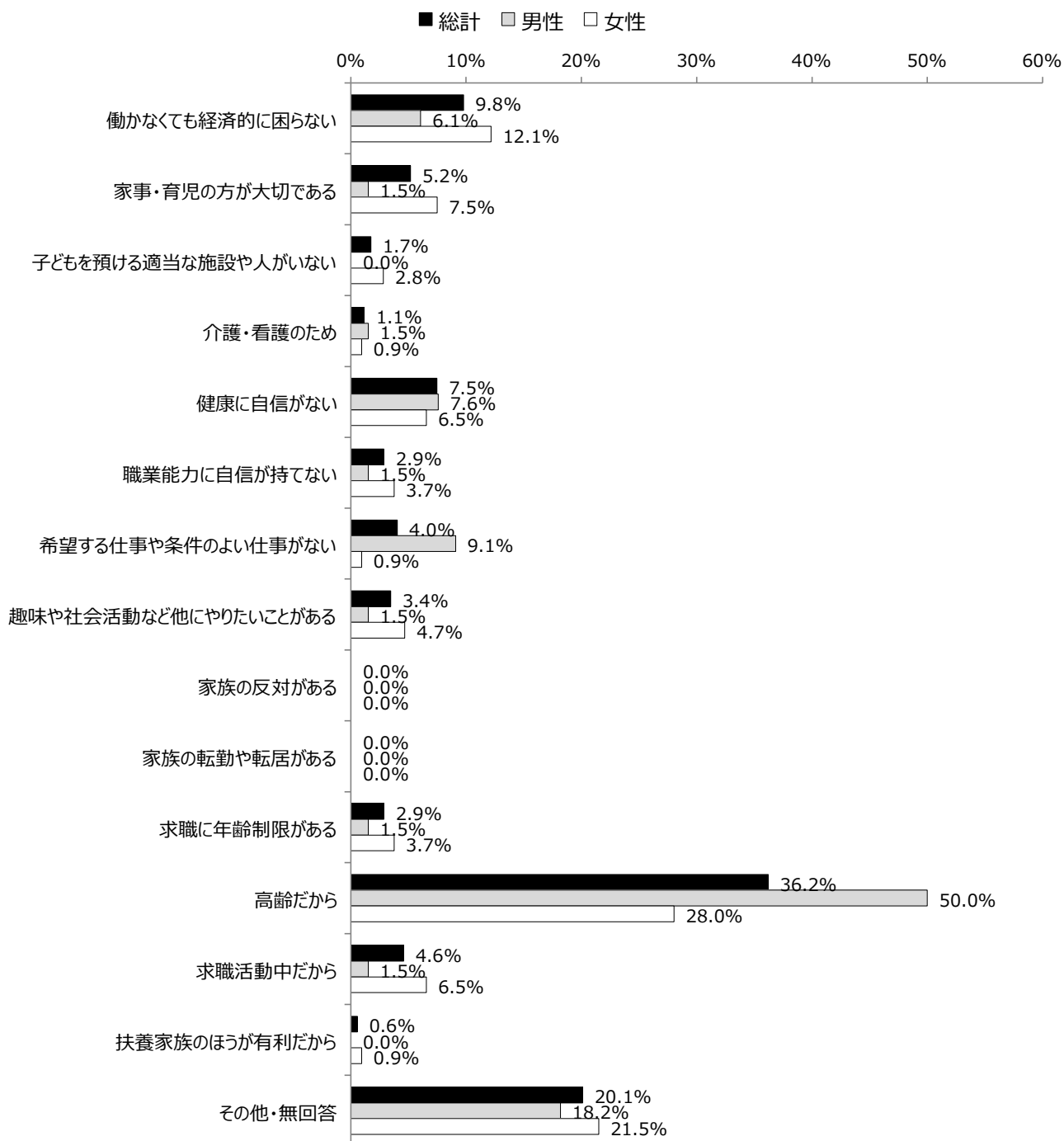
選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
働かなくても経済的に困らない	17	9.8%	4	6.1%	13	12.1%	0	0.0%
家事・育児の方が大切である	9	5.2%	1	1.5%	8	7.5%	0	0.0%
子どもを預ける適当な施設や人がいない	3	1.7%	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%
介護・看護のため	2	1.1%	1	1.5%	1	0.9%	0	0.0%
健康に自信がない	13	7.5%	5	7.6%	7	6.5%	1	0.9%
職業能力に自信が持てない	5	2.9%	1	1.5%	4	3.7%	0	0.0%
希望する仕事や条件のよい仕事がない	7	4.0%	6	9.1%	1	0.9%	0	0.0%
趣味や社会活動など他にやりたいことがある	6	3.4%	1	1.5%	5	4.7%	0	0.0%
家族の反対がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
家族の転勤や転居がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
求職に年齢制限がある	5	2.9%	1	1.5%	4	3.7%	0	0.0%
高齢だから	63	36.2%	33	50.0%	30	28.0%	0	0.0%
求職活動中だから	8	4.6%	1	1.5%	7	6.5%	0	0.0%
扶養家族のほうに有利だから	1	0.6%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%
その他・無回答	35	20.1%	12	18.2%	23	21.5%	0	0.0%
合計	174	100.0%	66	100.0%	107	100.0%	1	0.9%

その他の内容は、次のとおりである。

バイト	男性	10歳代・20歳代
夫が忙しいので、私まで働くと家事・育児・仕事を一人でこなすことになる。それは無理だと思ったので。	女性	30歳代

子供が欲しいため。タイミングが読めないため就職してすぐ妊娠したら職場に迷惑がかかるため、なかなか働きたくても働けない	女性	30歳代
過去に患った病気の後遺症で就労に不安がある為。	女性	30歳代
介護、相続手続き、実家売却	女性	50歳代
病気療養中	女性	60歳代
病気後のケアのため	女性	60歳代
定年退職したばかりだから	女性	60歳代
病気があるから	女性	70歳以上
ボランティアで働いている	女性	70歳以上
ケガをした為、休職から退職へ	女性	70歳以上

問10-4 現在、働いていない理由（現在、家事専業、または無職の方）



問 10-5 今後の仕事について（現在、家事専業、または無職の方）

問 10-5 今後、仕事をしたいと思いますか。（1つだけ選択）

◎60歳以上では「働くつもりはない」が4割以上を占めるが、40歳代までは「正社員として働きたい」「パート・アルバイトとして働きたい」が半数を占める。

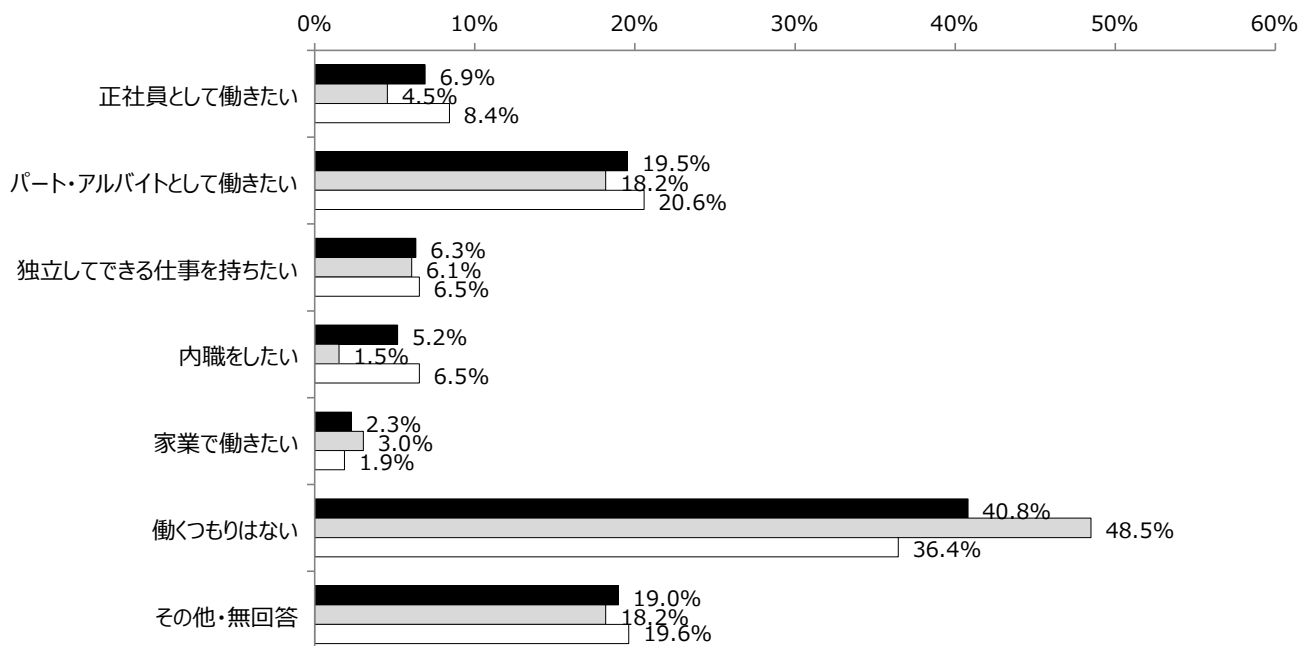
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
正社員として働きたい	12	6.9%	3	4.5%	9	8.4%	0	0.0%
パート・アルバイトとして働きたい	34	19.5%	12	18.2%	22	20.6%	0	0.0%
独立してできる仕事を持ちたい	11	6.3%	4	6.1%	7	6.5%	0	0.0%
内職をしたい	9	5.2%	1	1.5%	7	6.5%	1	100.0%
家業で働きたい	4	2.3%	2	3.0%	2	1.9%	0	0.0%
働くつもりはない	71	40.8%	32	48.5%	39	36.4%	0	0.0%
その他・無回答	33	19.0%	12	18.2%	21	19.6%	0	0.0%
合計	174	100%	66	100%	107	100%	1	100%

その他の内容は、次のとおりである。

個人で家でできる仕事を増やしたい。	女性	40歳代
子供が自立し、親の介護が終わったら。	女性	50歳代
何かしらはしたいとは思っている	女性	50歳代
ボランティアとかやってみたい	女性	60歳代
ボランティアとして活動している	女性	70歳以上
自分のために働く	女性	70歳以上
現在病気、元気になれば働きたい	男性	70歳以上
病気の為、働けない	女性	70歳以上
仕事内容による	女性	70歳以上
働かなければいけない環境になれば働く	女性	70歳以上
働きたいが健康に自信がない	女性	70歳以上

問 10-5 今後の仕事について（現在、家事専業、または無職の方）

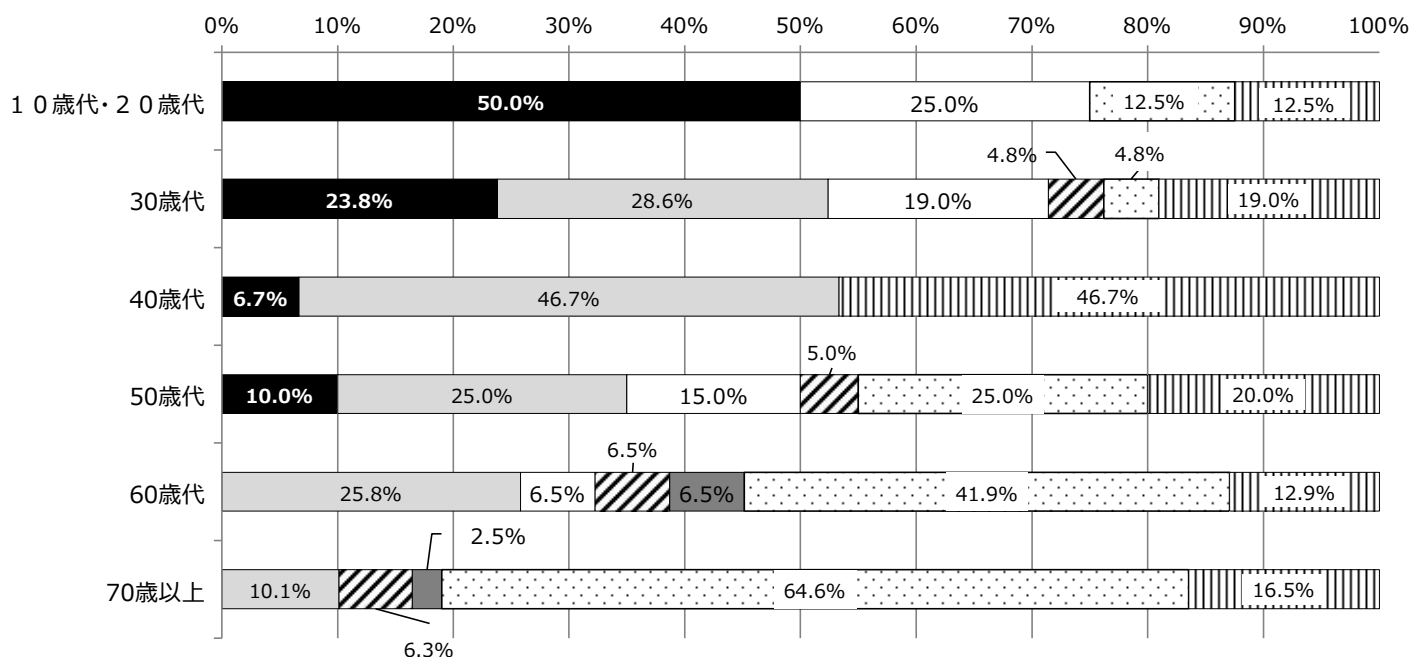
■全体 □男性 □女性



選択項目	総計		10歳代・20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
正社員として働きたい	12	6.9%	4	50.0%	5	23.8%	1	6.7%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
パート・アルバイトとして働きたい	34	19.5%	0	0.0%	6	28.6%	7	46.7%	5	25.0%	8	25.8%	8	10.1%
独立してできる仕事を持ちたい	11	6.3%	2	25.0%	4	19.0%	0	0.0%	3	15.0%	2	6.5%	0	0.0%
内職をしたい	9	5.2%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	1	5.0%	2	6.5%	5	6.3%
家業で働きたい	4	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.5%	2	2.5%
働くつもりはない	71	40.8%	1	12.5%	1	4.8%	0	0.0%	5	25.0%	13	41.9%	51	64.6%
その他	33	19.0%	1	12.5%	4	19.0%	7	46.7%	4	20.0%	4	12.9%	13	16.5%
合計	174	100%	8	100%	21	100%	15	100%	20	100%	31	100%	79	100%

問10-5 今後の仕事について（現在、家事専業、または無職の方）【年代別】

- ☒ 正社員として働きたい
 ☐ パート・アルバイトとして働きたい
 ☐ 独立してできる仕事を持ちたい
☒ 内職をしたい
 ☒ 家業で働きたい
 ☐ 働くつもりはない
☐ その他



●現在、家事専業、無職の方の今後の仕事について●

◎全体では男女ともに「働くつもりはない」（40.8%）が最も高い割合となり、男女ともに「パート・アルバイトとして働きたい」（19.5%）が続いている。

◎年齢別でみると、40歳代以下では「正社員として働きたい」「パート・アルバイトとして働きたい」が半数を超えており、特に10歳代・20歳代においては「正社員として働きたい」（50.0%）が半数を占めている。その一方で60歳代以上では「働きたくない」が4割を超えており、年齢と労働意欲への関係性が伺える。

3. 子育てと学校教育について

問 1 1 子どもの育て方について

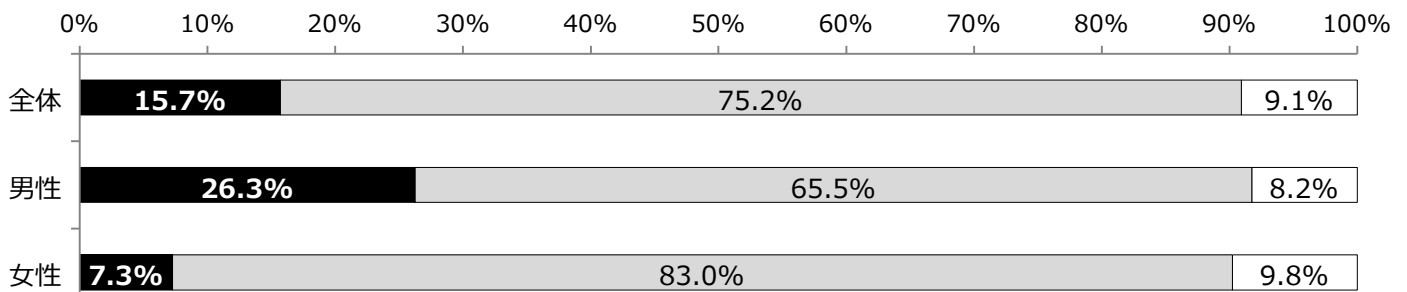
問 1 1 あなたは、子どもをどのように育てたほうが良いと思いますか。お子さんのいない方も、一般的な問題としてお答えください。(1つだけ選択)

◎男女とも、「性別にこだわらず育てた方がよい」と思う人が多い。

選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい	90	15.7%	67	26.3%	23	7.3%	0	0.0%
性別にこだわらず、育てたほうがよい	431	75.2%	167	65.5%	263	83.0%	1	100.0%
わからない	52	9.1%	21	8.2%	31	9.8%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

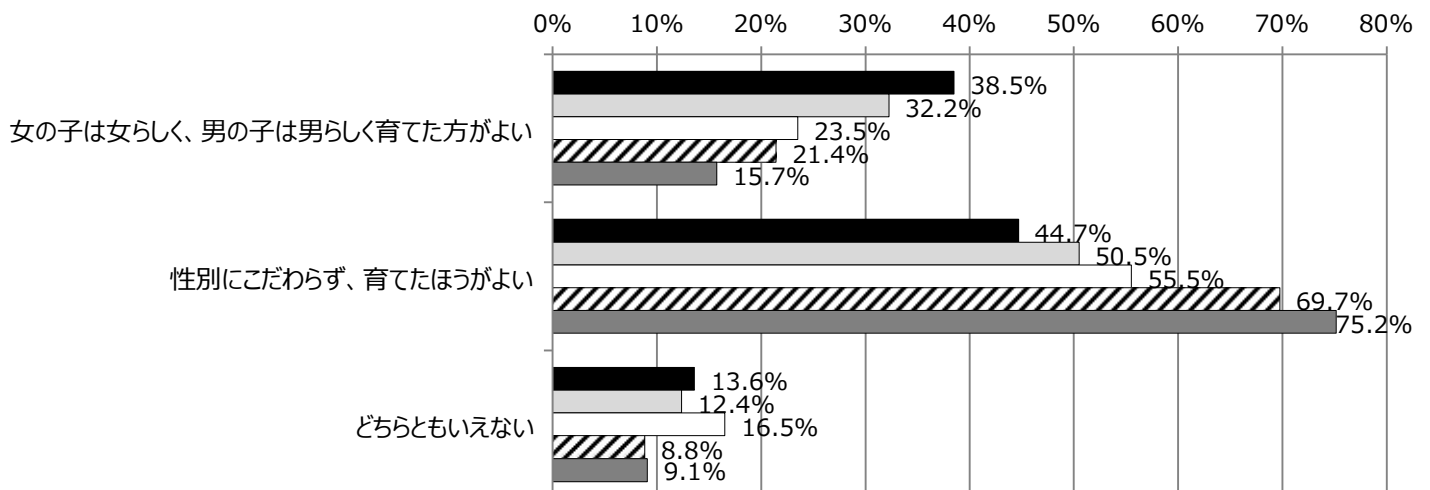
問 1 1 子どもの育て方について

■ 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい □ 性別にこだわらず、育てたほうがよい □ わからない



問 1 1 子どもの育て方について【経年比較】

■ H17 □ H22 □ H27 ▨ R2 ■ R7



●子どもの育て方について●

- ◎男女とも「性別にこだわらず、育てた方がよい」の割合が最も高い(男性65.5%、女性83.0%) が、女性の方が男性よりも17.5ポイント高い状況である。
- ◎「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」は、女性(7.3%)よりも男性(26.3%)の方が割合が高くなっている。
- ◎過去調査と比較すると、年々「性別にこだわらず、育てた方がよい」の割合が増えており、平成17年度(44.7%)からは30.5ポイントも増加している。

問 1 2 学校における男女平等教育への要望

現在、市内の学校では、出席簿や名簿を男女混合にするなど、男女平等教育についてのさまざまな取り組みを行っております。あなたが、今後、学校における男女平等教育で特に取り入れて欲しいことや、力を入れて欲しいと思うものを次の中からお答えください。(1つだけ選択)

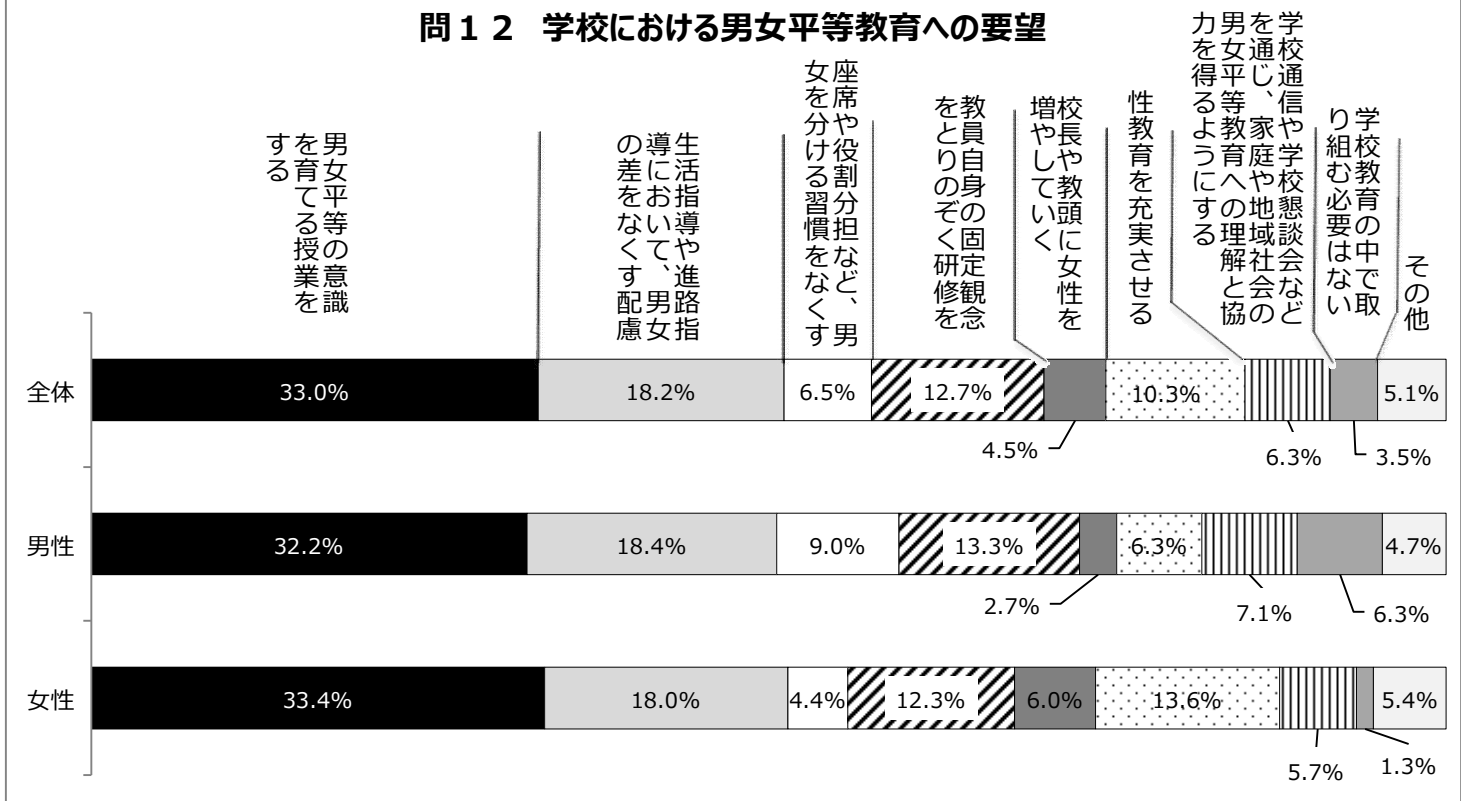
◎男女ともに「男女平等の意識を育てる授業をする」が最も高く、また、特に女性では「性教育を充実させる」ことへの要望も多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女平等の意識を育てる授業をする	189	33.0%	82	32.2%	106	33.4%	1	100.0%
生活指導や進路指導において、男女の差をなくす配慮をする	104	18.2%	47	18.4%	57	18.0%	0	0.0%
座席や役割分担など、男女を分ける習慣をなくす	37	6.5%	23	9.0%	14	4.4%	0	0.0%
教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う	73	12.7%	34	13.3%	39	12.3%	0	0.0%
校長や教頭に女性を増やしていく	26	4.5%	7	2.7%	19	6.0%	0	0.0%
性教育を充実させる	59	10.3%	16	6.3%	43	13.6%	0	0.0%
学校通信や学校懇談会などを通じ、家庭や地域社会の男女平等教育への理解と協力を得るようにする	36	6.3%	18	7.1%	18	5.7%	0	0.0%
学校教育の中で取り組む必要はない	20	3.5%	16	6.3%	4	1.3%	0	0.0%
その他・無回答	29	5.1%	12	4.7%	17	5.4%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

わからない	男性	10歳代・20歳代
そもそも男女平等は無理だと思う	男性	30歳代
無理に男女の差をなくすのではなく、男女の特性を理解し、LGBTに関する差別意識をなくすことで、お互いを尊重し、個々の特性に対して寛容な社会につながる教育に取り組んでほしい	男性	30歳代
内申点が女子の方が高いデータがある。東京は実際に女子と男子で基準を変えている。埼玉にも導入すべきだと感じる。生物の発達段階として、女子の方が自意識の目覚めが早く、中1の内申点に大きな差が出ている。	男性	30歳代
悪平等を感じるので、まともに教育してほしい	男性	30歳代
男女平等だけを謳うのではなく、男性と女性での考え方や身体が様々、お互い理解しあえるような教育にしてほしい	女性	40歳代
わからない	男性	40歳代
よくわからない	女性	50歳代
男・女、とかいつているうちは何も変わらない	男性	50歳代
男女の違いをりかいしたうえで尊重しあえるような意識を育む	女性	50歳代
特にない	男性	60歳代
教員が生徒達の模範となるような行動をし、一人ひとりに向き合う姿勢が大事	女性	60歳代
今のままでいい	男性	60歳代
男女平等とさわがず人間として扱い育てて欲しい	女性	60歳代
すべて平等にしくなくても良い！助け合う事の大切さを教える。	女性	70歳以上

問 1 2 学校における男女平等教育への要望



●学校教育について●

◎男女ともに「男女平等の意識を育てる授業をする」（全体33.0%）が最も割合が高く、次いで「生活指導や進路指導において、男女の差をなくす配慮をする」（全体18.2%）「教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う」（12.7%）が続いている。

◎女性では「性教育を充実させる」（13.6%）が男性（6.3%）よりも7.3ポイント高く、リプロダクティブ・ヘルスライツ（性と生殖に関する健康と権利）への関心の高さが伺える。

4. 男女の人権について

問 1 3 セクシュアル・ハラスメントや男女差別の経験の有無

問13 あなたは、職場・学校・地域などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）や男女差別を見たり聞いたり、受けたり、あるいは行った経験がありますか。（あてはまるものすべて選択）

◎男女ともに「嫌がっているのに性的な話をする」「『女のくせに』『男のくせに』と差別的な言い方を
する」ことを見たり聞いたりしたことがある割合が高い。

	男性						女性					
	見たり聞いたりしたことがある		受けたことがある		したことがある		見たり聞いたりしたことがある		受けたことがある		したことがある	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
嫌がっているのに性的な話をする	114	44.7%	4	1.6%	5	2.0%	86	27.1%	58	18.3%	4	1.3%
「女のくせに」「男のくせに」と差別的な言い方を する	113	44.3%	24	9.4%	14	5.5%	114	36.0%	80	25.2%	15	4.7%
結婚や異性との交流についてしつこく聞く	96	37.6%	11	4.3%	3	1.2%	86	27.1%	49	15.5%	6	1.9%
容姿について傷つくようなことを言う	108	42.4%	29	11.4%	15	5.9%	100	31.5%	81	25.6%	8	2.5%
宴会でお酒やデュエットを強要する	88	34.5%	17	6.7%	5	2.0%	63	19.9%	51	16.1%	2	0.6%
異性の体を触る	97	38.0%	6	2.4%	8	3.1%	71	22.4%	72	22.7%	4	1.3%
交際を強要する	53	20.8%	2	0.8%	3	1.2%	58	18.3%	20	6.3%	2	0.6%
性的行為を強要する	50	19.6%	2	0.8%	2	0.8%	54	17.0%	19	6.0%	2	0.6%
帰宅途中などに後をつける、付きまとう	60	23.5%	4	1.6%	3	1.2%	56	17.7%	44	13.9%	2	0.6%
その他・無回答	10	3.9%	3	1.2%	1	0.4%	9	2.8%	11	3.5%	1	0.3%
合計	789		102		59	0.0%	697		485		46	

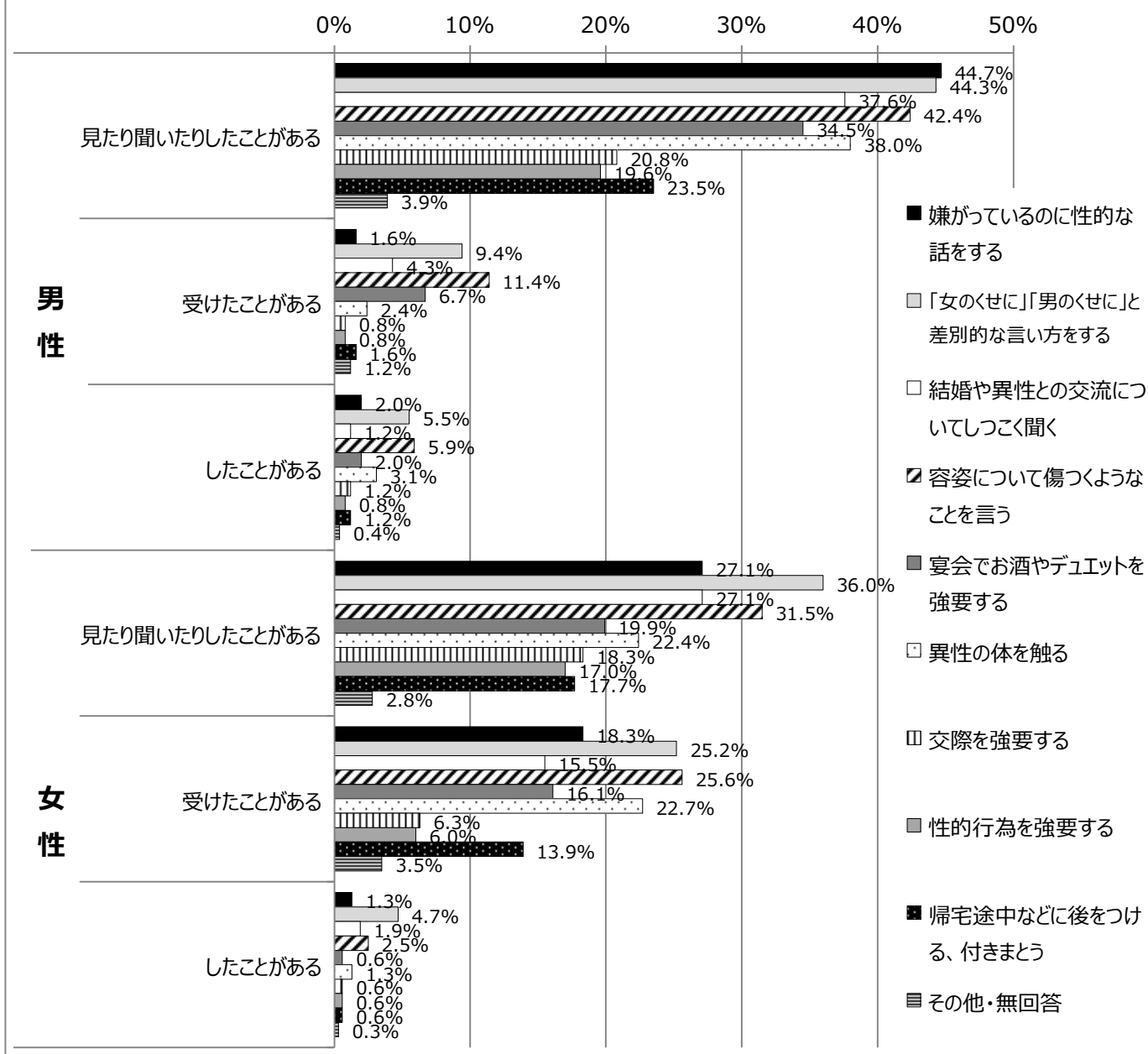
	その他					
	見たり聞いたりしたことがある		受けたことがある		したことがある	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
嫌がっているのに性的な話をする	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
「女のくせに」「男のくせに」と差別的な言い方を する	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
結婚や異性との交流についてしつこく聞く	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
容姿について傷つくようなことを言う	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
宴会でお酒やデュエットを強要する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
異性の体を触る	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
交際を強要する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
性的行為を強要する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
帰宅途中などに後をつける、付きまとう	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	0	0.0%	0	+	0	0.0%
合計	3		0		0	0.0%

※構成比は、各性別人数（男性255、女性317、その他1）に対しての割合

その他の内容は、次のとおりである。

「女性の人」など女性であることを強調した言い方をする（男性の場合は強調しない）	男性	10歳代・20歳代
●●警察署の男性警官に夫からの性的DVについて相談したが、ただの夫婦げんか位の扱いで真剣に取り合っていただけなかった。夫に対しては仕事を頑張ってる等、寄り添う言葉をかけていた。	女性	30歳代
電車で痴漢、飲み会で陰部を見させられる、職場で子持ちは使えないなどの発言、転職活動の際に結婚を伝えて内定取り消し	女性	30歳代
男女構わず下ネタを話す事がある	女性	40歳代
お尻を触られる	女性	40歳代
令和では見かけないです	女性	50歳代
娘が学校で教師から身体を触られた	女性	50歳代
コミュニケーション不足なだけ。コミュニケーションを友好にすれば起きない。	男性	50歳代
過去の職場では、女だから・・とか平気で話をする男性は結構いた（最近では少ないが）	男性	60歳代
職場の上司から、電車内で、	女性	70歳以上

問13 セクシュアル・ハラスメントや男女差別の経験の有無



●セクシュアル・ハラスメントや男女差別の経験の有無●

◎セクシュアル・ハラスメントや男女差別を見たり聞いたりした経験で、最も多いのは、男性では「嫌がっているのに性的な話をする」(44.7%)で、女性は「『女のくせに』『男のくせに』と差別的な言い方をする」(36.0%)、であった。

◎セクシュアル・ハラスメントを受けた経験では、男女ともに「容姿について傷つくようなことを言う」(男性11.4%、女性25.6%)が最も高く、女性では「『女のくせに』『男のくせに』と差別的な言い方をする」(25.2%)が大差なく続いた。全ての項目において男性よりも女性の方が受けた経験を有する方の割合が高くなっているが、性別に関わらず被害に合った方は確実に存在している。

◎セクシュアル・ハラスメントをしたことがある経験では、男性では「容姿について傷つくようなことを言う」(5.9%)が最も割合が高く、女性では「『女のくせに』『男のくせに』と差別的な言い方をする」(4.7%)が最も高い結果となった。

問14 DV経験の有無

問14 現在、配偶者や恋人といった親密な関係にある人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっています。あなたは今までに、配偶者や恋人から、次のような行為を受けたことがありますか。（それぞれ1つだけ選択）

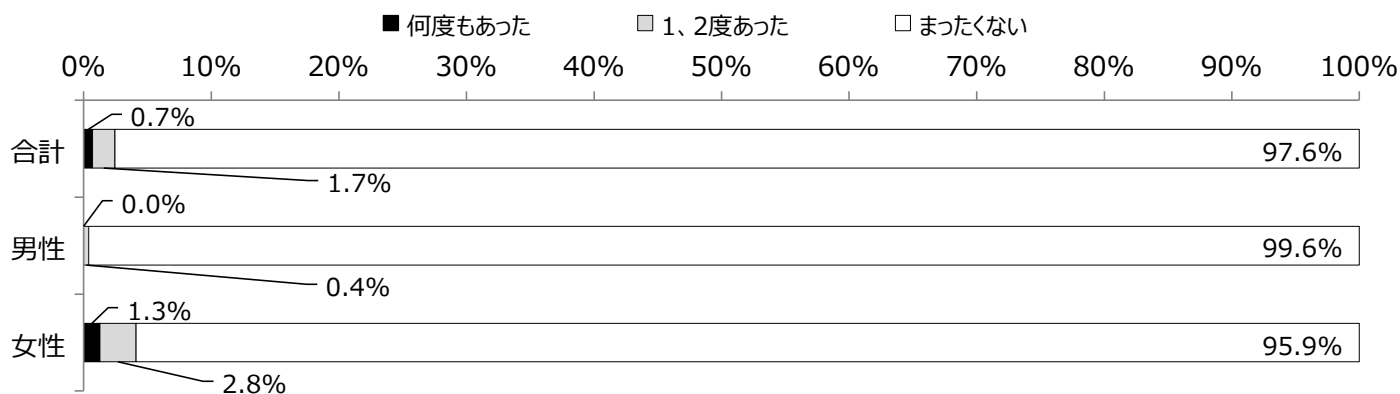
◎男女とも「大声でどなられる」経験をした人が最も多く、次に「何を言っても無視され続ける」が続いた。

●身体的暴力を受けた経験の有無

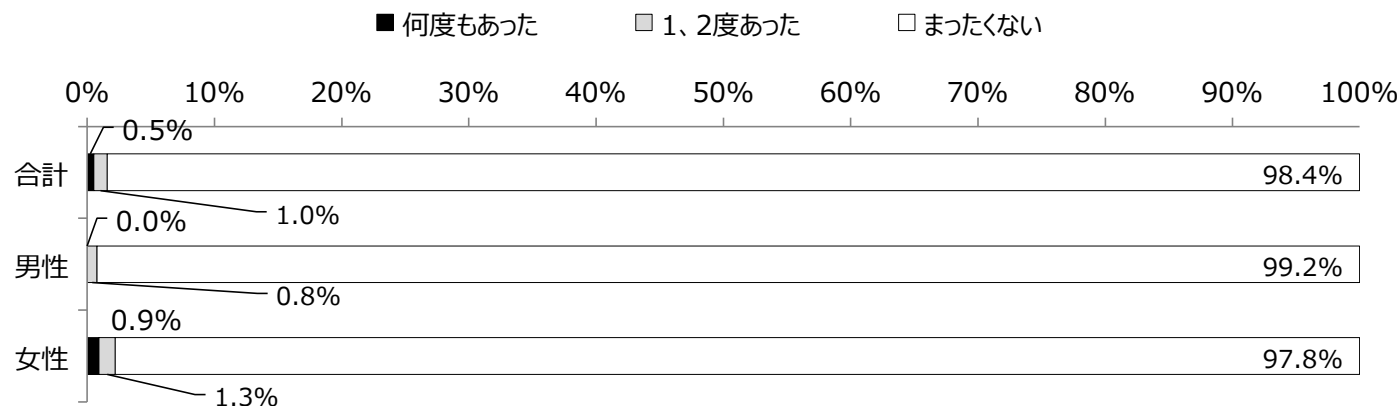
選択項目	全体			
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計
（ア）命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	4 0.7%	10 1.7%	559 97.6%	573 100.0%
（イ）医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける	3 0.5%	6 1.0%	564 98.4%	573 100.0%
（ウ）医師の治療が必要とまらない程度の暴行を受ける	9 1.6%	19 3.3%	545 95.1%	573 100.0%

選択項目	男性				女性				その他			
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計
（ア）命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	0 0.0%	1 0.4%	254 99.6%	255 100.0%	4 1.3%	9 2.8%	304 95.9%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
（イ）医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける	0 0.0%	2 0.8%	253 99.2%	255 100.0%	3 0.9%	4 1.3%	310 97.8%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
（ウ）医師の治療が必要とまらない程度の暴行を受ける	0 0.0%	8 3.1%	247 96.9%	255 100.0%	9 2.8%	11 3.5%	297 93.7%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%

（ア）命の危険を感じるくらいの暴行を受ける

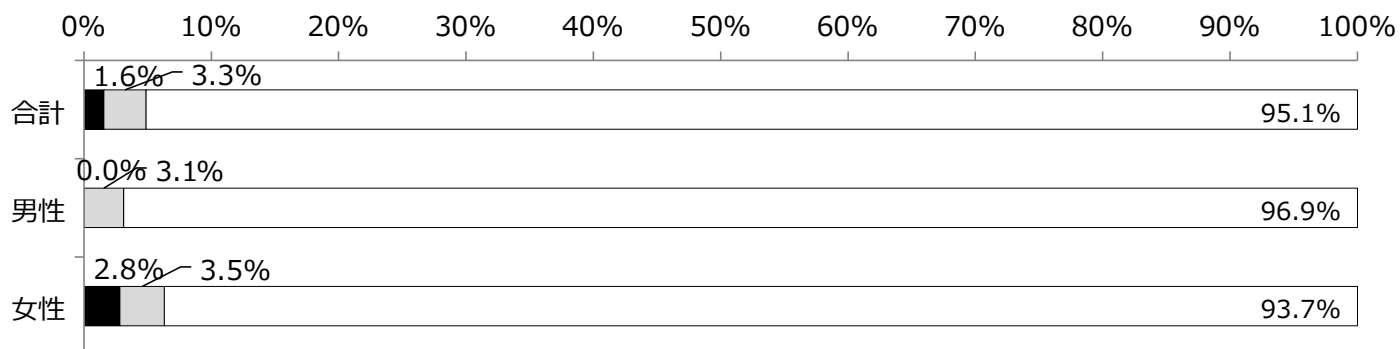


（イ）医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける



(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



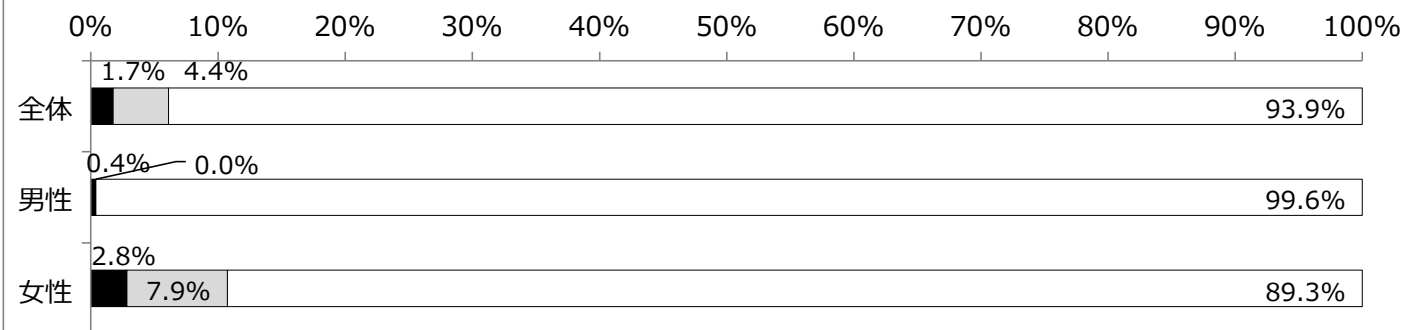
● 性的暴力を受けた経験の有無

選択項目	全体			
	何度もあった	1、2度あった	まったく	合計
(エ) 嫌がっているのに性的な行為を強要される	10 1.7%	25 4.4%	538 93.9%	573 100.0%
(オ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1 0.2%	9 1.6%	563 98.3%	573 100.0%
(カ) 避妊に協力しない	12 2.1%	22 3.8%	539 94.1%	573 100.0%

選択項目	男性				女性				その他			
	何度もあった	1、2度あった	まったく	合計	何度もあった	1、2度あった	まったく	合計	何度もあった	1、2度あった	まったく	合計
(エ) 嫌がっているのに性的な行為を強要される	1 0.4%	0 0.0%	254 99.6%	255 100.0%	9 2.8%	25 7.9%	283 89.3%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(オ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1 0.4%	0 0.0%	254 99.6%	255 100.0%	0 0.0%	9 2.8%	308 97.2%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(カ) 避妊に協力しない	0 0.0%	2 0.8%	253 99.2%	255 100.0%	12 3.8%	20 6.3%	285 89.9%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%

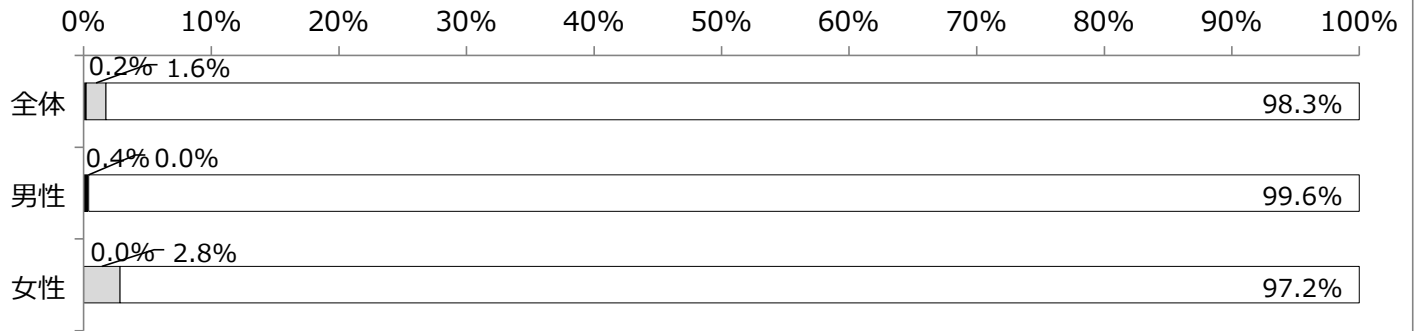
(エ) 嫌がっているのに性的な行為を強要される

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



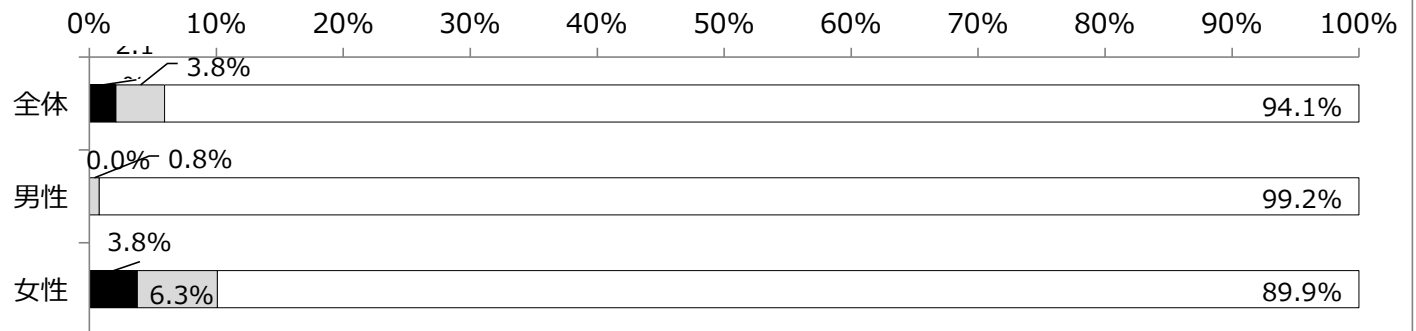
(オ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせられる

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



(カ) 避妊に協力しない

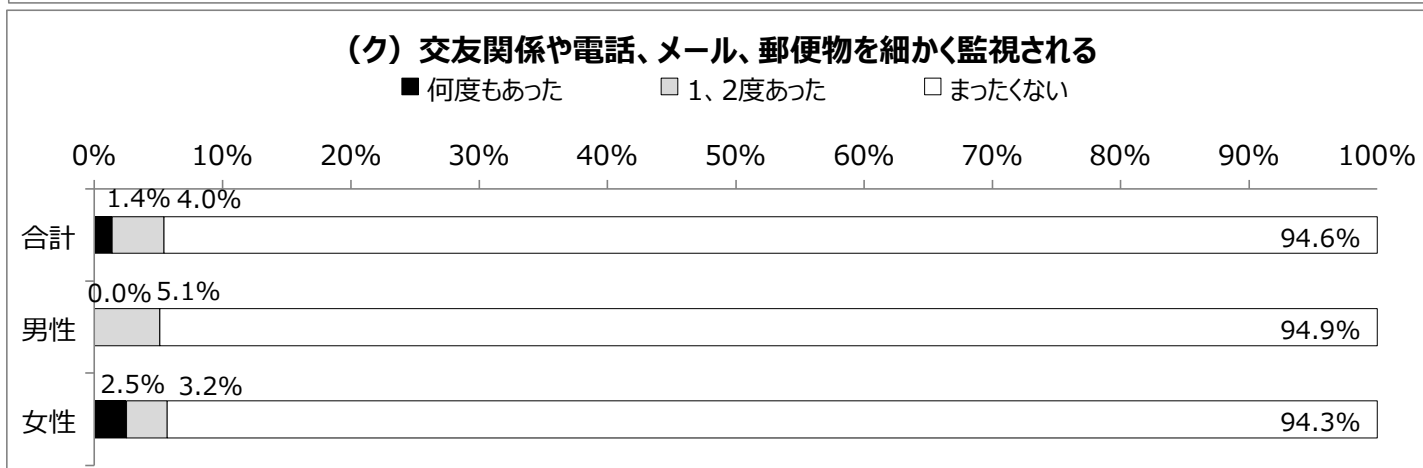
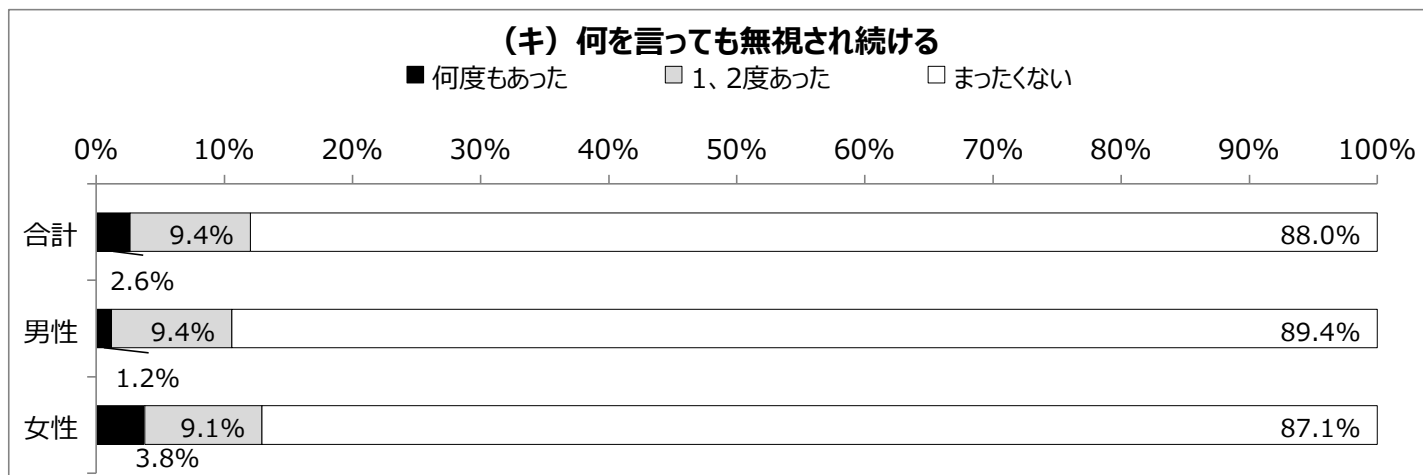
■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



●精神的暴力を受けた経験の有無

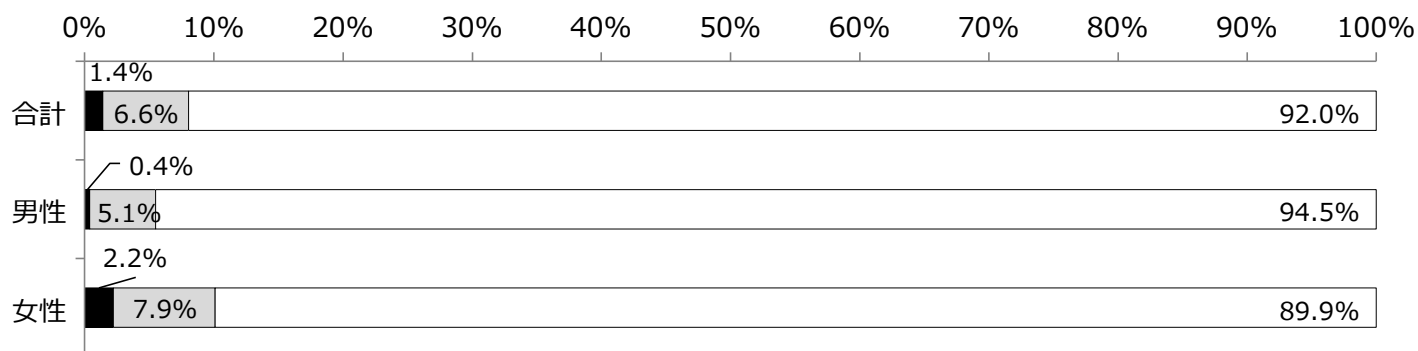
選択項目	全体			合計
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	
(キ) 何を言っても無視され続ける	15 2.6%	54 9.4%	504 88.0%	573 100.0%
(ク) 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視される	8 1.4%	23 4.0%	542 94.6%	573 100.0%
(ケ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」と言われる	8 1.4%	38 6.6%	527 92.0%	573 100.0%
(コ) 大声でどなられる	29 5.1%	82 14.3%	462 80.6%	573 100.0%
(サ) 「自分が家にいる時は外出しないように」という	5 0.9%	6 1.0%	562 98.1%	573 100.0%
(シ) 大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	6 1.0%	13 2.3%	554 96.7%	573 100.0%
(ス) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせる	8 1.4%	9 1.6%	556 97.0%	573 100.0%

選択項目	男性				女性				その他			
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	合計
(キ) 何を言っても無視され続ける	3 1.2%	24 9.4%	228 89.4%	255 100.0%	12 3.8%	29 9.1%	276 87.1%	317 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
(ク) 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視される	0 0.0%	13 5.1%	242 94.9%	255 100.0%	8 2.5%	10 3.2%	299 94.3%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(ケ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」と言われる	1 0.4%	13 5.1%	241 94.5%	255 100.0%	7 2.2%	25 7.9%	285 89.9%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(コ) 大声でどなられる	9 3.5%	27 10.6%	219 85.9%	255 100.0%	20 6.3%	54 17.0%	243 76.7%	317 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
(サ) 「自分が家にいる時は外出しないように」という	0 0.0%	2 0.8%	253 99.2%	255 100.0%	5 1.6%	4 1.3%	308 97.2%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(シ) 大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	3 1.2%	6 2.4%	246 96.5%	255 100.0%	3 0.9%	7 2.2%	307 96.8%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(ス) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせる	0 0.0%	2 0.8%	253 99.2%	255 100.0%	8 2.5%	7 2.2%	302 95.3%	317 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%



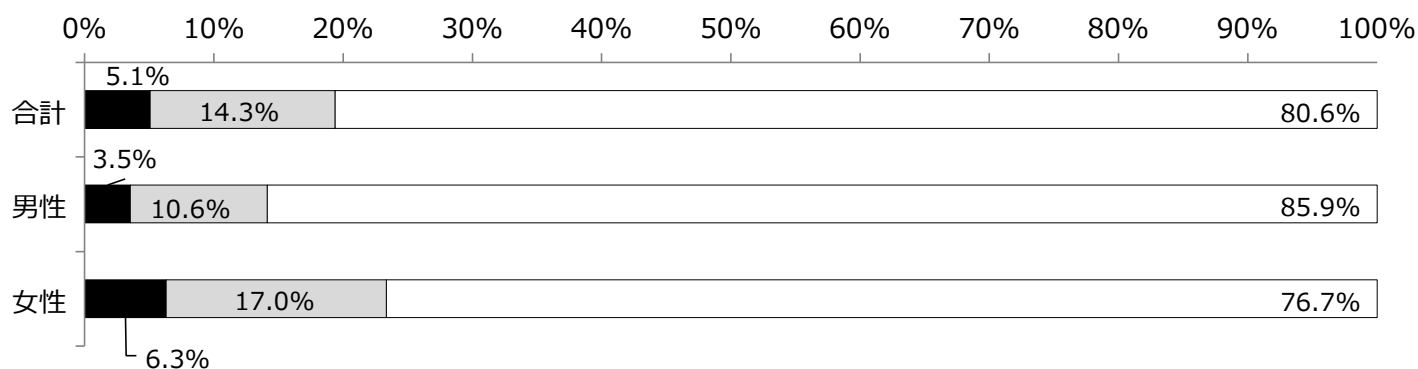
(ケ) 「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言われる

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



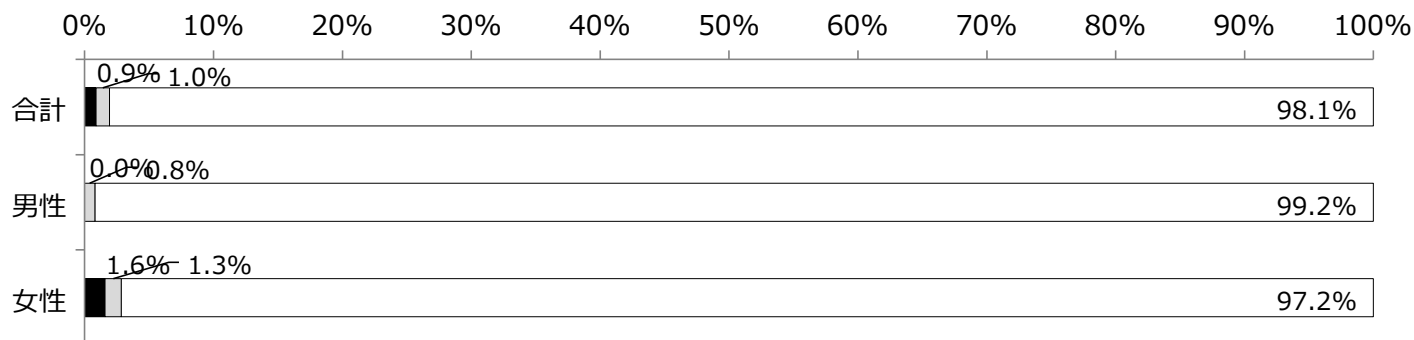
(コ) 大声でどなられる

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない



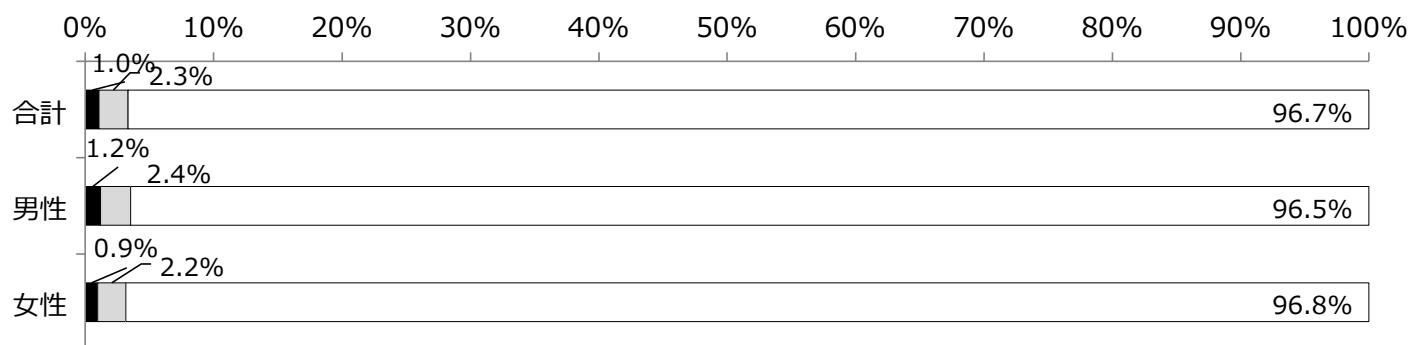
(サ) 「自分が家にいるときは外出しないように」という

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない

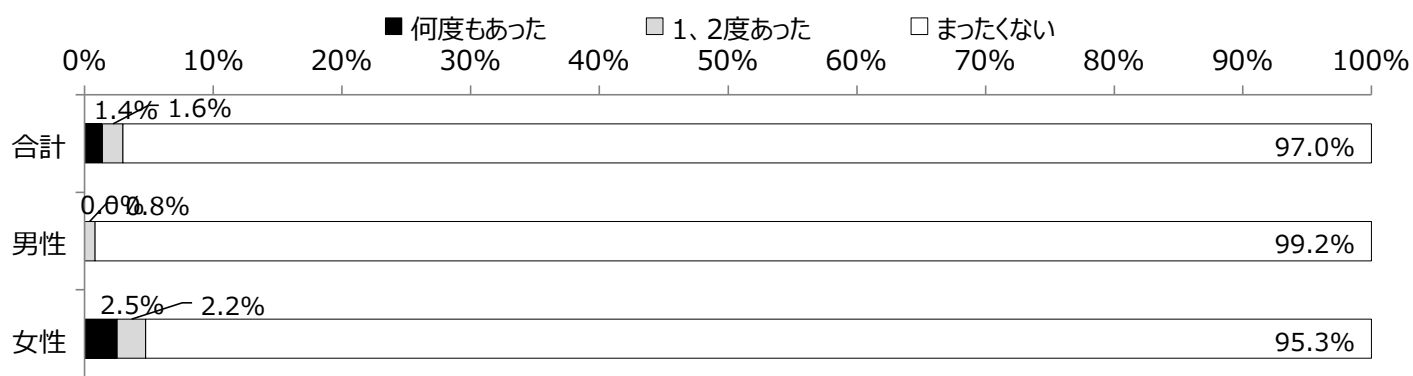


(シ) 大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする

■ 何度もあった □ 1、2度あった □ まったくない

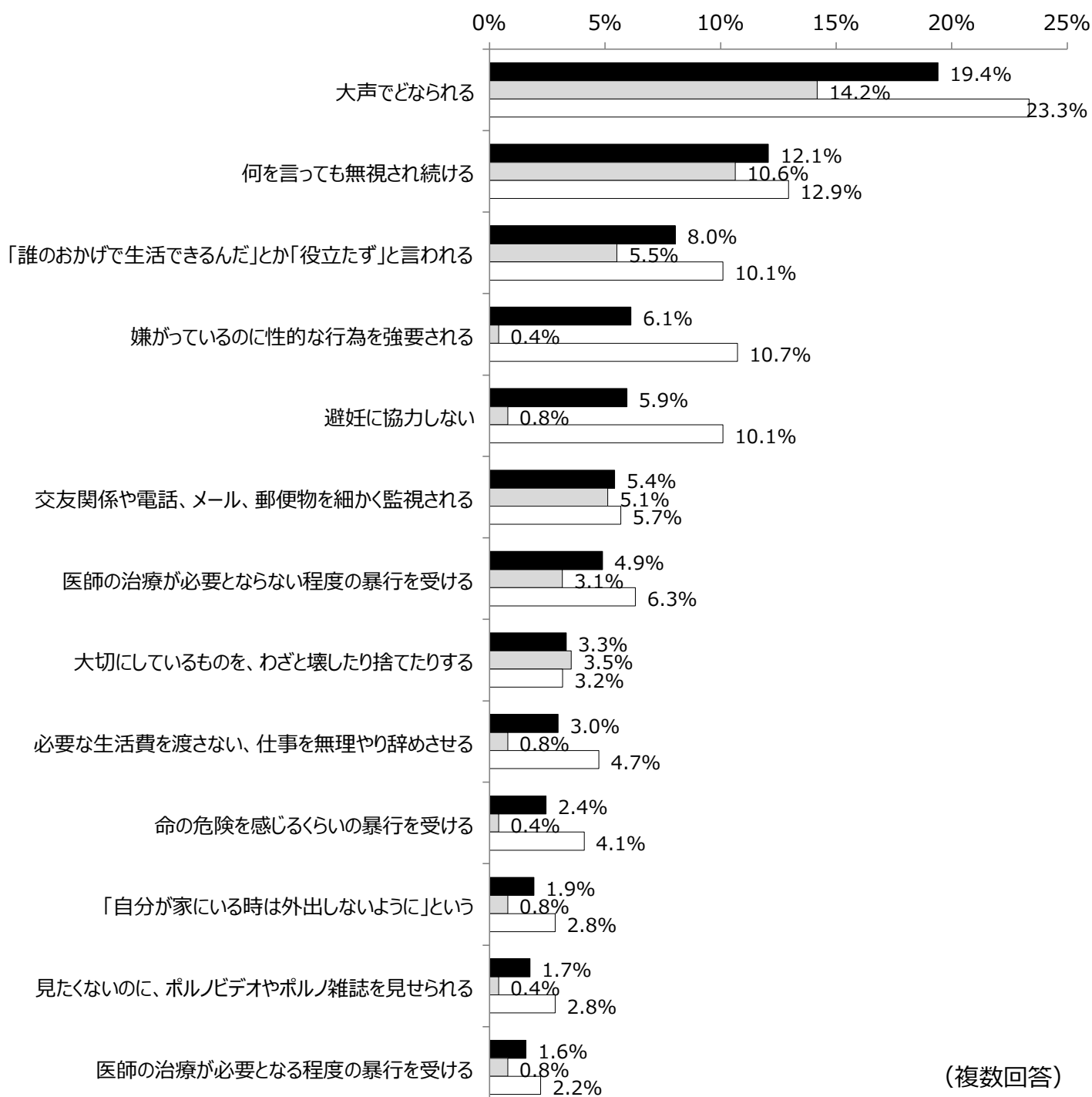


(ス) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせる



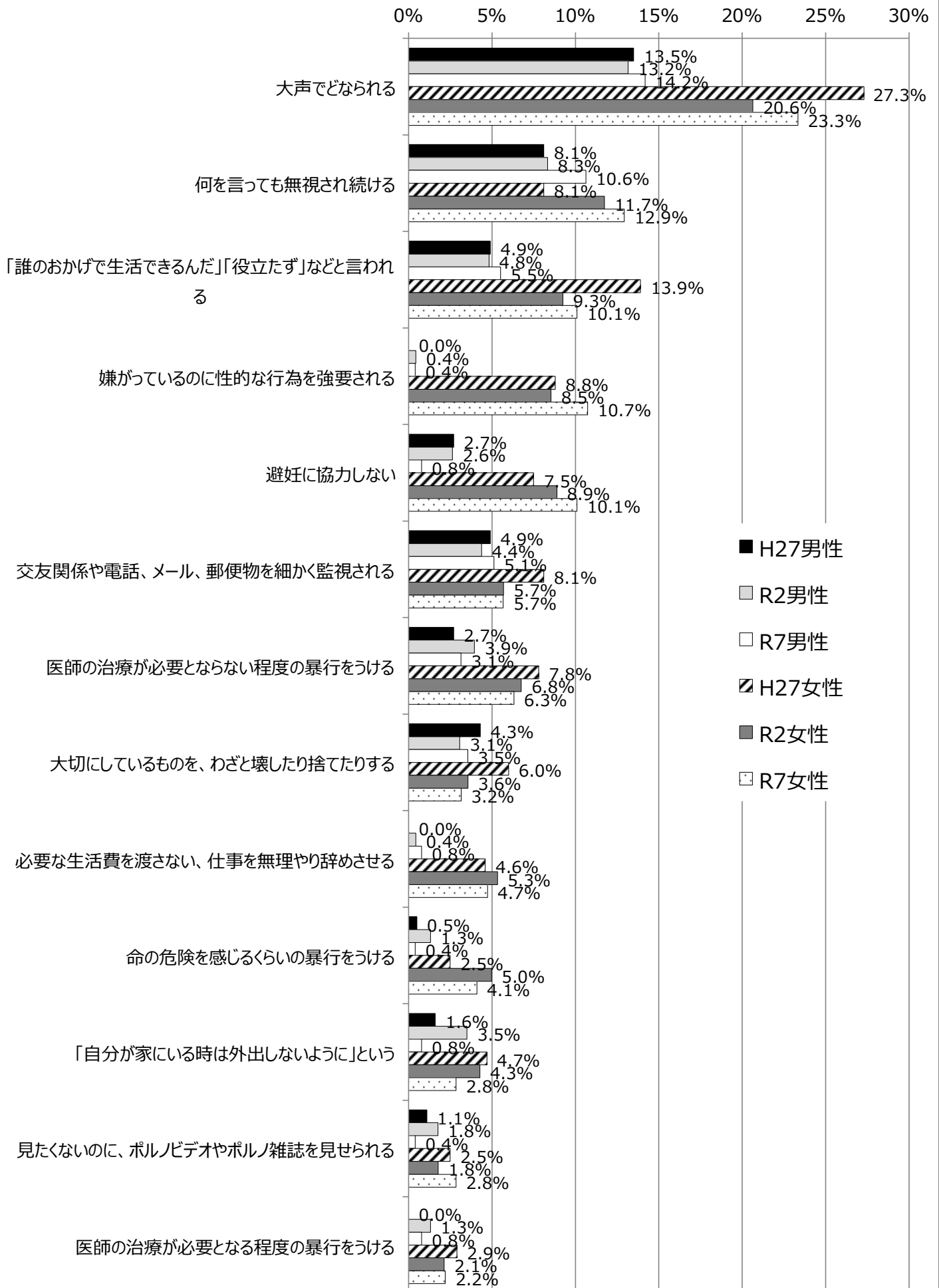
問14 DV経験の有無(多い順)

■ 全体 □ 男性 □ 女性



(複数回答)

問 1 4 D V 経験の有無【経年比較】(多い順)



●DV経験の有無●

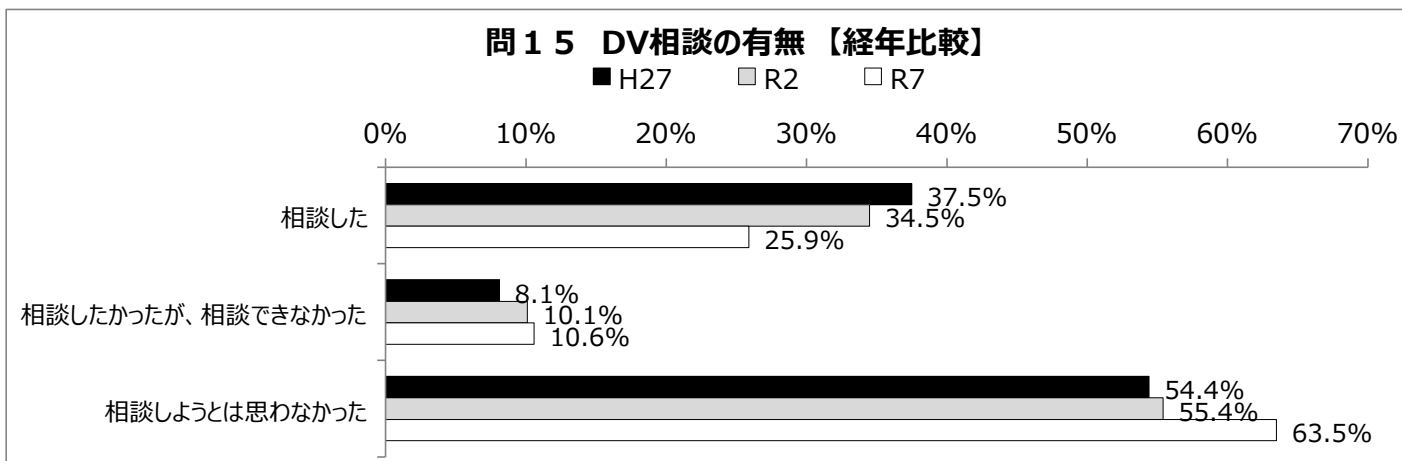
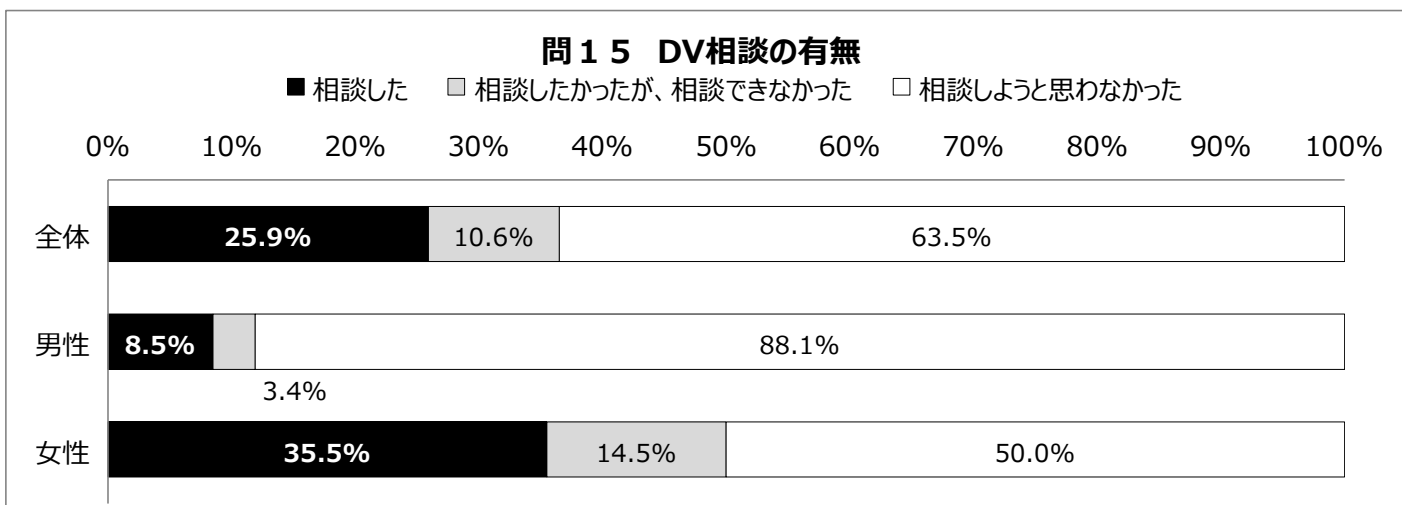
- ◎男女とも「大声でどなられる」を経験をしたことある人の割合が最も高い（男性14.2%、女性23.3%）。次いで、男女とも「何を言っても無視され続ける」（男性10.6%、女性12.9%）となっている。
- ◎身体的暴力については、過去調査と比較すると男女ともに減少傾向、または横ばい状態である。
- ◎性的暴力について、女性では経験した方の割合が増えており、「デートDV」の認知が高まっている可能性があると考えられる。特に「嫌がっているのに性的な行為を強要される」（10.7%）では、令和2年度（8.5%）から2.2ポイント増加した。
- ◎精神的暴力について、男女ともに経験した方の割合が増えている傾向にある。

問15 DV相談の有無（問14でDV経験があると回答した方）

問15 あなたはこれまでに、配偶者や恋人といった親しい関係にある人から受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（1つ選択。問14でDV経験があると回答した方のみ）

◎DVについて、相談しなかった方が男女ともに半数を超えている。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
相談した	44	25.9%	5	8.5%	39	35.5%	0	0.0%
相談したかったが、相談できなかった	18	10.6%	2	3.4%	16	14.5%	0	0.0%
相談しようと思わなかった	108	63.5%	52	88.1%	55	50.0%	1	0.9%
合計	170	100.0%	59	100.0%	110	100.0%	1	100.0%



問 15-1 DVについての相談先

問 15-1 実際に、誰（どこ）に相談しましたか。

(あてはまるものすべて選択、問14でDV経験があると回答した方のみ)

◎知人・友人または家族に相談した人が7割を占める。

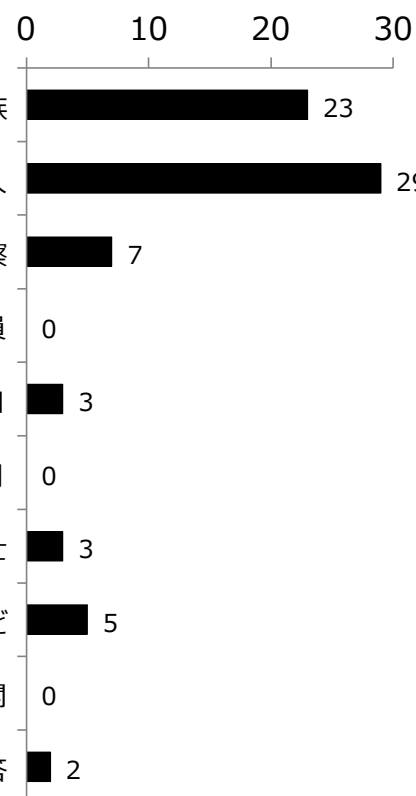
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家族	23	31.9%	0	0.0%	23	34.8%	0	0.0%
友人・知人	29	40.3%	4	66.7%	25	37.9%	0	0.0%
警察	7	9.7%	0	0.0%	7	10.6%	0	0.0%
人権擁護委員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
配偶者暴力相談支援センターなどの吉川市役所の相談窓口	3	4.2%	0	0.0%	3	4.5%	0	0.0%
県男女共同参画推進センター（旧・婦人相談センター）などの吉川市以外の公的機関	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
弁護士	3	4.2%	1	16.7%	2	3.0%	0	0.0%
医師、カウンセラーなど	5	6.9%	1	16.7%	4	6.1%	0	0.0%
民間の相談機関	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	2	2.8%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
合計	72	100.0%	6	100.1%	66	99.9%	0	-

その他の内容は、次のとおりである。

草加児童相談所	女性	30歳代
親	女性	70歳以上

問 15-1 DVについての相談先

単位 = 人



(複数回答)

問 15-2 DV相談をしなかった理由

問 15-2 誰(どこ)にも相談しなかったのはどうしてですか。

(あてはまるものすべて選択、問14でDV経験があると回答した方のみ)

◎相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が、男女ともに高い。

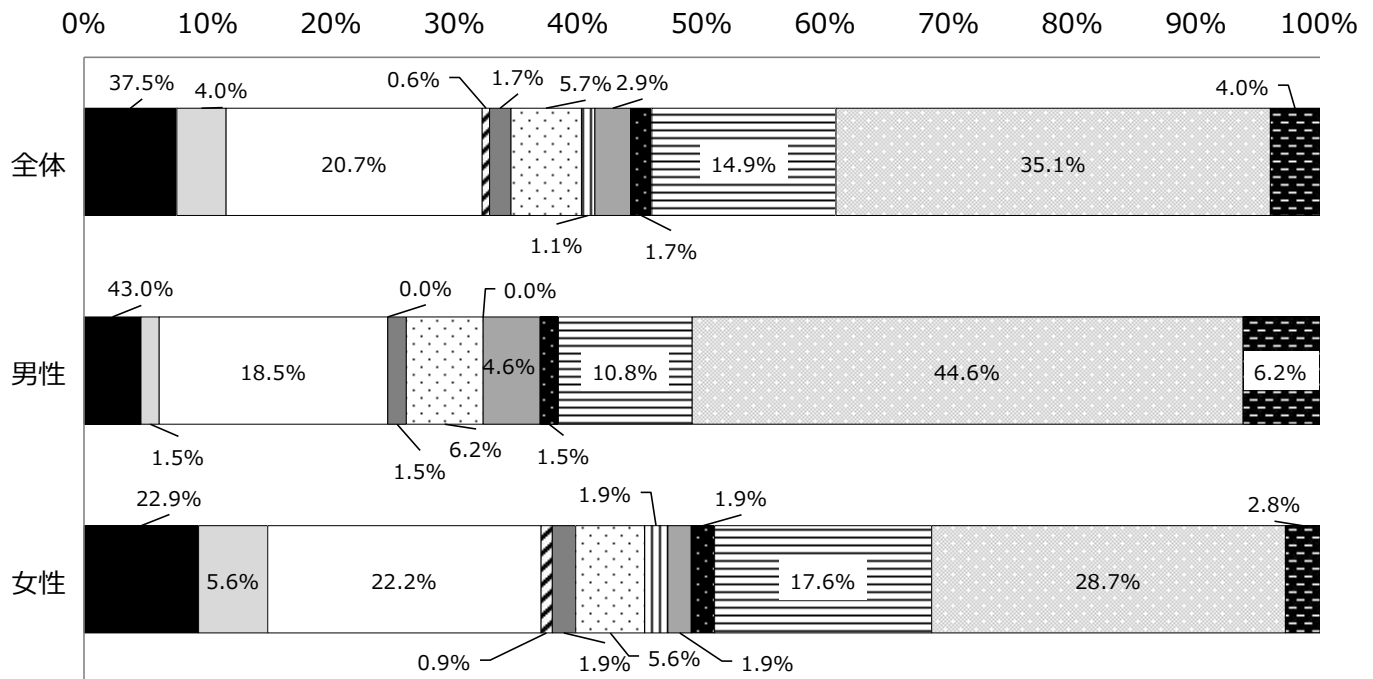
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから	13	7.5%	3	4.6%	10	9.3%	0	0.0%
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	7	4.0%	1	1.5%	6	5.6%	0	0.0%
相談しても無駄だと思ったから	36	20.7%	12	18.5%	24	22.2%	0	0.0%
相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから	1	0.6%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%
担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	3	1.7%	1	1.5%	2	1.9%	0	0.0%
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	10	5.7%	4	6.2%	6	5.6%	0	0.0%
世間体が悪いから	2	1.1%	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%
他人を巻き込みたくなかったから	5	2.9%	3	4.6%	2	1.9%	0	0.0%
そのことについて思い出したくなかったから	3	1.7%	1	1.5%	2	1.9%	0	0.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	26	14.9%	7	10.8%	19	17.6%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	61	35.1%	29	44.6%	31	28.7%	1	100.0%
その他・無回答	7	4.0%	4	6.2%	3	2.8%	0	0.0%
合計	174	100.0%	65	100.0%	108	100.0%	1	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

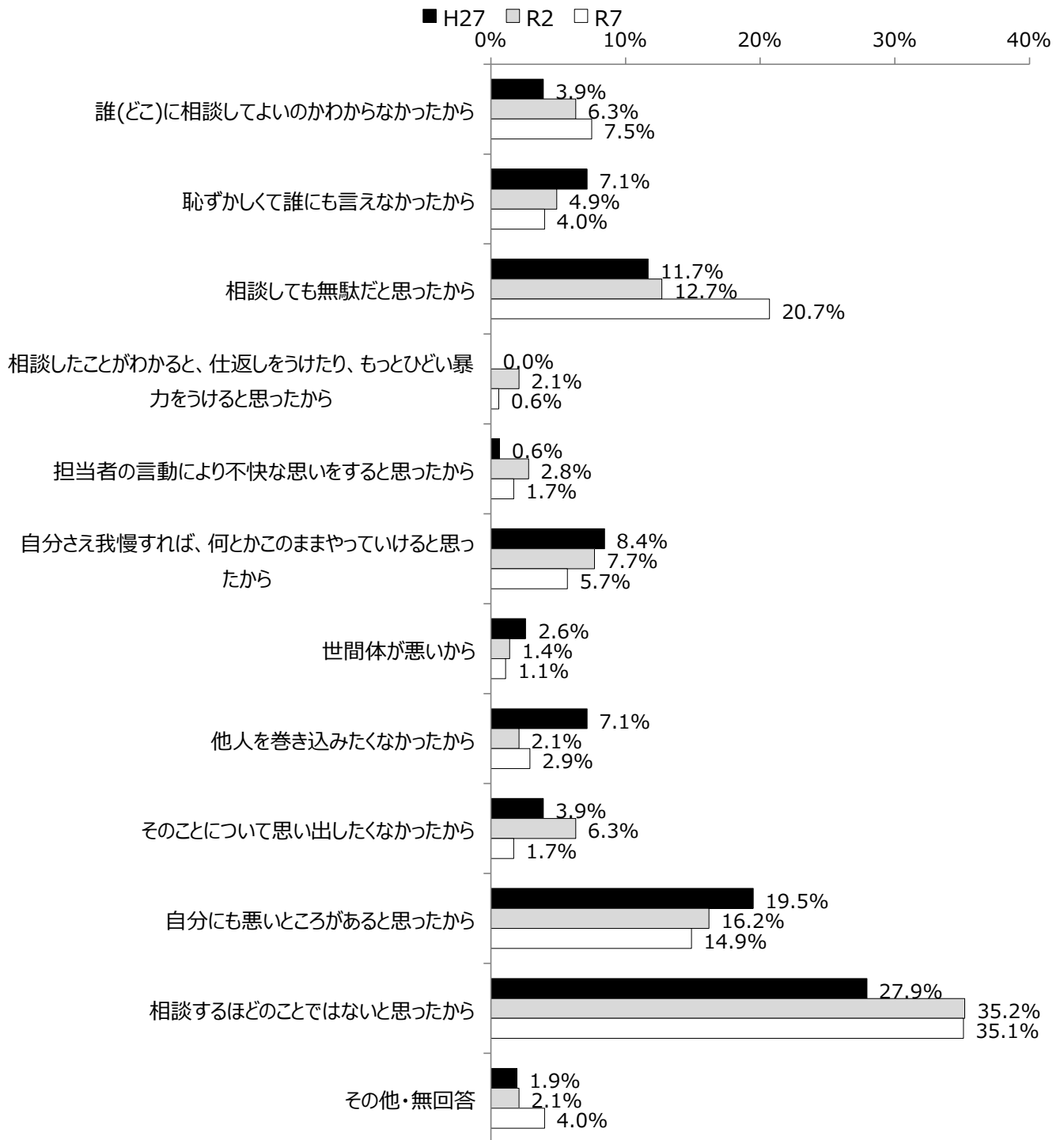
女は優遇されているから言っても仕方ない	男性	50歳代
そこまで気にしていなかったので特に大ごとを感じていなかった	女性	50歳代
周りも知っていたし、決めるのは自分だと思った	女性	50歳代
昔に戻ろう。悪いことをしている人には怒ろう。	男性	50歳代
二人の事、相談はできない	男性	70歳以上

問 1 5 DV相談の有無

- 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
- 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 相談しても無駄だと思ったから
- ▣ 相談したことがわかった、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから
- 担当者の言動により不快な思いをと思ったから
- 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
- ▣ 世間体が悪いから
- 他人を巻き込みたくなかったから
- そのことについて思い出したくなかったから
- 自分にも悪いところがあると思ったから
- 相談するほどのことではないと思ったから
- その他・無回答



問 15 - 2 DV相談をしなかった理由（複数回答）【経年比較】



● DV相談の有無・DVの相談先・DV相談をしない理由 ●

◎DV相談について「相談した」方(25.9%)は全体の3割に達しておらず、男性(8.5%)よりも女性(35.5%)で相談した方の割合が高くなっている。その相談相手は全体で「友人・知人」(40.3%)、「家族」(31.9%)となっている。

◎「相談しようとは思わなかった」は全体で63.5%であり、令和2年度(55.4%)と比較すると8.1ポイント増加している。

◎相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」(35.1%)が最も高く、特に男性(44.6%)では女性(28.7%)よりも15.9ポイント高くなっている。次いで、男女ともに「相談しても無駄だと思ったから」(全体20.7%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(14.9%)が続いている。

◎「相談したかったが、相談できなかった」(10.6%)は令和2年度(10.1%)からほぼ横ばいとなっており、特に女性(14.5%)で割合が高くなっている。

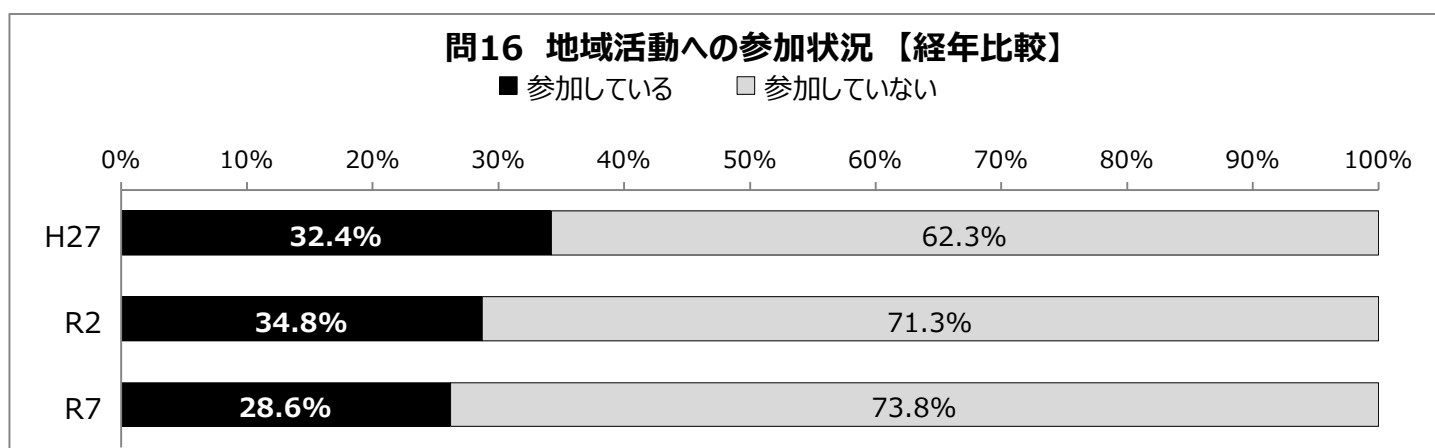
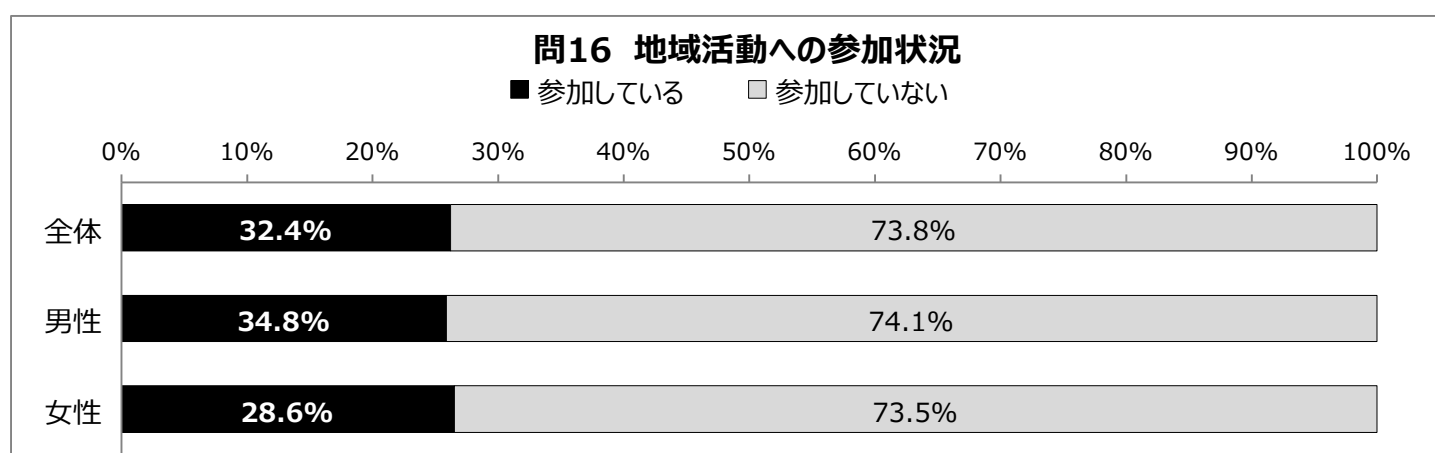
5. 社会参画について

問16 地域活動への参加状況

問16 あなたは現在、自治会やボランティアなどの地域活動に参加していますか。(1つだけ選択)

◎地域活動に参加している方は男女ともに2割強であり、参加していない方が多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
参加している	150	26.2%	66	25.9%	84	26.5%	0	0.0%
参加していない	423	73.8%	189	74.1%	233	73.5%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



問 1 6 - 1 地域活動の内容

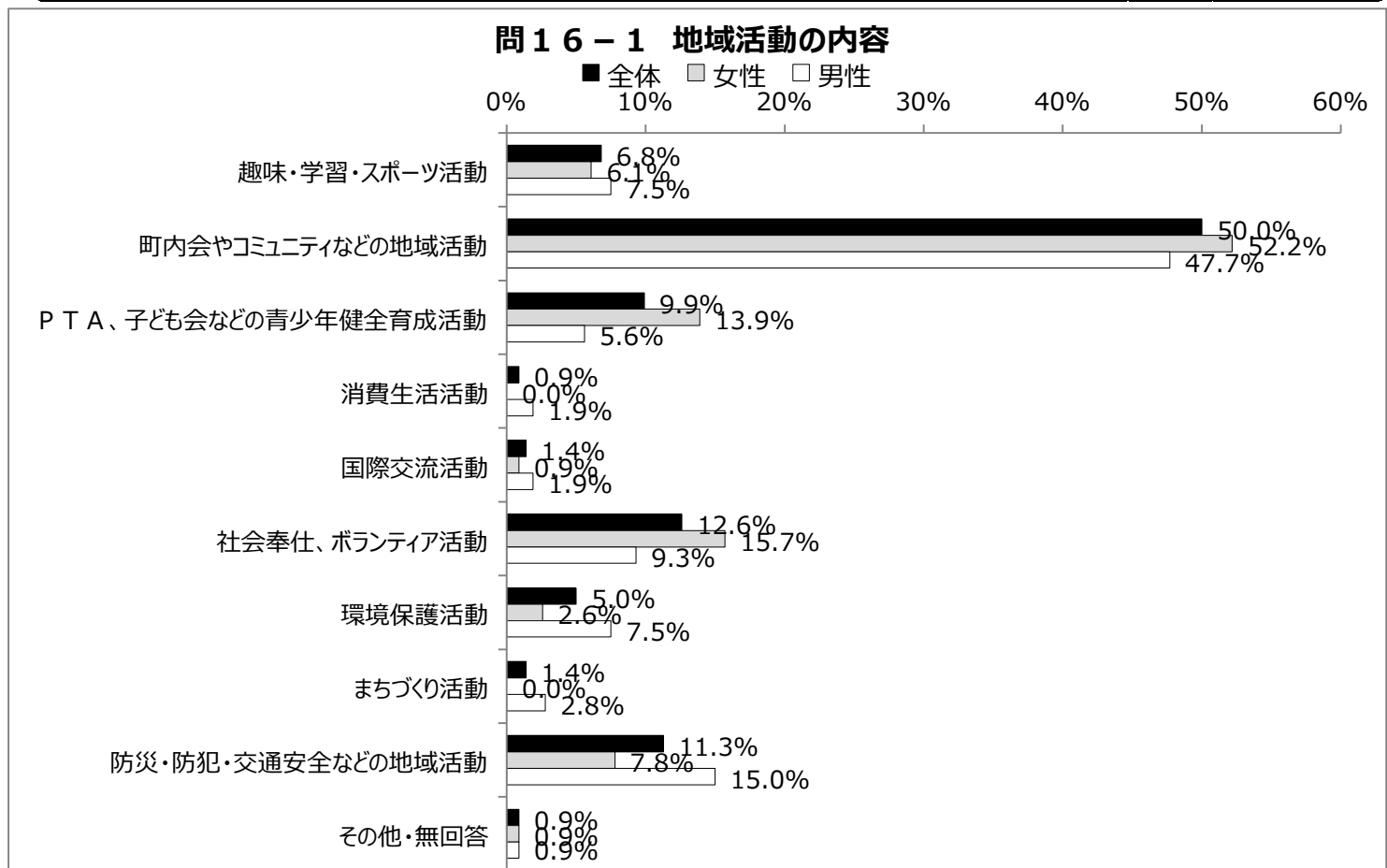
問16-1 それは、どのような活動ですか。(あてはまるものすべて選択、問16で「参加している」と回答した方のみ)

◎参加している活動は、男女ともに町内会やコミュニティなどの地域活動が多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
趣味・学習・スポーツ活動	15	6.8%	8	7.5%	7	6.1%	0	-
町内会やコミュニティなどの地域活動	111	50.0%	51	47.7%	60	52.2%	0	-
P T A、子ども会などの青少年健全育成活動	22	9.9%	6	5.6%	16	13.9%	0	-
消費生活活動	2	0.9%	2	1.9%	0	0.0%	0	-
国際交流活動	3	1.4%	2	1.9%	1	0.9%	0	-
社会奉仕、ボランティア活動	28	12.6%	10	9.3%	18	15.7%	0	-
環境保護活動	11	5.0%	8	7.5%	3	2.6%	0	-
まちづくり活動	3	1.4%	3	2.8%	0	0.0%	0	-
防災・防犯・交通安全などの地域活動	25	11.3%	16	15.0%	9	7.8%	0	-
その他・無回答	2	0.9%	1	0.9%	1	0.9%	0	-
合計	222	100.0%	107	100.0%	115	100.0%	0	-

その他の内容は、次のとおりである。

自治会員の仕事	女性	50歳代
自治会（ほぼ強制）休日にやりたい事が出来なくなるので、参加したくないです。	男性	50歳代



問 16-2 地域活動に参加していない理由

問16-2 参加していない理由はなぜですか。最もあてはまるものを選んでください。(1つだけ選択、問16で「参加していない」と回答した方)

◎参加していない理由は、男女ともに「仕事が忙しいから」が最も多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事が忙しいから	118	27.9%	61	32.3%	57	24.5%	0	0.0%
家事、育児、介護等で忙しいから	29	6.9%	9	4.8%	20	8.6%	0	0.0%
体調が良くないから	38	9.0%	18	9.5%	19	8.2%	1	100.0%
家族の理解が得られないから	3	0.7%	0	0.0%	3	1.3%	0	0.0%
一緒にやる仲間がいないから	16	3.8%	8	4.2%	8	3.4%	0	0.0%
団体やグループに所属して活動することが好きではないから	56	13.2%	25	13.2%	31	13.3%	0	0.0%
特にしたいと思う活動がないから	81	19.1%	32	16.9%	49	21.0%	0	0.0%
団体や活動の情報がないから	52	12.3%	23	12.2%	29	12.4%	0	0.0%
その他・無回答	30	7.1%	13	6.9%	17	7.3%	0	0.0%
合計	423	100.0%	189	100.0%	233	100.0%	1	100.0%

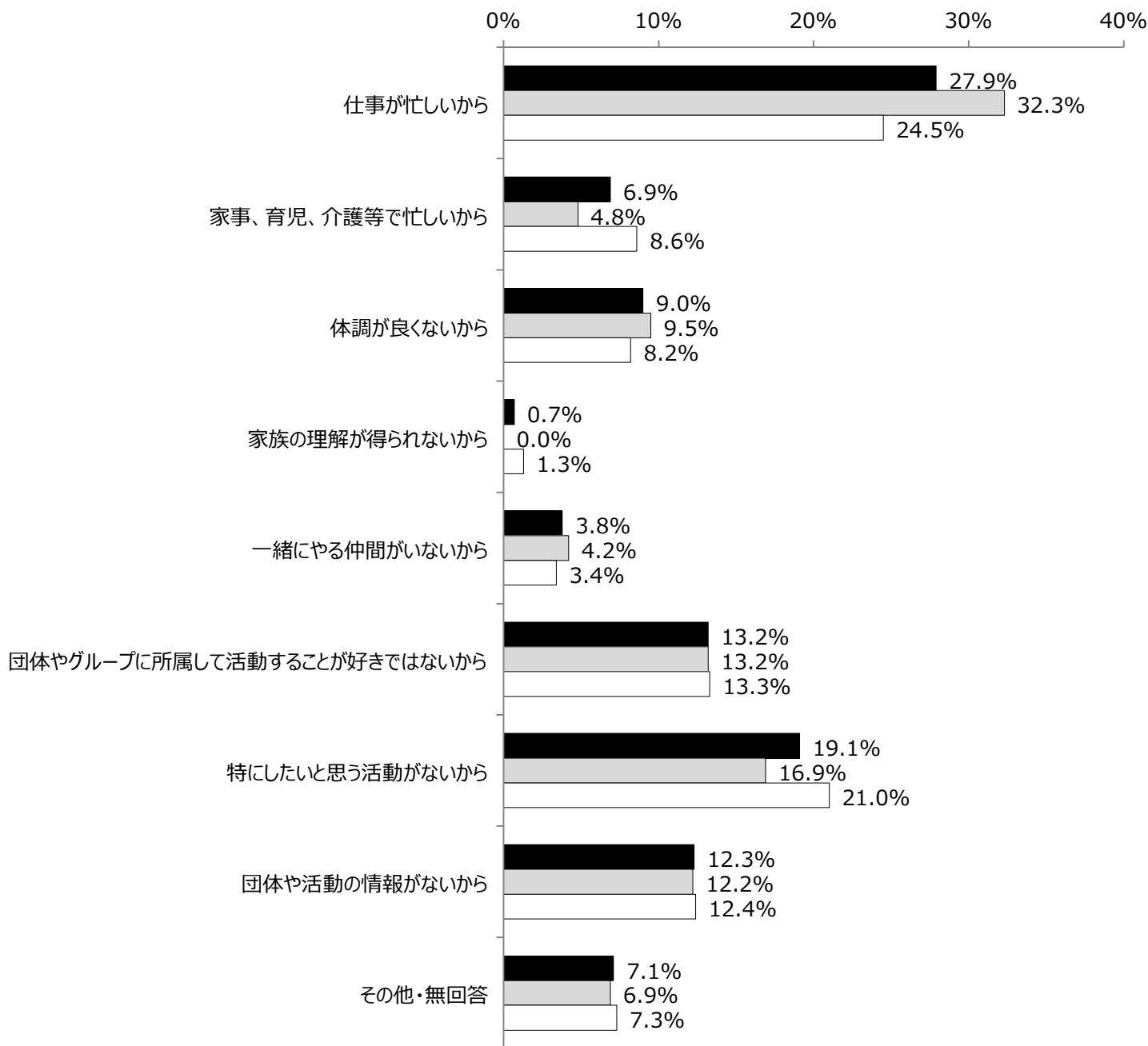
その他の内容は、次のとおりである。

学校や行事が忙しいから	女性	10歳代・20歳代
自治会はあるが、同年代の仲間がいないから。	女性	10歳代・20歳代
地域のつながりをしがらみのように感じてしまうから	女性	10歳代・20歳代
引っ越しする前消防団をやっていましたが、馴染めるか不安でこちらではやってないです。	男性	30歳代
元々、夫の家に結婚で引っ越してきたため、いまいち地域のことがわかっていない。	女性	30歳代
興味がない	男性	30歳代
自治会費がかなり高額な為	女性	30歳代
仕事、家事、育児、スポ少で忙しく、これ以上休み希望を出せない為。	女性	40歳代
人と関わりを持ちたくない	女性	40歳代
気にしてなかったです	女性	50歳代
両親が参加しているから	男性	50歳代
以前、外国人向けの日本語教室に参加していたが、外国人が仕事優先で来なかった。	女性	50歳代
妻が参加している	男性	50歳代
意識したことがない	女性	50歳代
特に必要とするものがない	女性	50歳代
内容、団体がどうであれ、特に参加しようとは思わない	男性	50歳代
吉川市にそれを束ねる人いますか？市長も何をしてるか分からない凡人です。	男性	50歳代
転居により地域との交流がない為	女性	60歳代
今の場所に引っ越してきてまだ浅い事もあるが機会を見て参加していきたい	男性	60歳代
杖歩行で痛みもあるから	女性	60歳代
高齢であるため	男性	60歳代

以前持ち回りで参加していたから	男性	70歳以上
体調が悪い	女性	70歳以上
わずらわしいから	男性	70歳以上

問 16-2 地域活動に参加していない理由

■ 全体 □ 男性 □ 女性



●自治会やボランティア活動について●

◎現在、自治会やボランティアなどの地域活動に「参加している」割合は、全体で26.2%であり、男女別でも大きな差はない(男性25.9%、女性26.5%)。

◎参加している活動は、「町内会やコミュニティなどの地域活動」が男女とも最も高く(男性47.7%、女性52.2%)、次いで 男性では「防災・防犯・交通安全などの地域活動」(15.0%)、女性では「社会奉仕、ボランティア活動」(15.7%)が続いている。

◎参加していない理由は、「仕事が忙しいから」(男性32.3%、女性24.5%)、「特にしたいと思う活動がないから」(男性16.9%、女性21.0%)、「団体や活動の情報がないから」(男性12.2%、女性12.4%)が続いている。

問 1 7 男女共同参画社会実現のためにできること

問17 あなたは、男女共同参画社会の実現のために何ができると思いますか。（あてはまるものすべて選択）

◎男女ともに「男女が互いに対等な存在として尊重する意識を持つ」が最も多い。

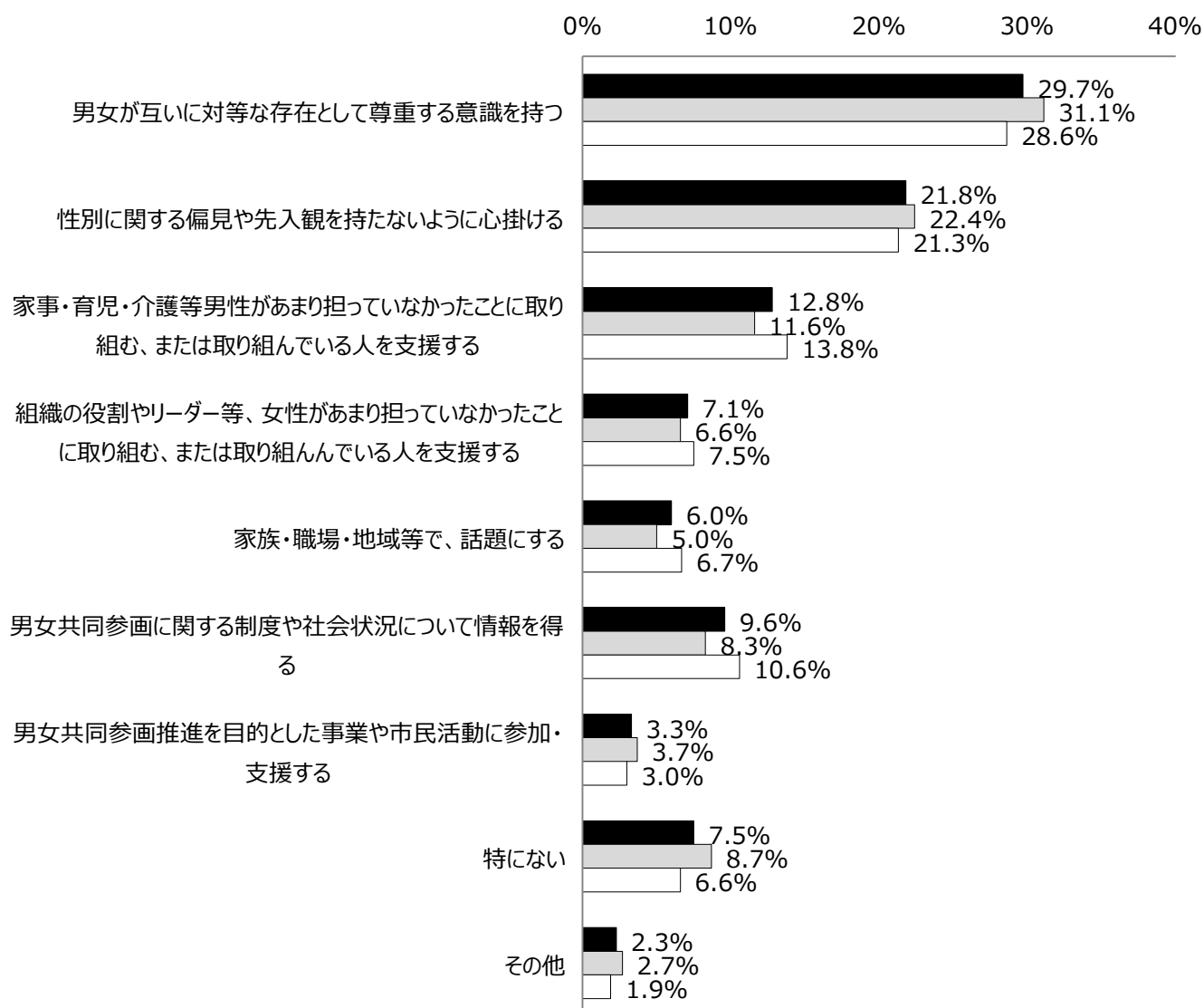
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女が互いに対等な存在として尊重する意識を持つ	329	29.7%	150	31.1%	179	28.6%	0	0.0%
性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける	242	21.8%	108	22.4%	133	21.3%	1	100.0%
家事・育児・介護等男性があまり担っていなかったことに取り組む、または取り組んでいる人を支援する	142	12.8%	56	11.6%	86	13.8%	0	0.0%
組織の役割やリーダー等、女性があまり担っていなかったことに取り組む、または取り組んでいる人を支援する	79	7.1%	32	6.6%	47	7.5%	0	0.0%
家族・職場・地域等で、話題にする	66	6.0%	24	5.0%	42	6.7%	0	0.0%
男女共同参画に関する制度や社会状況について情報を得る	106	9.6%	40	8.3%	66	10.6%	0	0.0%
男女共同参画推進を目的とした事業や市民活動に参加・支援する	37	3.3%	18	3.7%	19	3.0%	0	0.0%
特にない	83	7.5%	42	8.7%	41	6.6%	0	0.0%
その他・無回答	25	2.3%	13	2.7%	12	1.9%	0	0.0%
合計	1,109	100.0%	483	100.0%	625	100.0%	1	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

難しいと思うので諦めます	女性	10歳代・20歳代
女性も男性より優遇されている面が実在することを理解する	男性	30歳代
男が、女が、と主語に性差を持ち出さない	男性	30歳代
女性の問題を女性だけの問題にしないこと。対等の実現はありえない。生理、出産で女性は生まれながら守られるべき時間をもっているから	女性	40歳代
問題を感じていないので何もすることは無い	男性	40歳代
差別と区別を明確に認識する	男性	50歳代
産め育てろ	男性	50歳代
日本には必要ないです	女性	60歳代
高齢者だからできない	女性	70歳以上

問 1 7 男女共同参画社会実現のためにできること

■ 全体 □ 男性 □ 女性



●男女共同参画社会実現について●

◎男女共同参画社会実現のためにできることは、男女ともに「男女が互いに対等な存在として尊重する意識を持つ」（男性31.1%、女性28.6%）が最も高い。次いで「性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける」（男性22.4%、女性21.3%）、「家事・育児・介護等男性があまり担っていなかったことに取り組む、または取り組んでいる人を支援する」（男性11.6%、女性13.8%）が続いている。

6. 施策の要望

問18 政策への女性の意見や考え方の反映について

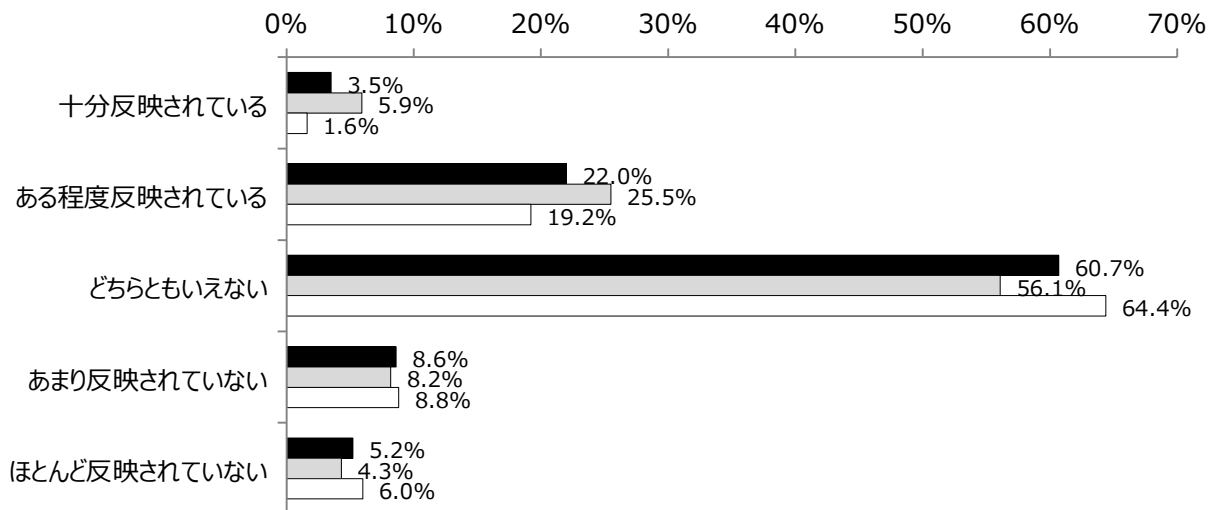
問18 あなたは、自治体（県や市町村）などの政策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（1つだけ選択）

◎男女とも、半数が「自治体の政策に女性の意見や考え方が反映されているかどうか、どちらともいえない」と考えている。

選択項目	合計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
十分反映されている	20	3.5%	15	5.9%	5	1.6%	0	0.0%
ある程度反映されている	126	22.0%	65	25.5%	61	19.2%	0	0.0%
どちらともいえない	348	60.7%	143	56.1%	204	64.4%	1	100.0%
あまり反映されていない	49	8.6%	21	8.2%	28	8.8%	0	0.0%
ほとんど反映されていない	30	5.2%	11	4.3%	19	6.0%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

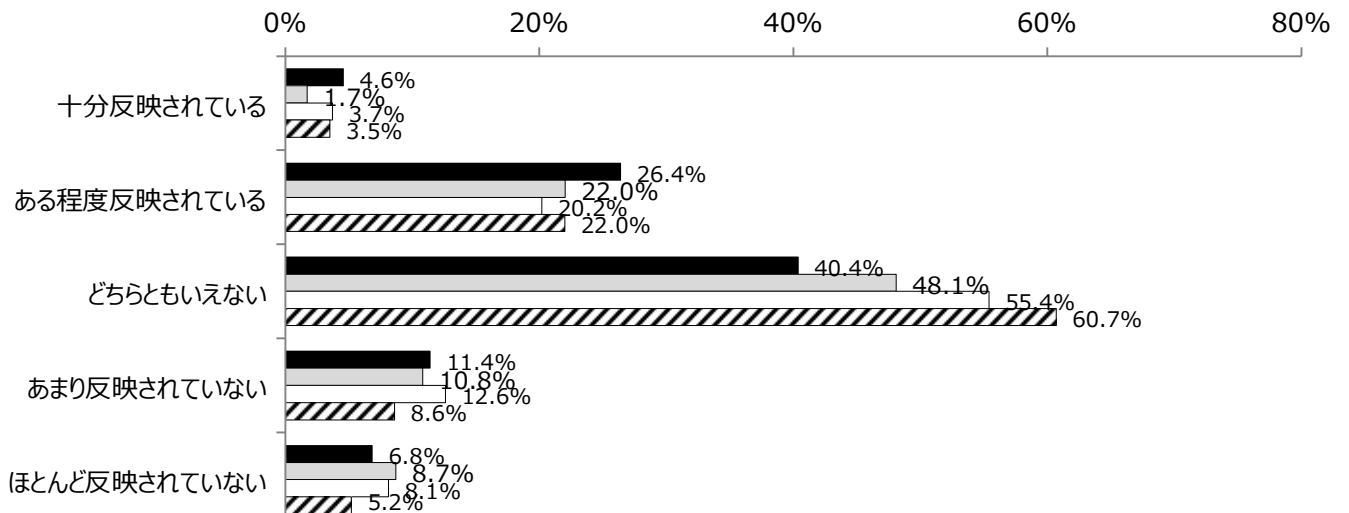
問18 政策への女性の意見や考え方の反映について

■ 全体 □ 男性 □ 女性



問18 政策への女性の意見や考え方の反映について【経年比較】

■ H22 □ H27 □ R2 ▨ R7



●政策への女性の意見の反映について●

◎自治体などの政策について、女性の意見や考え方が反映されていると感じる割合（「十分反映されている」と「ある程度反映されている」）は、全体で25.5%（男性31.4%、女性20.8%）となっており、男性の方が女性よりも10.6ポイント多い。全体で令和2年度（23.9%）と比較すると、1.6ポイント%増加している。

◎「どちらともいえない」（60.7%）が、年を追うごとに増加しており、令和2年度（55.4%）からは5.3ポイント増加している。

◎「反映されていない」と感じる割合（「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」）は、全体で13.8%（男性12.5%、女性14.8%）であり、令和2年度（全体20.7%、男性21.0%、女性20.6%）と比較すると男女ともに5ポイント以上減少している。

問 19 施策への要望

問 19 男女がともにいきいきと豊かに暮らせる「男女共同参画社会」を実現するために、今後、市はどのようなことに力を入れて行けばよいと思いますか。（1つだけ選択）

◎男女共同参画社会の実現にむけて市に望むことは、「男女平等の考え方に立った社会教育を進める」が最も多い。

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
学校における男女平等教育を進める	66	11.5%	33	12.9%	33	10.4%	0	0.0%
男女平等の考え方に立った社会教育を進める	109	19.0%	48	18.8%	61	19.2%	0	0.0%
男女平等に関する情報の提供や啓発活動を行う	70	12.2%	32	12.5%	37	11.7%	1	100.0%
母性保護や性の大切さに関する正しい認識を広める	22	3.8%	5	2.0%	17	5.4%	0	0.0%
男女格差の是正や労働時間の短縮等について企業等へ働きかける	69	12.0%	33	12.9%	36	11.4%	0	0.0%
子育ての支援やサービスの充実をはかる	76	13.3%	43	16.9%	33	10.4%	0	0.0%
介護の支援やサービスの充実をはかる	51	8.9%	16	6.3%	35	11.0%	0	0.0%
母子・父子世帯の生活の安定をはかる	14	2.4%	5	2.0%	9	2.8%	0	0.0%
配偶者等から暴力を受けた被害者を支援する	5	0.9%	3	1.2%	2	0.6%	0	0.0%
地域活動やボランティア活動を促進する	8	1.4%	5	2.0%	3	0.9%	0	0.0%
行政への女性の参加を進める	19	3.3%	7	2.7%	12	3.8%	0	0.0%
女性の自立を促すための支援を行い、相談の場を設ける	20	3.5%	4	1.6%	16	5.0%	0	0.0%
男性の生活的自立を促す環境づくりを行う	9	1.6%	4	1.6%	5	1.6%	0	0.0%
LGBTなど、性の多様性に関する理解を促す	10	1.7%	4	1.6%	6	1.9%	0	0.0%
その他	25	4.4%	13	5.1%	12	3.8%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

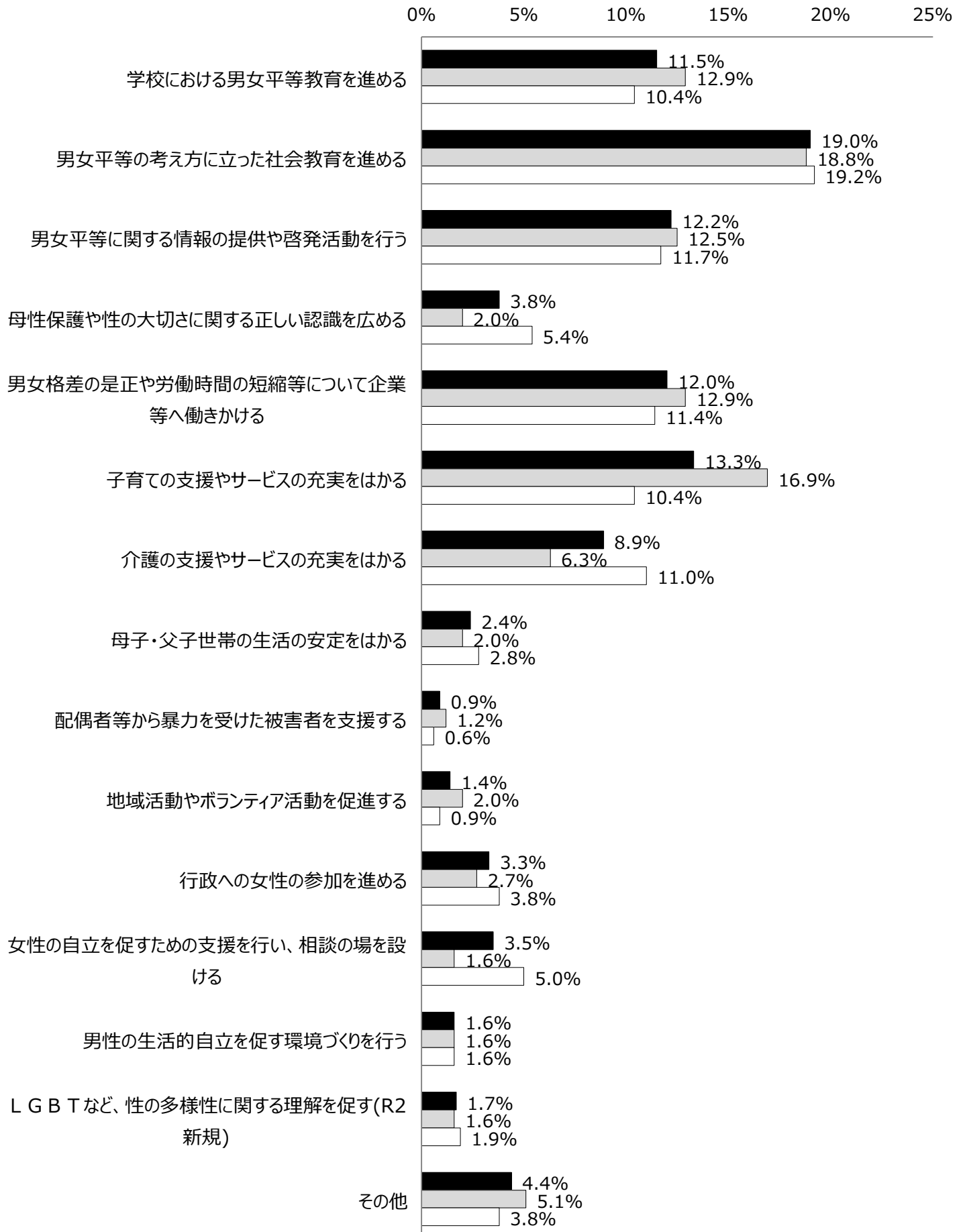
その他の内容は、次のとおりである。

わからない	男性	10歳代・20歳代
女性の意見を取り入れすぎない	男性	10歳代・20歳代
壮年期以上の方々への教育	女性	30歳代

男女平等なので、女性ばかりが優先されることは避け、男性の意見、女性の意見、全体的な角度からみて、平等を目指してほしい（ハラスメント系も男女ともに）	女性	40歳代
わからない	男性	40歳代
子育て中（介護中）でも安心して働ける企業への支援	男性	50歳代
男女平等ではなく年齢平等を目指すほうが皆生きやすくなると思う	女性	50歳代
男女とっている時点でおかしい	男性	50歳代
市はしてるのか？	男性	50歳代
わからない	男性	60歳代
無し	女性	60歳代
収入より支出のが多く他の事は考えられない。ゆとりがない。	女性	60歳代

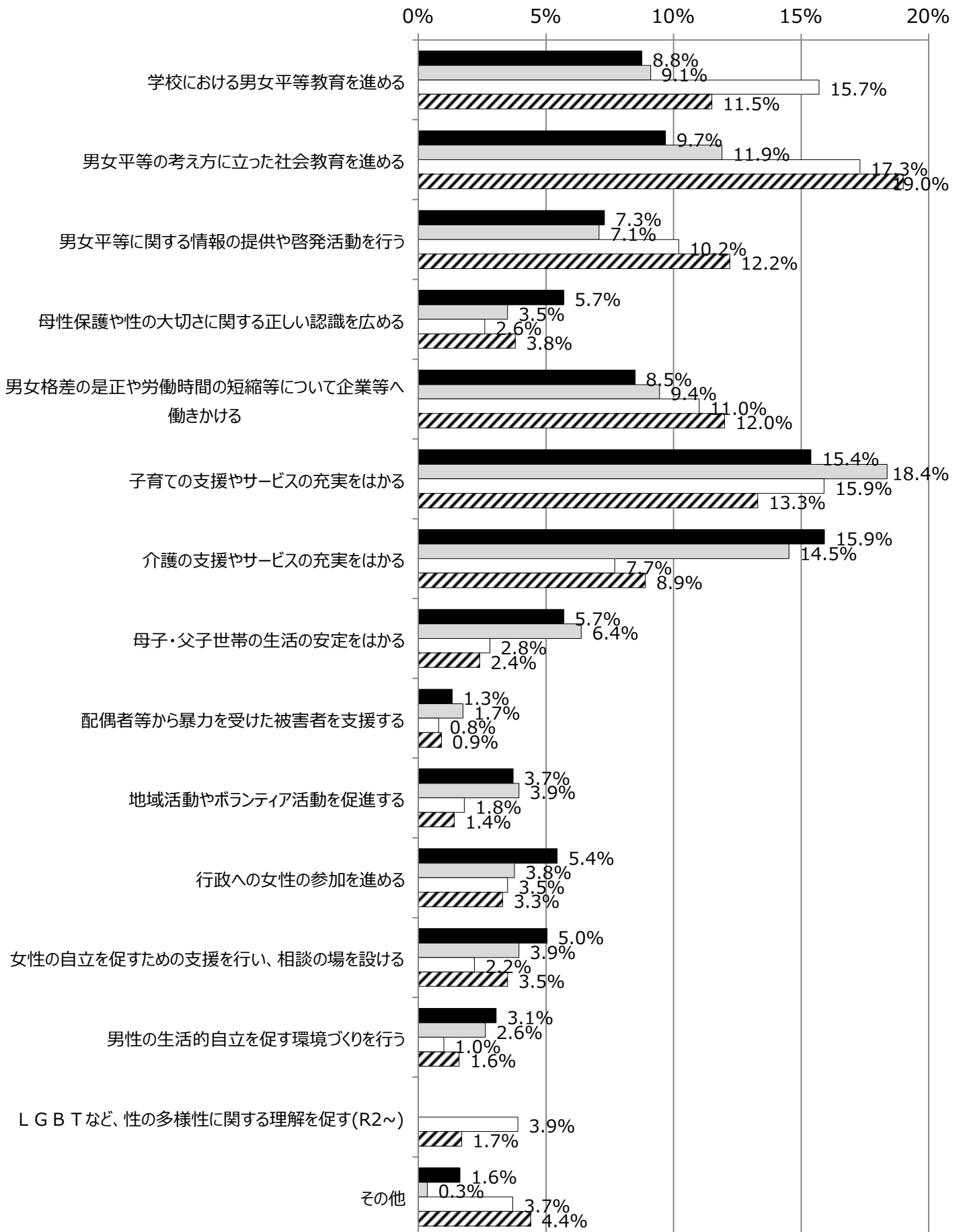
問 19 施策への要望

■ 全体 □ 男性 □ 女性



問 19 施策への要望【経年比較】

■ H22 ■ H27 □ R2 ▨ R7



※平成27年度までは3つまで選択可としていたが、令和2年度以降では1つだけ選択可に変更。

●施策への要望●

◎男女共同参画社会を実現するために力を入れることは、男女ともに「男女平等の考え方に立った社会教育を進める」(男性18.8%、女性19.2%)が最も割合が高く、次いで男性では「子育て支援やサービスの充実をはかる」(16.9%)、女性では「男女平等に関する情報の提供や啓発活動を行う」(11.7%)が続いている。

◎令和2年度調査と比較すると、「学校における男女平等教育を進める」(11.5%)が令和2年度(15.7%)から4.2ポイント減少、「子育ての支援やサービスの充実をはかる」(13.3%)が令和2年度(15.9%)から2.6ポイント減少している。

7. 性の多様性に関する啓発などの施策について

問20 「LGBT」という言葉の認知度

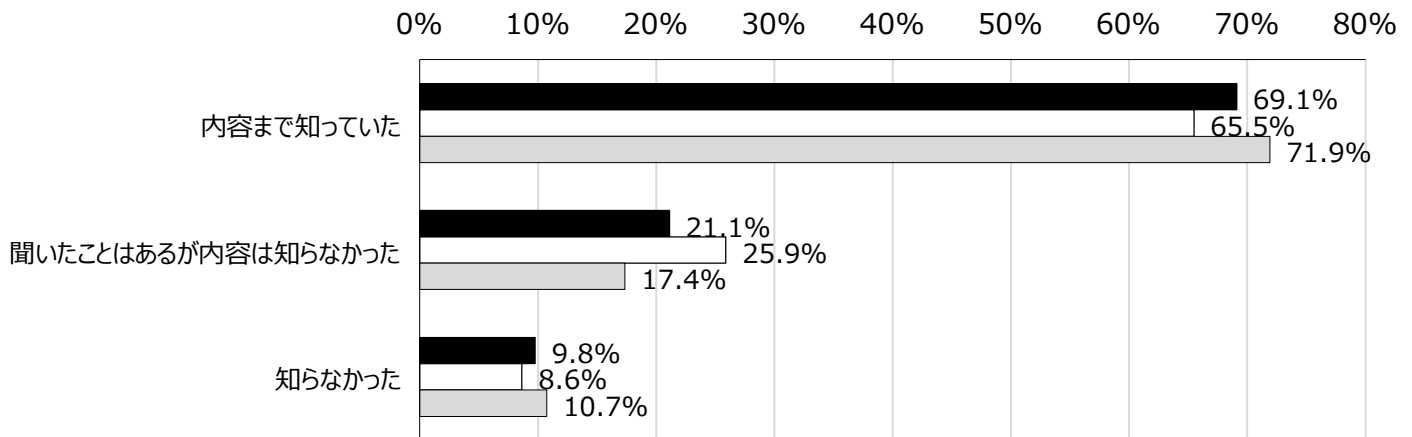
問20 「LGBT」という言葉の意味を知っていますか。(1つだけ選択)

◎男女とも半数以上の方がLGBTという言葉の「内容まで知っていた」と回答している。

選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っていた	396	69.1%	167	65.5%	228	71.9%	1	100.0%
聞いたことはあるが内容は知らなかった	121	21.1%	66	25.9%	55	17.4%	0	0.0%
知らなかった	56	9.8%	22	8.6%	34	10.7%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

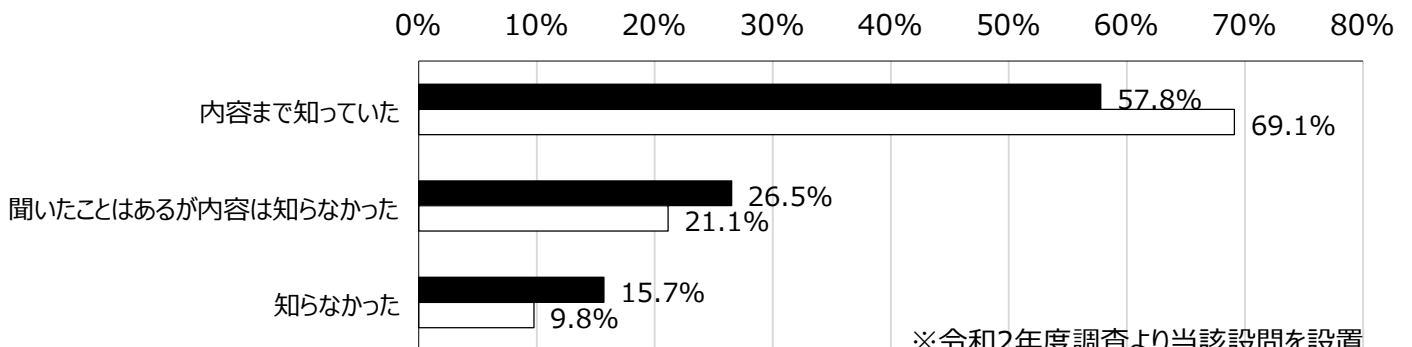
問20 「LGBT」という言葉の認知度

■全体 □男性 ■女性



問20 「LGBT」という言葉の認知度【経年比較】

■R2 □R7



※令和2年度調査より当該設問を設置

●LGBTの理解度●

◎男女とも「内容まで知っていた」「聞いたことはあるが内容は知らなかった」と答えた方が約9割であった（男性91.4%、女性89.3%）。

◎全体でも、「内容まで知っていた」（69.1%）が令和2年度（57.8%）と比較しても11.3ポイント増加しており、この数年でさらに広く理解されていることが伺える。

◎「知らなかった」は9.8%であり、令和2年度（15.7%）と比較すると、5.9ポイント減少している。

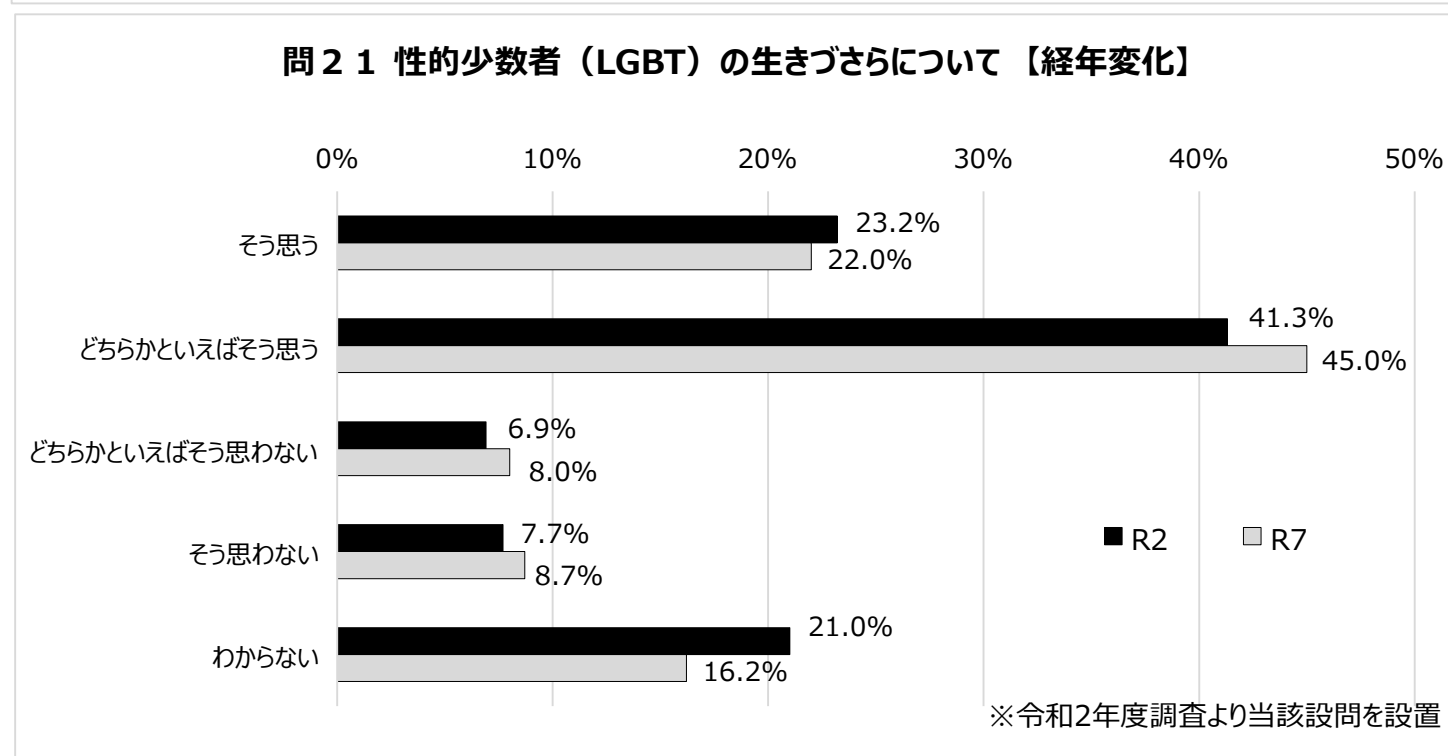
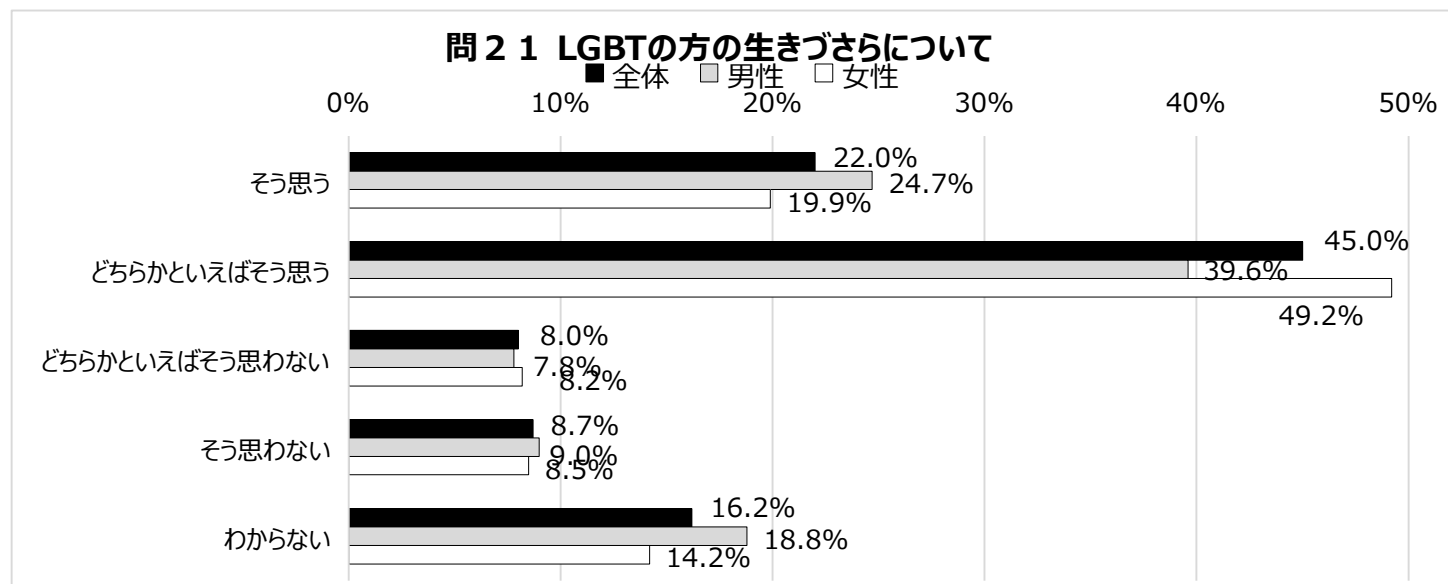
◎全体的にみて、性別によるLGBTへの理解度に大きな差は見受けられない。

問 2 1 LGBTの方の生きづらさについて

問 2 1 「今の社会は性的少数者にとって生きづらい」と思いますか。(1つだけ選択)

◎男女とも半数以上が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。

選択項目	合計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	126	22.0%	63	24.7%	63	19.9%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	258	45.0%	101	39.6%	156	49.2%	1	0.3%
どちらかといえばそう思わない	46	8.0%	20	7.8%	26	8.2%	0	0.0%
そう思わない	50	8.7%	23	9.0%	27	8.5%	0	0.0%
わからない	93	16.2%	48	18.8%	45	14.2%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



●今の社会は性的少数者(LGBT等)に生きづらいと思うか●

- ◎「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、全体で67.0%（男性64.3%、女性69.1%）であり、全体では令和2年度(64.5%)よりも2.5ポイント増加している。
- ◎「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると、全体で16.7%（男性16.8%、女性16.7%）で、全体では令和2年度(14.6%)よりも2.1ポイント増加している。
- ◎「わからない」（16.2%）は令和2年度(21.0%）よりも4.8ポイント減少した。
- ◎生きづらさについて、「そう思う」「そう思わない」で二極化が進む一方で、「わからない」が減っており、LGBTの方を巡る問題への意識が高まっている様子が伺える。

問22 「パートナーシップ宣誓制度」

「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の認知度

問22 日本では同性婚が認められていませんが、埼玉県内の全市町村で婚姻関係と同様な関係であることを同性カップルが宣誓した場合に、その申し出を自治体として認証する「パートナーシップ宣誓制度」等が導入されており、吉川市ではともに生活する子も含めた「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を導入しています。あなたは知っていましたか。(1つだけ選択)

◎制度としては2割弱の方が認知しているものの、吉川市が導入していることについては約8割が「知らなかった」と回答している。

(ア) 「パートナーシップ宣誓制度」・「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」について

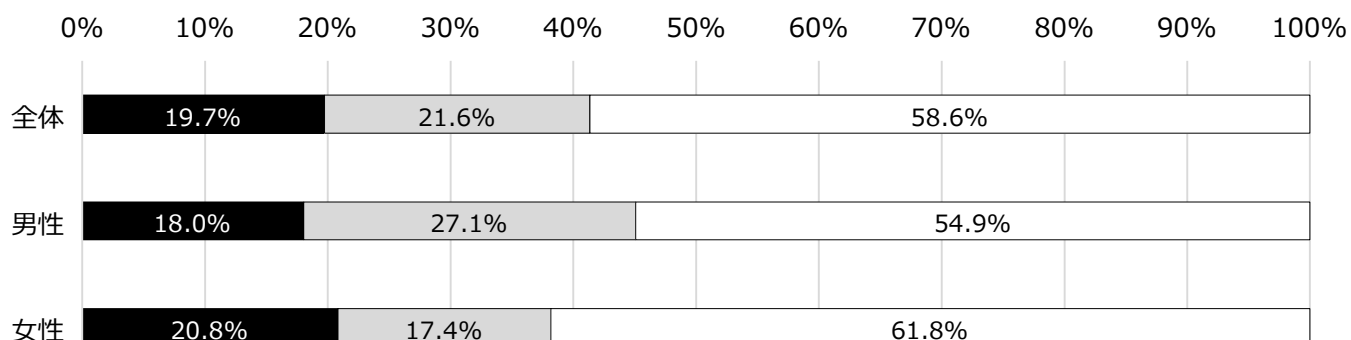
選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っていた	113	19.7%	46	18.0%	66	20.8%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容は知らなかった	124	21.6%	69	27.1%	55	17.4%	0	0.0%
知らなかった	336	58.6%	140	54.9%	196	61.8%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

(イ) 吉川市が「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を導入していることについて

選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っていた	28	4.9%	15	5.9%	12	3.8%	1	100.0%
聞いたことはあるが、内容は知らなかった	70	12.2%	35	13.7%	35	11.0%	0	0.0%
知らなかった	475	82.9%	205	80.4%	270	85.2%	0	0.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%

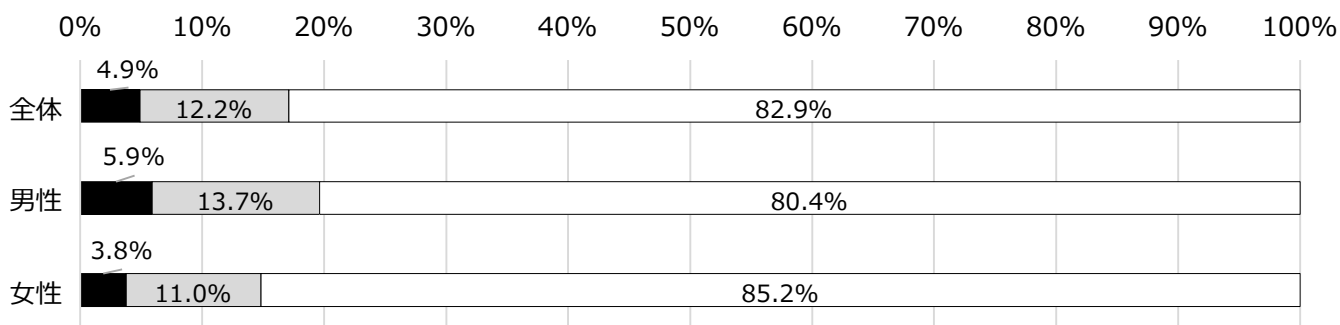
問22 「パートナーシップ宣誓制度」・「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の認知度

■ 知っていた □ 聞いたことはあるが、内容は知らなかった □ 知らなかった



問 2 2 「吉川市が『パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度』を導入していること」の認知度

■ 知っていた □ 聞いたことはあるが、内容は知らなかった □ 知らなかった



●「パートナーシップ宣誓制度」・「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」について●

◎制度については、全体で19.7%が「知っていた」と回答する一方で、「知らなかった」と回答した方が半数を超えていた（58.6%）。性別で見ると、男性（54.9%）よりも女性（61.8%）が「知らなかった」と答えた割合が6.9ポイント高くなっており、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と答えた方についても、男性（27.1%）よりも女性（17.4%）が9.7ポイント低くなっており、全体的に女性の認知度が低い傾向にある。

◎吉川市がパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入していることについては、「知っていた」と回答した方は全体で4.9%（男性5.9%、女性3.8%）に留まっており、約8割の方が「知らなかった」と回答している。制度についての更なる周知の必要性が課題としてあげられる。

8. 困難な問題を抱える女性への支援について

問 2 3 女性が抱える困難な問題について

問 2 3 女性の抱える困難な問題のうち、最も深刻であると思うことは何ですか。（3つまで選択可）

◎女性が抱える深刻な問題として、「経済的困難」「暴力（ドメスティック・バイオレンス）」と回答した方が多い。

選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
暴力（ドメスティック・バイオレンス）	273	20.2%	133	23.3%	140	18.1%	0	0.0%
アルコール・薬物依存症	27	2.0%	15	2.6%	12	1.5%	0	0.0%
離婚問題	106	7.9%	49	8.6%	57	7.4%	0	0.0%
子どもからの暴力・子どもの養育困難	55	4.1%	20	3.5%	35	4.5%	0	0.0%
子どもへ暴力をふるってしまうこと	64	4.7%	21	3.7%	43	5.5%	0	0.0%
家族・親族関係の悩み	139	10.3%	50	8.8%	88	11.4%	1	33.3%
男女関係の悩み	33	2.4%	17	3.0%	16	2.1%	0	0.0%
住居問題・帰宅先なし	28	2.1%	12	2.1%	16	2.1%	0	0.0%
経済的困難	328	24.3%	128	22.4%	199	25.7%	1	33.3%
精神的困難	93	6.9%	33	5.8%	60	7.7%	0	0.0%
病気・妊娠など	122	9.0%	58	10.2%	63	8.1%	1	33.3%
売買春の問題	24	1.8%	11	1.9%	13	1.7%	0	0.0%
人身取引被害（※）	28	2.1%	8	1.4%	20	2.6%	0	0.0%
その他・無回答	29	2.1%	16	2.8%	13	1.7%	0	0.0%
合計	1,349	100.0%	571	100.0%	775	100.0%	3	100.0%

※人身取引被害：性的サービスや労働の強要など

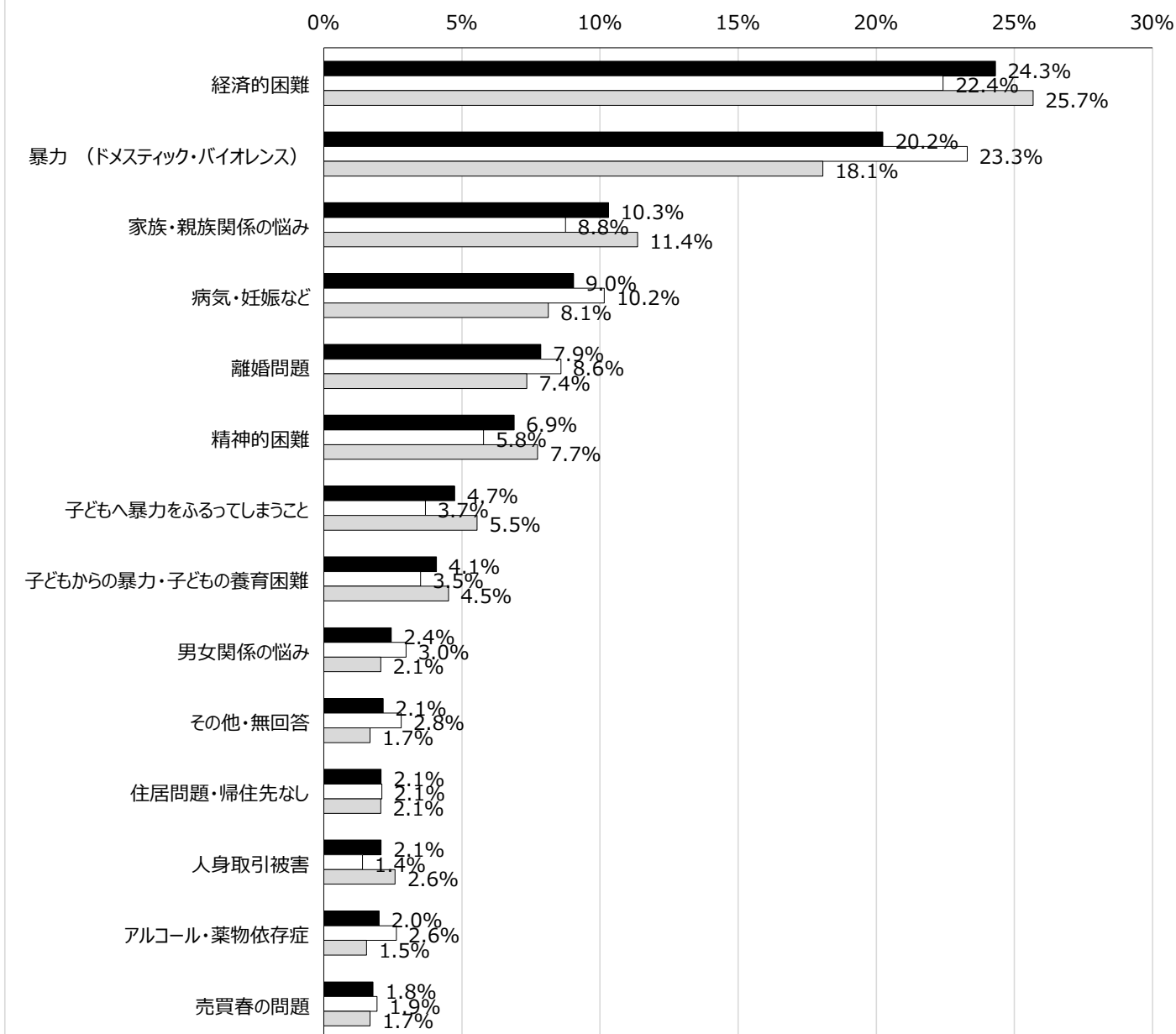
選択項目	総計		10・20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
暴力（ドメスティック・バイオレンス）	273	20.2%	19	13.2%	38	19.0%	39	17.3%	71	22.5%	59	25.2%	47	20.5%
アルコール・薬物依存症	27	2.0%	1	0.7%	2	1.0%	5	2.2%	7	2.2%	8	3.4%	4	1.7%
離婚問題	106	7.9%	8	5.6%	14	7.0%	28	12.4%	24	7.6%	17	7.3%	15	6.6%
子どもからの暴力・子どもの養育困難	55	4.1%	4	2.8%	10	5.0%	7	3.1%	18	5.7%	9	3.8%	7	3.1%
子どもへ暴力をふるってしまうこと	64	4.7%	3	2.1%	11	5.5%	16	7.1%	18	5.7%	8	3.4%	8	3.5%
家族・親族関係の悩み	139	10.3%	19	13.2%	13	6.5%	19	8.4%	33	10.4%	28	12.0%	27	11.8%
男女関係の悩み	33	2.4%	7	4.9%	8	4.0%	4	1.8%	8	2.5%	1	0.4%	5	2.2%
住居問題・帰宅先なし	28	2.1%	1	0.7%	3	1.5%	7	3.1%	6	1.9%	5	2.1%	6	2.6%
経済的困難	328	24.3%	33	22.9%	46	23.0%	48	21.2%	80	25.3%	61	26.1%	60	26.2%
精神的困難	93	6.9%	16	11.1%	12	6.0%	16	7.1%	16	5.1%	15	6.4%	18	7.9%
病気・妊娠など	122	9.0%	22	15.3%	26	13.0%	20	8.8%	19	6.0%	19	8.1%	16	7.0%
売買春の問題	24	1.8%	3	2.1%	9	4.5%	5	2.2%	3	0.9%	1	0.4%	3	1.3%
人身取引被害（※）	28	2.1%	6	4.2%	5	2.5%	5	2.2%	6	1.9%	3	1.3%	3	1.3%
その他・無回答	29	2.1%	2	1.4%	3	1.5%	7	3.1%	7	2.2%	0	0.0%	10	4.4%
合計	1,349	100.0%	144	100.0%	200	100.0%	226	100.0%	316	100.0%	234	100.0%	229	100.0%

その他の内容は、次のとおりである。

「女性」という権力を振りかざしていること	男性	10歳代・20歳代
女性にとっても困難な内容の多くは男性にとっても同様である	男性	30歳代
特になし	女性	30歳代
父親や兄弟からの性的虐待	女性	30歳代
わからない、男性と比較すると体力、筋力が無いぐらい	男性	40歳代
人それぞれなので分からない	女性	40歳代
わからない	男性	40歳代
年金	女性	50歳代
性犯罪被害	女性	50歳代
個人による	男性	50歳代
わからない	男性	50歳代
レイプ被害	女性	50歳代
海外と比べれば日本は差別は無い、●●、●●がテレビに出てる日本は文化的に必要無し、欧米はテレビにそう言う人は出れないからね。	男性	50歳代
認知症	男性	70歳以上

問 2 3 女性が抱える困難な問題(多い順)

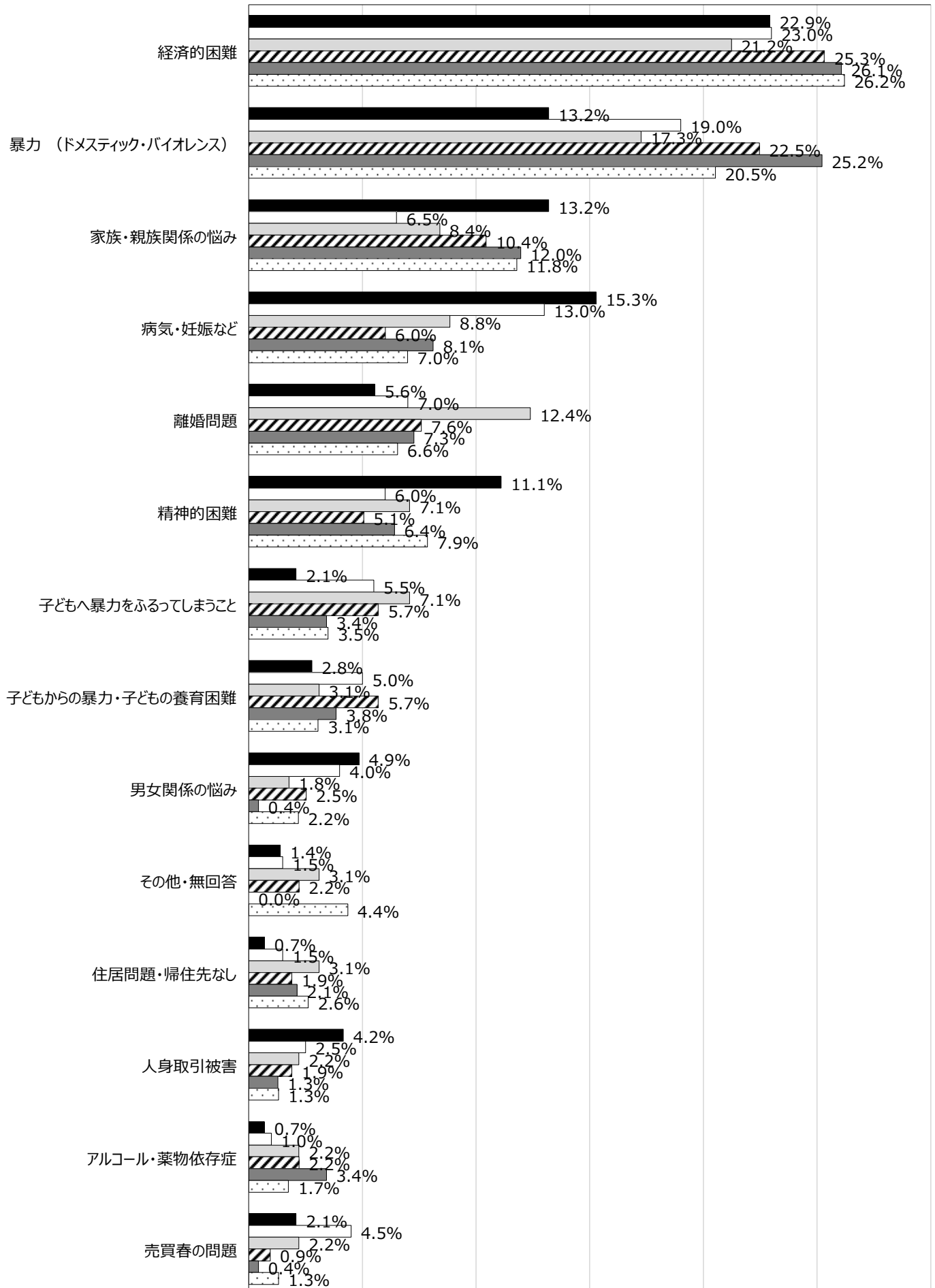
■ 全体 □ 男性 ▨ 女性



問 2 3 女性が抱える困難な問題（多い順）【年代別】

■ 10・20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 ▩ 50歳代 ■ 60歳代 ▨ 70歳以上

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30%



●女性が抱える困難な問題●

◎女性が抱える困難について、全体では「経済的困難」（男性22.4%、女性25.7%）が最も割合が高く、次いで「暴力（ドメスティック・バイオレンス）」（男性23.3%、女性18.1%）、「家族・親族関係の悩み」（男性8.8%、女性11.4%）と順に続いている。

◎性別でみると、順番に多少の入れ替えはあるものの、深刻な問題であると答えた上位項目は一致している。

◎年代別でみると、全ての年代で約2割の方が「経済的困難」を回答し、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◎10歳代から30歳代までは「病気・妊娠など」「男女関係の悩み」「人身取引被害」と回答した方が他の世代よりも多くなっている。子育て世代と推測される30歳代から50歳代では「子どもへ暴力をふるってしまうこと」「子どもへ暴力をふるってしまうこと」などの子どもに関連する問題を挙げる方の割合が高い。年代やライフステージによって、困難な問題も変化している様子が伺える。

問 2 4 困難な問題を抱える女性への支援に関する施策への要望

問 2 4 困難な問題を抱える女性への支援として、今後、市はどのようなことに最も力を入れていけばよいと思いますか。（3つまで選択可）

◎男性では「支援のきっかけ作りの居場所などを提供する」、女性では「困難を抱える女性に寄り添った自立支援の充実をはかる」と回答した方の割合が多い。

選択項目	総計		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性の人権を尊重する市民意識を醸成する	71	5.4%	37	6.5%	34	4.6%	0	0.0%
アウトリーチ※などにより、困難を抱える女性を早期に把握する	180	13.8%	77	13.6%	102	13.8%	1	33.3%
支援のきっかけ作りの居場所などを提供する	178	13.6%	83	14.7%	95	12.9%	0	0.0%
相談支援の充実をはかる	159	12.2%	77	13.6%	82	11.1%	0	0.0%
シェルター等への一時保護の充実をはかる	105	8.0%	39	6.9%	66	8.9%	0	0.0%
心身の健康被害の回復支援の充実をはかる	65	5.0%	25	4.4%	39	5.3%	1	33.3%
日常生活の回復支援の充実をはかる	67	5.1%	25	4.4%	42	5.7%	0	0.0%
女性の同伴児童などへの支援の充実をはかる	72	5.5%	27	4.8%	45	6.1%	0	0.0%
困難を抱える女性に寄り添った自立支援の充実をはかる	180	13.8%	71	12.5%	108	14.6%	1	33.3%
生活再建を支えるアフターケアの推進をはかる	93	7.1%	38	6.7%	55	7.4%	0	0.0%
民間団体との連携・協働の充実をはかる	34	2.6%	18	3.2%	16	2.2%	0	0.0%
関係する公的機関との連携体制の充実をはかる	71	5.4%	28	4.9%	43	5.8%	0	0.0%
その他・無回答	33	2.5%	21	3.7%	12	1.6%	0	0.0%
合計	1,308	100.0%	566	100.0%	739	100.0%	3	100.0%

※アウトリーチ:必要な助けが届いていない人へ、行政や支援機関の専門職員などが地域にでむくこと

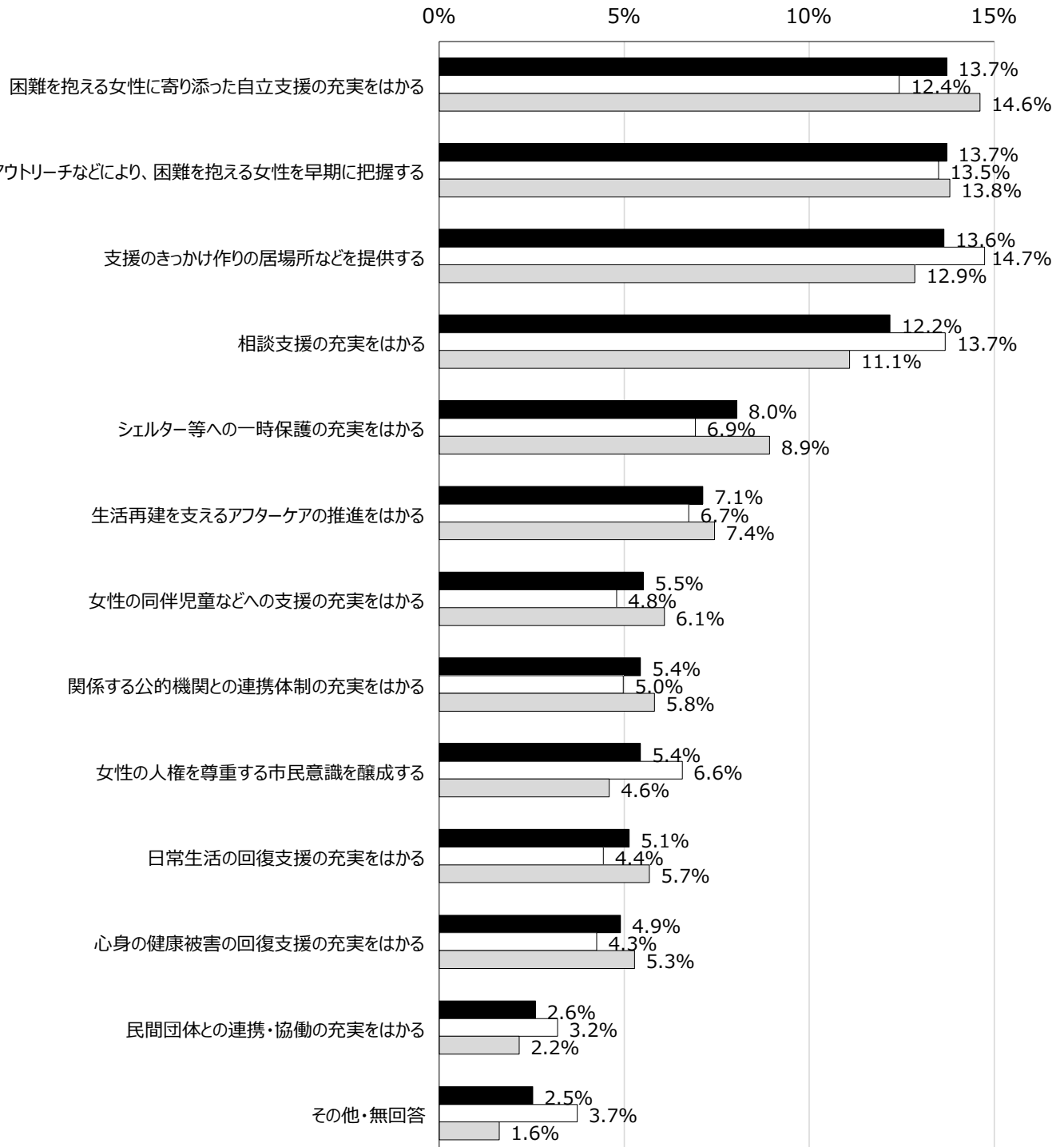
その他の内容は、次のとおりである。

わからない	男性	10歳代・20歳代
特に無し	女性	10歳代・20歳代
あくまでも男女「平等」であることを伝える取組	男性	10歳代・20歳代
賃金を上げる	女性	10歳代・20歳代
女性にとって必要な行動の多くは男性にとっても必要である	男性	30歳代
特になし	女性	30歳代
特になし	男性	30歳代
生理痛体験などフェムテックイベント	女性	40歳代
配偶者暴力で相談したが、他人事という感じがして絶望感しかなかった。自責の念にかられ相談しなければよかったと後悔した。気持ちのわかる職員にしてほしい。	女性	40歳代
わからない	男性	40歳代
介護の負担	女性	50歳代
なぜ女性だけなの	男性	50歳代
わからない	男性	50歳代

どのような困難な問題を抱える女性がいるのかわからないので回答できない	男性	50歳代
収入が得られない人への保証、ギリギリではなく余裕ある生活が出来るよう	男性	50歳代
困難な状況な男性も救えない吉川市が言うな。	男性	50歳代
わからない	男性	60歳代
物価対策問題を優先すべき。	男性	60歳代

問 2 4 困難な問題を抱える女性への支援に関する施策への要望(多い順)

■ 合計 □ 男性 ■ 女性



● 困難な問題を抱える女性への支援への要望 ●

- ◎男性では「支援のきっかけ作りの居場所などを提供する」(14.7%)が最も高く、「相談支援の充実をはかる」(13.7%)、「アウトリーチなどにより、困難を抱える女性を早期に把握する」(13.5%)の順に続いている。
- ◎女性では「困難を抱える女性に寄り添った自立支援の充実をはかる」(14.6%)が最も高く、次いで「アウトリーチなどにより、困難を抱える女性を早期に把握する」(13.8%)、「支援のきっかけ作りの居場所などを提供する」(12.9%)が順に続いており、性差による要望の相違が見られる。

9. 市に対する男女共同参画・困難な問題を抱える女性への支援についての意見・要望等

問25 市に対する意見・要望等（自由記載）

問25 男女共同参画や困難な問題を抱える女性への支援について、市に対する意見・要望等ございましたら、自由にご記入ください。（自由記載）

【10歳代・20歳代】

内容	性別
重要なのは一方的な支援のみではなく、自立を促すことでもあると思うので、大変だとは思いますがよろしくお願いします。	男性
社会活動したいと思える女性が増えるような制度があると良いと思う。	男性
市内での取組について、活動や成果などをもっと多く発信してよいかと思います。まずは多くの人に認知させることが肝要と考えます。	男性
産後の心身のケアのため、ケアホテルを利用したいが、金銭的な余裕がないため市で負担していただきたい。（1人目の子どもで利用できなかったため、2人目3人目で利用したい）	男性
支援が妊娠継続の人へのものしかなく、毎日孤独だった。親にも友だちにも相談できなかった。	女性
男女差別を無くすのは無理だと思います。	男性
今回のアンケートで初めて知った事が多すぎた。若者は知らない人がほとんどだと思う。アンケートを取るほど深刻ならばもっと広める活動をしてほしいと思う。	女性
男女平等や性的少数者の尊重の促進へと社会が変化していく中で、特に男性や性的マジョリティの側からの反発も大きくなっていくかも知れない。しかし、男女平等や性的少数者の尊重の促進は、会社以外の場所での時間を増やしたり、生き方の多様性をより広く認めることで、男性や性的マジョリティにとっても大きな利益があることなのだという説得に努めることが重要だと思う。また、LGBTの中でも特にトランスジェンダーは、昨今様々なデマの標的となり、攻撃の対象となることが増えている。行政としても、誤解を正すとともに、トランスジェンダーの人々が実際にはどのような困り事に直面しているのかを調査し、具体的に対応する必要があると思う。	男性
男女共同参画を目指すことは素晴らしいことだと考えております。しかし、近年の推進先として、LGBTQや選択的夫婦別姓の方向性に向かうことは誤った考えであると考えております。性的マイノリティだからと言って追放されることも無いですし、夫婦別姓を勧めたからと言って、少子化や女性の社会進出が進むに足りうる根拠になるわけではないでしょう。そうではなく、女性が出産後に働くも働かないも個人で決定できることこそが、真の共同参画であると考えております。性差を理解し、選択を個人に預ける地盤を作るためにも、市としては、子育て世帯への給付、無痛分娩等の無償化等を打ち出していくことが必要であると考えております。	男性
本当にLGBTで困っている人もいるがそれ以上に悪用している人が目立つため、トイレの共用や入浴施設の共用はしないしてほしいです。	女性

【30歳代】

内容	性別
女性が働く、働いている家庭では、生活が苦しいという一番の問題がある。そのため、男性は長く働き、女性のパート時間が増えるため、家事全般がおろそかになっていく。まずは、苦しい生活にならないような給与、社会保険や住民税など減額等が必要。そうでなければ現状、男性の給与のほうが高いため、長く働くしかなくなり、家事は女性ということになる。その支援が特に必要。余裕が生まれれば男女平等、共同参画を実現すると思う。	男性

吉川市に引っ越して1年になります。様々な問題に取り組み、支援を行っているのだと思いますが、情報を得ようと思う人には届くが、取り組みすら知らない人には情報が届かないのかと思いました。私自身、困っていることがないので情報を収集しようと行動していませんが、市民には強制的にでも発信し、情報を得られる環境が実現したら支援を受けられる人の幅が広がるのではないかと思います。私は今後、家の購入、結婚式、子づくり等、何か補助金や支援がないかと思い始めていたところなので、情報収集しようと思います。市民のためにいつもありがとうございます。	男性
考え方や仕組みを変えることも大事だと思いますが、「家事や育児も立派な仕事」みたいな風潮になればいいと思います。金銭がもらえることだけが仕事、というのは間違っている気がします。	男性
保育施設の充実。 働くために保育園に入ることがスムーズでないと、働きづらい。	女性
さまざまな支援があると思いますが、それを知らないという意味がありません。困ったら市役所にと周知すれば一人でも多く救える気がします。自分は困ったら市役所に行けば助けてくれる所を教えてくださいと思っています。そんな所がどんな人にもあったらいいと思います。いつもありがとうございます。	男性
女性差別の是正に託つけて男性差別に近づくことがあるため、行き過ぎに注意してください	男性
男女平等という言葉は時に障害になりうる。性的な立場では圧倒的に不利である。女性は女性らしく、男性は男性らしくという教育も必要。社会的にはもっと女性を進出させた方がいい。そのためには充実した国の支援が必要不可欠。	女性
困っている人、家庭に対して、市から積極的に手紙などを配布してくれればいいのに、市役所に行って自分から聞きに行かないと教えてくれなかったり、人によっては内容を理解していない職員がいたりとすごく困る。こういうアンケートをとっているのであれば、それなりの事をしっかりとしてもらいたい。	女性
まず男女ということなら、男性側、女性側における問題点を整理してみては・・・	男性
私は市内の介護施設で正社員として働いていましたが、パワハラにより休職を余儀なくされました。同僚の職員も次々辞めてしまいました。環境が改善しない限り復職は難しく、またパワハラがトラウマとなり社会復帰にも不安があります。市や県が何度か監査に来ましたが、改善には至りませんでした。現状を正しく把握し是正していく事、身体的・精神的に困難を抱える事となってしまった方への職業提案、採用支援など働く場所、自分も社会に必要とされていると安心できる環境作りをお願いしたいです。	女性
全体的に議論ばかりで実行できていない、または具体性のない話ばかりで前に進んでいない。一つずつでもいいので実践していくことを願う。	男性
女性の身でないと感じない問題も多くあると思います。 男性では気付けない困難な事を積極的に発信して頂くことで、より多くの人が問題意識を持つ事になると 思います。 近年、男女平等が叫ばれる中で、昔ほど差別意識は濃くはないと思いますが、生物的な差をどう埋めるかが鍵となると思います。	男性
病児保育に対する支援が市として充実しておらず、仕事がしにくい状況がある。保育園等にも医師を設置し、病児保育もできる環境にしていかないと、市の収入も増えないと考える。早急に整備して欲しい。	男性
女性だけでなく男性もちゃんと支援してください	男性

警察、市内産婦人科、児童相談所（草加）、市役所等に相談したことがあります。 ●●警察署には学生時代、ストーカー被害の相談（無言電話、交際を迫られ断ると殺すぞと脅された等があったため）をしたら、具体的な被害がないため何も出来ない、こちらはそんなに暇ではない。と対応していただけなかったです。 夫からの性的・経済的DVも、男性警官2人に細かな事情を話しましたが、真剣に対応していただいたとは決して思えない対応でした。寧ろ夫に寄り添うような発言（レイプで妊娠させた夫が妊娠中の費用を全く払わない事について、問題だと思わない等）もあり、非常に男性性寄りで理不尽で不快な思いをしました。 過去、都内で性的被害にあった際、都内の警察官の方には丁寧に対応していただき、犯人を逮捕して下さったため、比較して余計に●●警察への不信感は強く残っています。 ●●産婦人科では上記夫からのDVで妊娠した為、中絶の相談に行ったところ、レイプであっても関係なく配偶者同意のために断られました。 生まれた子供の育児等の協力が他から得られず、周囲からの夫婦間レイプに対する無理解もあり、肉体的にも精神的にもおかしくなり、困難だったため児童相談所や市役所に相談しましたが、当時の対応では子供を一時保護するだけで家庭内の問題の解決は結局自分でどうにかする他なかったです。 元々頼れるような家族がいない家庭環境のため、味方がおらずとても孤独でした。 妊娠前に罹患した病気等、色々な状況も複雑で、周囲に理解してもらうことは難しく、どんどん孤立していきました。 そんな中でも根気強く対応して下さりました子育て支援課・保育幼稚園課の方々には感謝しております。 私以外にも様々なケースの相談が日々寄せられているのだと思いますが、吉川市がポーズだけではなく、本気で取り組みを考えているのであれば、公的機関から変えていただきたいと思います。 せっかく相談しても無理解やセカンドレイプを受けて問題に向かう気力をなくしてしまう人も居ると思います。 また、一連の相談の中で、部署間の連携等が取れているとは言い難かった場面も多く、何度も同じ説明をする必要があったり、誤解されている事もありました。 たかが性被害・よくある事と考える人も多いのかも知れませんが、被害者だけでなく、その子供や周囲にも人生を変える影響を与えることもあり、真剣に考えてくれる人が男女に関わらず増えてくれる事を願ってやみません。 家庭環境の複雑さや、貧困問題も同様に感じています。 個人の問題＝個人の責任、自分で解決しろという考えが大多数であれば、支援関係の部署は税金の無駄遣いになるので廃止すれば良いのではと思います。	女性
・共働き家庭が増えている中での保育園の受け入れが少ない。 ・地域や祖父母を頼っての育児ができなくなっている中での子育て支援サービスが手薄い。預けたい頼りたいと思っている人全てが利用できる保育施設などの運営をするべき ・お金があれば子どもを産みたい、と思っている女性はたくさんいると感じる。少子化の中でそれを実現できるような施策を打ってほしい ・家族の在り方が変わっている中で子育ての在り方は変わっていない。むしろ子どもを地域で見守ることがない為親の負担は増えている。保育園だけでなく小1の壁、小3の壁、不登校や行き渋りなど女性にとって働きたくとも子育ての面で働けない状況が多々ある。（もちろん女性に限らないがそういった場合に今の男性優遇の社会において女性がフォローした方が金銭面的にも負担が少ないため、必然的に女性への負担となるケースが多いと感じる） 女性が必ずしも働きたい人ばかりではないと思うし、子育てに力を入れたいと思う女性は多いと思うが、そのために何かを犠牲にしないといけないことが多い。 自身も実際に結婚出産を経てキャリアを手放したと感じているし、育休から復帰する際に時短勤務を選択せざるを得ないと感じる。 出産後に女性が活躍したい時にキャリアを手放さずに活躍できる社会を作ってほしい。特にフレックス勤務や在宅ワークの広がり、保育施設の受け入れなど拡充してほしい。また保育園に捉われず、子育てを楽しくできるような幅広い一時預かりの事業など新しい形の子育て支援サービスを作ってほしい。	女性
性の多様性の尊重は大切ですが、トランスカルトに迎合するようなこと(女子トイレを撤去して男女共同トイレにしたり、身体男性に女湯や女子更衣室への侵入許可を与えたりなど)だけは絶対にしないでください。 「トランスジェンダー＝性同一性障害」と誤解している方がいますが、近年声高に権利を主張しているトランス女性性は性同一性障害ではなく、ましてや女性でもなく、女装することで性的興奮を覚えたり女性に加害(暴言や脅迫)することで快楽を得る変質者です。LGBの方々と一緒にするのは彼女・彼らに失礼ですし、トランス男性の権利を保障することは女性を迫害することと変わりません。 欧米の二の舞にならないようにしてください。お願いします。	女性

【40歳代】

内容	性別
吉川市のみならず近隣の自治体とも連携して取り組む必要性もある。	男性
仕事でシングルマザーの人と接する機会がありますが、低収入の方は総じて自身の能力が低いです。大人に対して能力の向上を支援するには限界があるので、子どものときからこういう大人を生み出さないように、教育面を充実させていく必要性を感じます。	男性
子どもの虐待の場合は、通報や園、学校を通して分かりやすい。大人の虐待、DVは知られにくい。しかし、周りの人の話を聞いていると多い。たとえば、集団健康診断の時等に問診票と共に質問用紙を入れ、該当者が相談できるブースを用意する等あれば良いかと。なかなか、相談だけの為に重い腰をあげにくい。何かのついでに、配偶者がいない時にきっかけがあると良いかと。	男性
支援が手厚すぎると偽装離婚等が増えるので注意して下さい。	男性
一概にこれとは言えませんが、より良く市民みんなが住みやすい吉川市にしてもらいたいです。	女性
男女共同や平等に関して、全てのことが平等になることは難しいのではと感じており、市として取り組む教育や家庭問題に関しては平等を目指してほしいが、男女差がある部分（体力面、力量は男性優位だったり、精神的な細やかな女性が得意な人が多いなど）を上手に掛け合わせて思いやりのある協力し合える社会になると個人的には良いと思います。	女性
こども食堂など貧困世帯に対する支援を拡充していく必要を感じます。また、流山の例をとり子育て世代が魅力に感じる市政を確立し、吉川市の人口増加、市の充実を図ってゆくことで中長期でみて市が潤っていくものと考えています。	男性
今回のアンケートで知らなかったことがたくさんあることがわかりました。 普段市役所や公共施設に出向くことが減多にないので、もっと人の目につきやすいスーパーやショッピングモールや駅などに広く提示したら、助けを求めて人に情報が繋がりがやすい気がしました。 また窓口に出向くのもちょっとハードルが高いので、取り急ぎラインやメール、ホームページ・ウェブサイト上で問い合わせだけでも無記名で出来たら、少しだけハードルが下がるような気がします。	女性
困難な状況に置かれている人を助ける、補助することには賛成だが、女性だから助けるというのはしっくりこない。また、人の意識改革は困難でありコスト対効果も漠然としているため、直接的な被害のあるハラスメント、DVの通報をしやすくする、保護の充実を優先し、警察などと連携を強化するほうが効果があると思う。保護する職員の権限の引き上げ等も考えられる。	男性
男女平等と言っておきながら女性への焦点ばかりで男性への支援に触れていないのは違和感がある。性別にとらわれずに問題を抱える人たちに寄り添う社会であって欲しい。	女性
母子家庭。離婚時に子供たちと持ち家から出る形（出される形）となり、賃貸住まい。吉川市も家賃や駐車場代が上がっており、家賃補助があれば助かります。	女性
東京都小池知事やマイクロソフト社の津坂社長のような、リーダーシップを発揮している女性からの意見を聞くのはどうでしょうか？お二人とも、世の中でいう成功している方々ですが、女性として色々な壁を乗り越えて、今の立場にあると考えるため、困難な問題を抱える女性へ刺さるメッセージを受けれると思います。	男性

【50歳代】

内容	性別
身内がなく、小さな子供を抱える女性や病気で仕事ができない方へは支援してあげてほしいです。離婚で子どもを抱えている女性には相手（元夫）への確実な養育費の請求（増額）の支援を要望したいです。	男性
質問が多すぎる。15分ではおわらない。 答えのないものは書けない。 まじめによんだら半日はすぎる。字が小さい。見えにくい。 考えてよんだら二日すぎて、家事がつんだ。 片付けがおわらないで二日すぎた。	女性

男・女とか言っているうちは、何も進まない 人は人です 私は女性に騙されて、今生活がきつい やれることをやる	男性
離婚等で経済的な困難をかかえている女性は多いと思われますので、義務教育未修了の人・家庭など日常生活・社会生活が円滑に送れる支援の充実。女性賃金の増加。（市内の工場勤務の時給増加。安くておどろきました）	女性
アンケートをとるだけではなく実際に行動を起こしてムダにしないようにしてほしい	女性
私の考えとしては比較的女性は優遇されていることが多いと思う。中でも子がいる母親に対しての補助はかなり優先して見直されてると思う。 子がいらない女性に対しての支援などは考えているのでしょうか。金銭面含め困難な問題を抱えてるのは母親だけではないことを認識したうえで支援を考えてほしい。またどの年齢に対しても、個々が望む支援を受けられるようにすることが平等につながるのではと思います。「既婚未婚の子なし女性」も生きやすい吉川市になることを強く期待します。	女性
相談しやすい専門窓口をネット対応で24時間受付など…窓口に行って受付や手続きなどをなくし、メールなど活用して即対応、アドバイスできるようなことをしてほしい。（全般的に女性に限らず、さまざまな事案対応も含め）	男性
「男女共同参画」という言葉がわかりにくい。	女性
小中学生の男子の子どもと避難できるシェルターの確保、無力感から相談できない女性の把握と支援、妊娠期からの継続的な支援、知的障がいを持つ女性への相談支援。これらがより必要ではないかと思います。インターネット回答ができればうれしい。	男性
市政をわかりやすく、実行している“こと”を周知しないの意味なし。企業と協力して、アナログだが掲示板を人の目につくところに設置（年配者用）。市内のスーパー、駅、バス、タクシーの広告スペースを使う。SNSは必須です。役所の20～30代スタッフを活用して。	男性
・まず平等なら問題を抱えている男性への支援がない理由を明確に ・力仕事とお茶入れのような男性的・女性的に庶務的業務が会社内で理解、尊重しあえるような職場は理想的にかんじる ・家庭でもやりたくない家事を夫婦で折り合いをつけて思いやりながら協力し合えるように、それぞれの家庭なりの手法でできれば理想だと思う。	女性
支援してる事を知るプロセスが少ないように思います。 女性からの要望を待つのではなく、いろんな形でのアプローチをしたら、問題を抱えている人も話しやすくなるのではと思います。	女性
パートナーシップ制度に反対します。 仲いい者同士、勝手に同居すればいいだけの話。制度として事務作業を増やす(市が費用をかける)必要はありません。	男性
市では様々な相談が出来る機会を定期的にもうけていますが、全てとは言いませんが形だけの様な印象を受けました。今回のアンケート内容とは異なる問題で2度ほど弁護士相談を申し込み利用しましたが法律的な事を教えてくださるだけで、具体的な解決策は頂けませんでした。利用者としてはそこを期待していました。その様な経験から自分の抱える今回のアンケート内容の問題につきましては、『人に相談しても無駄』と思い誰にも相談することなく耐える日々が続きました。実際被害に遭われている方に必要なのは解決策、支援だと思います。相談しても解決できなければ意味がありません。そちらを踏まえて対策されるとよいかと思います。	女性
女性の、給料が、低いと、思います。 高齢者が、態度が、おおきいと、おもいます、	女性
何をしているのかさっぱり分からないので情報共有、公開	男性
女性を上げすぎです。 日本の文化は悪く無い。 市長、議員、公務員はこんなくだらなく、金がかかることをするなら、住民税や市の税は払わないよ。公務員たる物は国民の為、市政の為に犬になれ。 こんな調査に金をかけるなら、市長自ら汗をかき、アンケートに廻りなさい。草になるんだよ。出来ない公務員は退職しろ。 これって表示出来ない文字があったりして、アンケートとは言えません。	男性

教育現場で男女平等を学ぶのはいいことですが、やはり家庭環境が1番影響があると思います。大人が変わっていかないとなかなか難しいことと思います。子供が産まれる前の両親学級などで、何か学びの場となれば少しでも子育てに生かされて男女平等の世の中に近づくことができないかとも思います。	女性
---	----

【60歳代】

内容	性別
困難な問題→本当に必要な人には手をさしのべるべき。うその申請をしている人も多数いるので、しっかりみきわめて欲しい。 母子家庭→実は元夫とかいたりする。	女性
男女共同参画と言う言い方が早くなることを期待します。	男性
男女共同参画、困難な問題、女性への支援に対して解決したこと・取り組んでいることなど発信して市民に伝えてほしい。	男性
・今現在、結婚生活はしていても、共働きで奥さんにすごく負担が多いし、子供が小学生とかで育児についてもゆがみが影響するとか。世間全般が効率を求めてハイスピードで低コストで進んでいるが、携帯電話使えない老人や感情無視した育児とか。大事な事は時間がかかるという事も考えて欲しい。 ・全般に、無職で、その上生活費に困らないので、介護の事で忙しく、あまり世間を知らないです（パートしてないし）。 ・問13、14については、私の娘や友人の話では、男→女のDVなど聞いたことがあります。実の娘がDVもどきのおどされる様な結婚生活を続けているので、何回もメールで相談は受けています。 ・問16の2、私が別居して吉川市民になっても、娘（吉川市民で近所）からめだつ様な行動はしない様に言われている。 ・結婚生活は、どれだけ上手にコミュニケーションがとれるか…なので、安易に結婚するのではなく、その前段階として、色々な協力ができる夫なのか？その様なチェックリストや勉強期間とか大事だと思う。 ・デンマークや北欧、ヨーロッパなど参考にして欲しい。 ・吉川市役所に行って、DVの相談電話のカードは見た。あちこちにお知らせカードがあるのは良いと思う。ただ、電話してもつながらない。話し中だった。 ・無作為に女性30歳から40歳位を対象に、このアンケートをやってみると良いと思う。 ・この様なアンケートを実施しているのは、すばらしいと思う。考えや気づきになりました。ありがとうございます。	女性
私は60代で、会社員になった頃は女性の賃金も低く、高卒、短大卒で就職しないと嫁のもらい手がないと言われ、多くのことをあきらめて来ました。そのツケが、今女性が生きていく上での困難を多く抱える結果となっていると思います。 私達の年代が、今の若い方達を批判するのではなく、むしろ応援していくことが大切だと思います。しかしまだまだ古い考えの方が多いと感じます。意識改革をすすめていく啓蒙活動が大切であると思います。地道にコツコツ。	女性
今生保を受けていますが家賃や生活費が高くもう少し上げて欲しい	女性
吉川市がファミリーシップ、パートナーシップを導入していたとは知らなかったもので、導入されていると聞いて感心しました。多様性の時代です。これからも色々がんばって下さい。	女性
このアンケートは、女性向けなのではないですか？男性の考えが聞きたいからですか？	男性
設問に対しての答え方がおかしいと思います。それと女性目線の設問が多いのがおかしいと思います。男女関係なくすぐれた人が優遇されれば良いと思います。	男性
男女共同参画、男女平等においては非常に難しい課題が多いと思うが今回のような調査を通じてその内容を基に、市として可能な取り組みを少しずつでも行っていただければ徐々に住みよい暮らし良い街づくりが出来ると思います。ただ職場等との関連についてはその企業それぞれの課題や問題もあろうと思いますし、取組はそれぞれ行っておられると思いますが育児や家事への理解あるいは労働時間などの帳面する問題は国や都道府県とも連携し取り組みが必要な課題と思われます。 あた個人としても常に意識を持ち古い考えや偏った習慣などにならないように家庭内での会話や近隣の会話などを通じ改善を図っていけるよう取り組んでいきたいと思っています。私自身としては女性への支援に関わらず高齢の方々やお子さん。自動、学生への取り組みも常に意識していきたいと思っています。	男性

男女共同参画より少子化対策に力を入れてください	女性
行政の窓口が話しやすく、相談しやすい機関であってほしいと思う。	女性
毎日やりくりして生活するのが精一杯で男女共同参画・困難な問題への意識が全くない現状。自分が若い時は高齢者への対策が充実し自分が高齢者になると子育て世代が優遇され抜け落ちた世代。生きるのに必死。老若男女が住みやすい日本になると良いです。	女性
学校で法律を教えるだけでなく、大人の一般市民にも様々な最新の法律を学ぶ機会を作ることが重要と思います。また配偶者からの暴力など困難に直面している人には相談施設を充実させるとともに加害者への罰則など現法律を徹底して理解してもらう必要があるでしょう。罰則を厳しくすることも考慮する必要があるかもしれません。	女性
男女共同参画問題よりも物価対策、後期高齢者の医療費補助、低所得者の生活補助、低所得者への減税もしくは減免を優先すべき。	男性

【70歳以上】

内容	性別
女性と男性では根本的な相違があり、物の見方・考え方のちがいがある。要するに、男女共同とは、1人1人の人間性の問題だと思う。	女性
一般的社会の動きは、Media等により把握しているが、吉川市の施策の詳細については解っていない。個人的に特に問題がないので、切実な行政の支援を必要としていないであろうから。	男性
生活は楽ではないが、介護施設に月に17, 18日行ける。認知症が進まず、今のままがまだ行ける。市に感謝している。	男性
安心に住みやすい所でありたいと思います。	女性
・困窮母子世帯の実態を具体的にアナウンスして欲しい。（収入・働き方、仕事のかげ持ち等） ・低料金で長時間、あるいはサービス業の人のために、土・日も預けられる施設をたくさん作って欲しい。	男性
なぜ男性への支援もないのでしょうか。女性から男性への支援もあってよいのではないかと。男女平等こそが真の平等なので、男・女とわけず人間同士だということを頭に入れておけば差別など出ないはずでは。出来ないから調査が必要になってくるんですね。	男性
題を抱える女性をより一層支援するためには、相談窓口をもっとわかり易くPRすべきである。また、市役所入口前に看板を設置することも検討してほしい。 加えて、各家庭にチラシを配付したり、「広報よしかわ」では、わかり易くするために文字を大きく（ゴシック体）して記載し、周知徹底すべきである。	男性